TOSHIBA

地上·BS·110度CSデジタルハイビジョンチューナー内蔵

地上・BS・110度CSデジタル ハイビジョン液晶テレビ取扱説明書

形名 26C1000
32C1000
37C1000

- 必ず最初にこの「準備編」をお読みください。
  安全上のご注意、設置、接続、設定などについて説明しています。

準備編

- このたびは東芝テレビをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
  お求めのテレビを安全に正しく使っていただくため、お使いになる前にこの取扱説明書「準備編」と別冊の「操作編」、「資料編」をよくお読みください。
  お読みになったあとは、いつも手元に置いてご使用ください。

もくじ(準備編)

ご使用の前に

設置と基本の接続・設定

他の機器をつなぐ

個別に設定をするとき

その他

この取扱説明書内のマークの見かた

参照していただきたい情報が記載されているページの番号を示しています。

取扱上のご注意を記載しています。

機能などの補足説明、参考にしていただきたいこと、制限事項などを記載しています。

● この取扱説明書は、26C1000、32C1000、37C1000で共用です。使用しているイラストは32C1000のものです。26C1000、37C1000はイメージが多少異なります。また、26C1000は一部の仕様が異なります。

※ 以下は別冊のもくじです。(操作編もよくお読みください)

もくじ(操作編)

はじめに

テレビを見る

便利な機能を使う

録画・予約をする

お好みや使用状態に合わせて設定する

その他

安全上のご注意

商品および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。
次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

【表示の説明】

表　示	表示の意味
警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡、または重傷[＊1]を負うことが想定されること”を示します。
注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害[＊2]を負うことが想定されるか、または物的損害[＊3]の発生が想定されること”を示します。

＊1： 重傷とは、失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2： 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど・感電などをさします。
＊3： 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

【図記号の例】

図記号	図記号の意味
禁　止	“⃠”は、禁止(してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
指　示	“●”は、指示する行為の強制(必ずすること)を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
注　意	“△”は、注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

警告

異常や故障のとき

■ **煙が出ている、変なにおいがするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認し、お買い上げの販売店にご連絡ください。

プラグを抜け

■ **画面が映らない、音が出ないときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く**

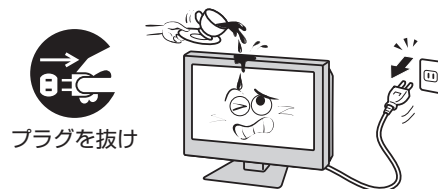
そのまま使用すると、火災の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

プラグを抜け

⚠ 警告

異常や故障のとき つづき

■ 内部に水や異物がはいったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
お買い上げの販売店に、点検をご依頼ください。

■ 落としたり、キャビネットを破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
キャビネットが破損したままで取り扱うと、けがのおそれがあります。
お買い上げの販売店に、点検・修理をご依頼ください。

■ 電源コードや電源プラグが傷んだり、発熱したりしたときは、本体の電源ボタンを押して電源を切り、電源プラグが冷えたことを確認し、コンセントから抜く

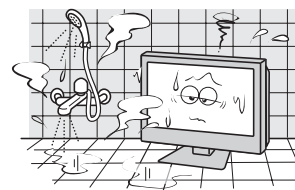
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
電源コードや電源プラグが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

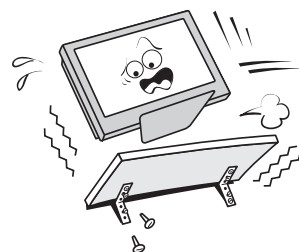
設置するとき

■ 本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

■ 屋外や浴室など、水のかかるおそれのある場所には置かない

火災・感電の原因となります。

■ ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない

テレビが落ちて、けがの原因となります。
水平で安定したところに据え付けてください。
テレビ台を使用するときは、その取扱説明書もよくお読みください。

■ 振動のある場所に置かない

振動でテレビが移動・転倒し、けがの原因となります。

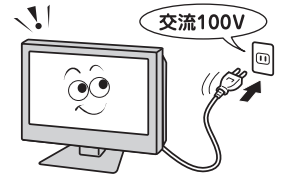
安全上のご注意 つづき

⚠警告

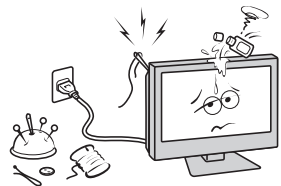
設置するとき つづき

■ 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込む

● 交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。
● 差し込みかたが悪いと、発熱によって火災の原因となります。
● 傷んだ電源プラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

指　示

■ 上にものを置かない

● 金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体が内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
● 重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。

上載せ禁止

■ 壁に取り付けて使用する場合、壁掛け工事は、お買い上げの販売店に依頼する

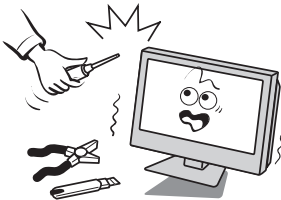
工事が不完全だと、けがの原因となります。
別売の壁取付チルト金具 21 をご使用ください。

指　示

使用するとき

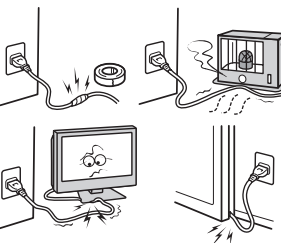
■ 修理・改造・分解はしない

内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因となります。
内部の点検・調整および修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

分解禁止

■ 電源コード・電源プラグは、

● **傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したり（熱器具に近づけるなど）しない**
● **引っ張ったり、重いものを載せたり、はさんだりしない**
● **無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない**

火災・感電の原因となります。

禁　止

■ 異物を入れない

通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
特にお子様にはご注意ください。

異物挿入禁止

■ 雷が鳴りだしたら、テレビ・電源コード・アンテナ線・電話機コード・LANケーブルに触れない

感電の原因となります。

禁　止

⚠ 警告

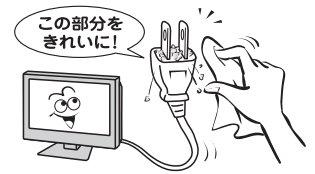
使用するとき つづき

■ **包装に使用しているビニール袋でお子様が遊んだりしないように注意する**

かぶったり、飲み込んだりすると、窒息のおそれがあります。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

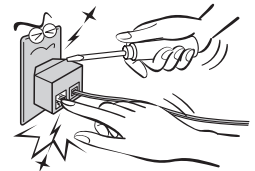
お手入れについて

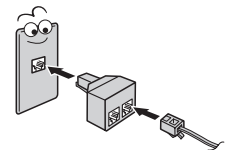
■ **ときどき電源プラグを抜いて点検し、刃や刃の取付け面にゴミやほこりが付着している場合は、きれいに掃除する**

電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。

⚠ 注意

モジュラー分配器を使うとき

■ **モジュラー分配器や電話機コードの端子に触れたり、分解や改造をしたりしない**

電話回線には直流電圧がかかっています。ダイヤル時などに強い衝撃電流が流れるため、感電の原因となることがあります。

■ **正しく接続する**

正しく接続しないと、本機や他の機器の故障および火災の原因となることがあります。

設置するとき

■ **温度の高い場所に置かない**

直射日光の当たる場所やストーブのそばなど、温度の高い場所に置くと火災の原因となることがあります。
また、キャビネットの変形や破損などによって、感電の原因となることがあります。

■ **湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない**

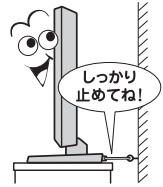
加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となることがあります。

安全上のご注意 つづき

⚠注意

設置するとき つづき

■ 転倒防止の処置をする

転倒防止の処置をしないとテレビが転倒し、けがの原因となることがあります。
転倒防止のしかたは 20☞ をご覧ください。

■ 通風孔をふさがない

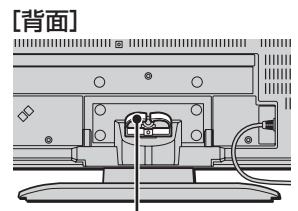
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 壁に押しつけないでください。（10cm以上の間隔をあける）
- 押し入れや本箱など風通しの悪い所に押し込まないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- じゅうたんや布団の上に置かないでください。
- あお向け・横倒し・逆さまにしないでください。

■ 移動したり持ち運んだりする場合は、

- **離れた場所に移動するときは電源プラグ・アンテナ線・機器との接続線および電話機コードや転倒防止をはずす**
  はずさないまま移動すると、電源コードが傷つき火災・感電の原因となったり、テレビが転倒してけがの原因となったりすることがあります。
- **包装箱から出すとき、持ち運ぶときは、2人以上で取り扱う**
  ひとりで取り扱うと、からだを痛めたり、テレビを落としてけがをしたりする原因となることがあります。

- **車（キャスター）付きのテレビ台に設置している場合、移動させるときは、テレビ台の受け皿を取り除いて、テレビを支えながら、テレビ台を押す**
  テレビを押したり、テレビを支えていなかったりすると、テレビが落下してけがの原因となることがあります。
- **衝撃を与えないように、ていねいに取り扱う**
  テレビが破損してけがの原因となることがあります。

■ テレビを持つときは、コードクランパーを手かけとして使用しない

コードクランパーを持つと、テレビが落下してけがの原因となることがあります。本体部分を持ってください。
コードクランパーは配線の整理に使います。16☞ をご覧ください。

■ 車（キャスター）付きのテレビ台に設置する場合は、キャスターが動かないように固定する

固定しないとテレビ台が動き、けがの原因となることがあります。
畳やじゅうたんなど柔らかいものの上に置くときは、キャスターをはずしてください。

⚠注意

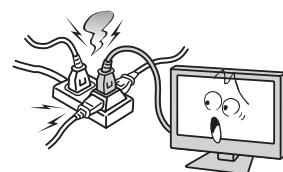
使用するとき

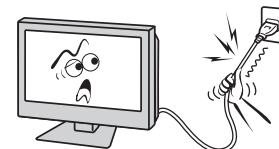
■ テレビ台を使用するときは、

- 不安定な台を使わない
- 片寄った載せかたをしない
- テレビ台のトビラを開けたままにしない

倒れたり、破損したり、指をはさんだり、引っ掛けたりして、けがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない

タコ足配線をしないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張って抜かない

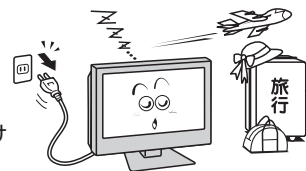
電源コードを引っ張って抜くと、電源コードや電源プラグが傷つき火災・感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

■ テレビやテレビ台にぶら下ったり、上に乗ったりしない

落ちたり、倒れたり、こわれたりしてけがの原因となることがあります。
特にお子様にはご注意ください。

■ 旅行などで長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。
本体やリモコンの電源ボタンを押して画面を消した場合は、本機への通電は完全には切れていません。本機への通電を完全に切るには、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ ヘッドホーンやイヤホーンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

安全上のご注意 つづき

⚠注意

使用するとき つづき

■ **液晶テレビの画面をたたいたり、衝撃を加えたりしない**

ガラスが割れて、けがの原因となることがあります。
もしも、ガラスが割れて液晶（液体）がもれたときは、液晶に触れないでください。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服などについたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
床や周囲の家具、機器などについたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

■ **リモコンに使用している乾電池は、**

- **指定以外の乾電池は使用しない**
- **極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない**
- **充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れたりしない**
- **表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない**
- **種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない**

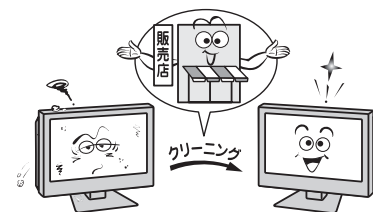
これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。
もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。
衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。
器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

お手入れについて

■ **お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く**

感電の原因となることがあります。
お手入れのしかたは操作編 52 をご覧ください。

■ **1年に一度くらいは内部の清掃を、お買い上げの販売店にご相談ください**

本体の内部にほこりがたまったまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。内部清掃費用については、お買い上げの販売店にご相談ください。

使用上のお願いとご注意

取扱いについて

- ご使用中、製品本体で熱くなる部分がありますので、ご注意ください。
- 引越しなど、遠くへ運ぶときは、傷がつかないように毛布などでくるんでください。また、衝撃・振動をあたえないでください。
- 本機に殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 電源プラグは非常時と長期間ご使用にならないとき以外は、常時コンセントに接続してください。(番組情報を取得するためです)
- 液晶テレビではテレビゲームをお楽しみいただけますが、光線銃などを使って画面を標的にしたゲームでは、原理上使用できません。
  また、外部入力(ビデオ入力1 ～ 3、HDMI入力)の映像や音声には若干の遅れが生じます。以下の場合にはこの遅れによる違和感を感じることがあります。
  - ゲーム、カラオケなどを接続して楽しむ場合
  - DVDやビデオなどの音声を、直接AVアンプなどの外部機器に接続して視聴する場合

蛍光管について

- 本機内部に使用している蛍光管には寿命があります。
  画面が暗くなったり、チラついたり、点灯しなくなったりしたときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

録画・録音について

- ビデオなどに録画・録音する際は、事前に試し録画・録音をして、正しくできることを確かめておいてください。
- 著作権保護のため、コピーが禁止されている番組は、録画をすることはできません。また、著作権保護のため一世代のみ録画が許された番組(コピーワンスプログラム)は、録画した番組をさらにコピーすることはできません。

本機を廃棄、または他の人に譲渡するとき

- 「すべての初期化」63をして、暗証番号や双方向サービスの情報(お客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数など)なども含めて、初期化することをお勧めします。
- B-CAS(ビーキャス)カードの登録廃止、登録名義変更などについては、(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズにお問い合わせください。(カードが貼ってある説明書の表と裏をよくお読みください)
- **一般の廃棄物といっしょにしないでください。**
  ごみ廃棄場で処分されるごみの中にテレビを捨てないでください。
  本機の内部で使用している蛍光管の中には水銀が含まれています。廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

著作権について

- **あなたが録画・録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、権利者の許諾なく、録画・録音したものを複製・改変したり、インターネットなどで送信・掲示したりすることは著作権法上禁止されています。著作権法違反によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いませんので、ご理解のほどお願いします。**
  なお、著作権法違反は刑事処罰を受けますので自己責任の下でご利用ください。
  たとえば、以下の行為は違反になりますのでご注意ください。
  - **録画した番組を自分のホームページで見られるようにする。**
  - **録画した番組をメールやメッセンジャーサービスなどで他人に送る。**

  また、以下の行為も著作権法違反となるおそれがありますのでご注意ください。
  - **番組を録画したビデオテープやDVDなどの媒体を友人に貸す。**
- 本製品は、マクロヴィジョン社ならびに他の権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権で保護された著作権保護技術を採用しています。
  この著作権保護技術の使用は、マクロヴィジョン社の許可が必要で、また、マクロヴィジョン社の特別な許可がない限り家庭用及びその他一部の観賞用の使用に制限されています。分解したり、改造したりすることも禁じられています。

免責事項について

- 地震・雷などの自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(事業利益の損害、事業の中断、視聴料金の損失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 録画・録音機器に正しく記録(録画、録音など)できなかった内容の補償、および付随的な損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 他の接続機器との組合せによる誤動作や動作不能、誤操作などから生じた損害(録画機器などの故障、録画内容の変化・消失など)に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 誤操作や静電気などのノイズによって本機に記憶されたデータなどが変化・消失することがあります。これらの場合について、当社は一切の責任を負いません。
- 故障・修理のときなどに、データ放送の双方向サービスなどで本機に記憶されたお客様の登録情報やポイント情報などの一部あるいはすべてが変化・消失した場合の損害や不利益について、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

必ずお読みください

■ デジタル放送の番組情報取得について

- **番組情報を取得するために、番組情報取得設定を「取得する」(操作編 37☞)にして、毎日2時間以上本機の電源を「待機」にしておくことをお勧めします。**(番組表の内容が表示されないときは、「番組情報の取得」(操作編 17☞)で情報を取得・更新することができます)

> • デジタル放送では、番組情報(番組名や放送時間など)が放送電波の中にはいって送られてきます。
> 本機は、電源が「待機」のときに番組情報を自動的に取得して、番組表表示や番組検索、予約などに使用します。
> 電源が「入」のときにも番組情報は取得しますが、視聴中のデジタル放送以外の放送の番組情報は取得できない場合があります。(デジタル放送の種類や本機のご使用状態によって、取得できる内容は異なります)
> • 本体の電源ボタンで電源を「切」にした場合や、電源プラグを抜いている場合、および番組情報取得設定を「取得しない」に設定している場合(操作編 37☞)には、番組情報は取得できません。番組情報が取得できていない場合には、番組表が正しく表示されなかったり、番組検索や録画予約などができなかったりすることがあります。

■ お客様登録をしてください

- ダウンロード(操作編 38☞)のお知らせをお送りすることなどを目的としたお客様登録をお願いしています。
同梱の「お客様登録のお願い」をご覧の上、インターネットでお客様登録をしてください。
「お客様登録のお願い」のハガキでもお客様登録ができます。

■ お問い合わせ先について

- 受信契約など放送受信については、各放送事業者にお問い合わせください。(付属の「ファーストステップガイド」をご覧ください。冊子名「ファーストステップガイド」は 2006年2月現在のものです。将来は変更される可能性があります)

■ 同梱のB-CAS(ビーキャス)カードについて

- B-CASカードは、常に本体に挿入しておいてください。 21☞
※ B-CASカードは、デジタル放送の受信に必要です。
B-CASカードの登録や取扱いの詳細は、カードが貼ってある説明書をご覧ください。
- カードの破損、紛失、盗難などの場合、および本機の廃棄などでカードが不要となった場合などは、(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズ(カードが貼ってある説明書を参照)にご連絡ください。

■ デジタル放送の録画について

- 地上／BSデジタルテレビ放送局は、著作権保護のために電波に「1世代のみ録画可能」のコピー制御信号を加えて放送しています。(2006年2月現在)
これによって、デジタル録画機器に録画した番組を他のデジタル録画機器にコピーすることはできなくなります。
詳しくは録画機器の取扱説明書をご覧ください。

■ 本機の現在時刻の表示(操作編 18☞ の図を参照)について

- デジタル放送を視聴していない場合は、現在時刻表示のずれが大きくなる場合があります。

> 本機は、デジタル放送から現在時刻を取得しています。
> デジタル放送を受信していない場合は、補助的にインターネット(iNETサーバー)から時刻情報を取得します。

- デジタル放送を受信しない場合で、本機をインターネット回線に接続していない場合は、本機の現在時刻表示はできません。
  - インターネット回線に接続するには、ADSL、ケーブルテレビなどのインターネット回線事業者および接続業者(プロバイダー)との契約が必要です。契約、費用などについては、お買い上げの販売店または接続業者などにご相談ください。
  - 本機でインターネット回線が使用できるのは、イーサネット通信のみです。ダイヤルアップやISDNなどには対応していません。

■ 地上アナログ放送の番組表や番組情報を使用した機能について

- 本機は、DEPG™(Dynamic Electronic Program Guide)システムによる地上アナログ放送の番組表機能を搭載しています。これによって、デジタル放送だけでなく地上アナログ放送でも以下の機能が使えます。
  - 番組表をテレビ画面に表示させて、選局や視聴予約をする(操作編 13☞、操作編 26☞)
  - 裏番組リストを使う(操作編 16☞)
  - 番組情報や番組説明を見る(操作編 18☞)
  - ジャンルなどを指定して番組を検索する(操作編 15☞)
- 地上アナログ放送の番組表や裏番組リストを見るには、インターネットへの常時接続・設定 26☞ とチャンネル設定(29☞ または 44☞)が必要です。

取扱説明書(本書および別冊の操作編、資料編)について

- 記載されているテレビ画面表示は、実際に表示される画面と文章表現などが異なる場合があります。画面表示については実際のテレビ画面でご確認ください。
- 受信画面の図などに記載されている番組名などは架空のものです。
- 記載されている機能の中には、放送サービス側がその運用をしていない場合には使用できないものがあります。
- 画面に表示されるアイコン(絵文字や絵記号)については、「アイコン一覧」(操作編 49)をご覧ください。
- 本書および別冊の操作編と資料編では、以下の略語を使用しています。

略　語	意　味
デジタル放送	地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送
地上A、地上アナログ	地上アナログ放送
地上D、地上デジタル	地上デジタル放送
BS	BSデジタル放送
110度CS、CS	110度CSデジタル放送
ビデオレコーダー (東芝RDシリーズ)、ビデオレコーダー、RDシリーズ	東芝製HDD&DVDビデオレコーダー
LAN端子	LAN(10BASE-T/100BASE-TX)端子

ソフトウェアの更新について

- お買い上げ後、より快適な環境でお使いいただくために、本機内部のソフトウェア(制御プログラム)を更新する場合があります。
  本機の自動ダウンロード機能を「する」の状態に設定しておくと、放送電波で送られるソフトウェアを本機が受信し、自動的にソフトウェアを更新することができます。(お買い上げ時は、「する」の状態に設定されています)
  ソフトウェアの更新や自動ダウンロードについては、操作編 38 をご覧ください。

インターネットで情報を・・・

- ホームページに最新の商品情報やサービス･サポート情報、その他のお知らせなどを掲載しておりますので、ご覧ください。

  ■ http://www.toshiba.co.jp/product/tv/

  ※ 上記アドレスは予告なく変更する場合があります。このような場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ(http://www.toshiba.co.jp/)をご覧ください。
- 東芝総合ホームページからもさまざまな情報を提供しています。

放送、通信サービスについて

- 放送や通信サービス(インターネットを利用した地上アナログ放送の番組表、その他の通信サービスなど)は、お客さまへの予告なしに、放送事業者や通信事業者などによって一時的に中断したり、内容が変更されたり、サービス自体が終了されたりする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

準備（接続・設定）早わかり

● 以下は、テレビを視聴できるようになるまでの基本的な準備の流れです。
外部機器を接続して楽しむ場合の準備については、「本機に接続できる外部機器一覧」35 をご覧ください。

1 お客様登録をする　12ページ

▼

2 付属品を確認する　15ページ

▼

3 リモコンに乾電池を入れる　19ページ

▼

4 テレビの設置、接続、設定をする　20 ～ 34 ページ

● テレビの設置をする …… 20 ～ 21ページ

項目	地上A	地上D	BS	CS	ページ
● B-CAS（ビーキャスカード）を入れる	※1	○			21ページ
● アンテナ線の接続と設定をする	○				22~24、27~28ページ
● 「電話回線の接続」をする	×	※2	※2、3		25ページ
● 「LAN端子の接続」をする	※4	※5			26ページ
● 「はじめての設定」をする	○				29 ～ 34ページ

○は必要、×は不要を示します。
※印の番号は、下の「お知らせ」をご覧ください。

▼

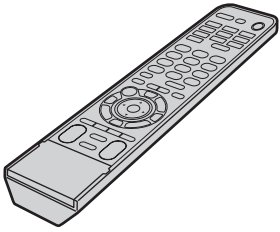
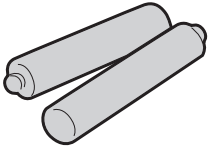
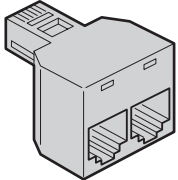
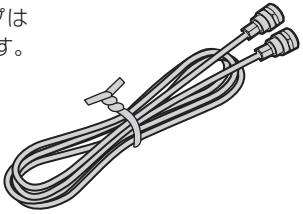
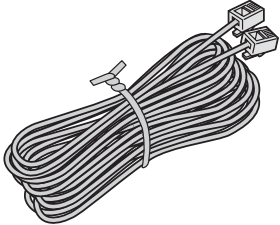
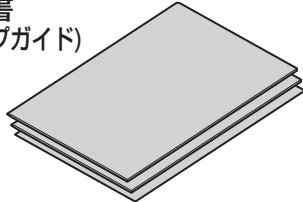
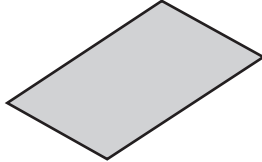
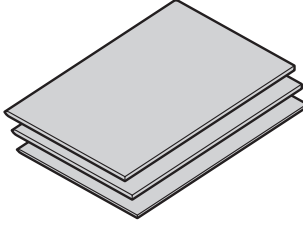
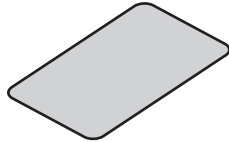
5 B-CAS（ビーキャス）カードの登録をする

● B-CASカードが貼ってある説明書をご覧ください。

▼

6 受信契約をする

● 付属のBS・110度CSデジタル放送受信契約申込書をご覧ください。

※ B-CASカードの説明書についている「加入申込書用バーコードシール」を受信契約申込書に必ず貼ってください。

※1 … 地上アナログ放送だけを視聴する場合はB-CASカードは不要ですが、デジタル放送を視聴する場合にそなえて本機に入れておくことをお勧めします。
※2 … デジタル放送で、電話回線を使用した双方向サービスを利用する場合に必要です。（地上デジタル放送では、番組によってはダイヤルアップ通信が使われることがあります）
※3 … ペイ・パー・ビュー番組（有料番組）を視聴する場合に必要です。（2006年2月現在、本機が対応している放送でペイ・パー・ビュー番組は放送されていません）
※4 … 地上アナログ放送の番組表を使う場合に必要です。
※5 … デジタル放送で、イーサネット通信を使用した双方向サービスを利用する場合に必要です。

付属品

● 本機には以下の付属品があります。お確かめください。

付属品/名称	付属数
リモコン(CT-90250)	1個
単四形乾電池(R-03)	2個
モジュラー分配器	1個
同軸ケーブル(1.5m) ● 先端のキャップははずして使います。	1本
電話機コード(10m)	1本

付属品/名称	付属数
BS・110度CSデジタル放送受信契約申込書 (ファーストステップガイド) ● 冊子名「ファーストステップガイド」は2006年2月現在のものです。将来は変更される可能性があります。	1 式
「お客様登録のお願い」のハガキ	1枚
取扱説明書 準備編(本書) 操作編 資料編	各1部
B-CAS(ビーキャス)カード ● B-CASカードはカードの説明書に付いています。 ※ B-CASカードは、(株)ビーエス・コンディショナルアクセスシステムズから供給されたものを同梱しています。	1枚

各部のなまえ

- イラストは、見やすくするために誇張、省略しており、実際とは多少異なります。
- 詳しくは[ ]内のページをご覧ください。（代表的なページを示しています）
- 外部機器をつなぐ場合は、「本機に接続できる外部機器一覧」[35]をご覧ください。

右側面

B-CASカード挿入口 [21]

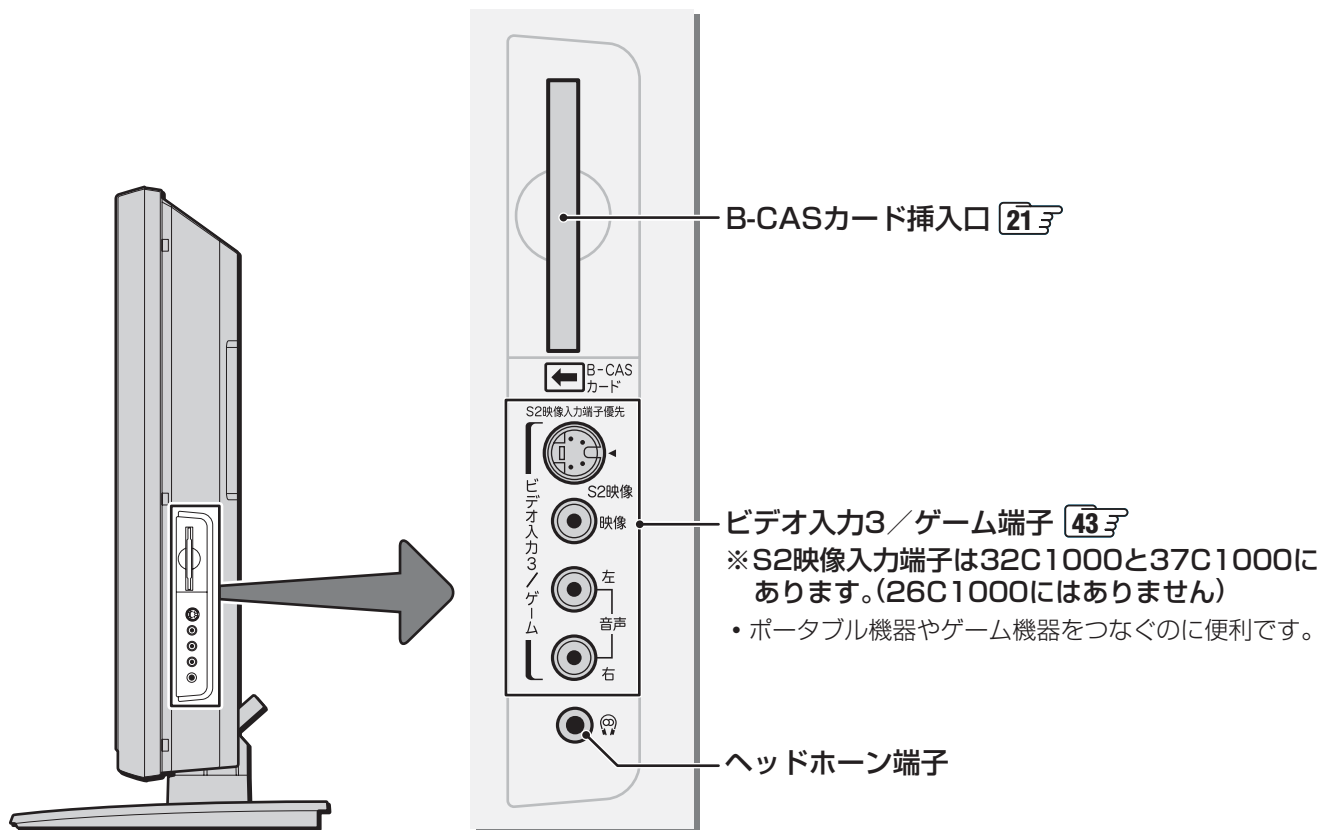
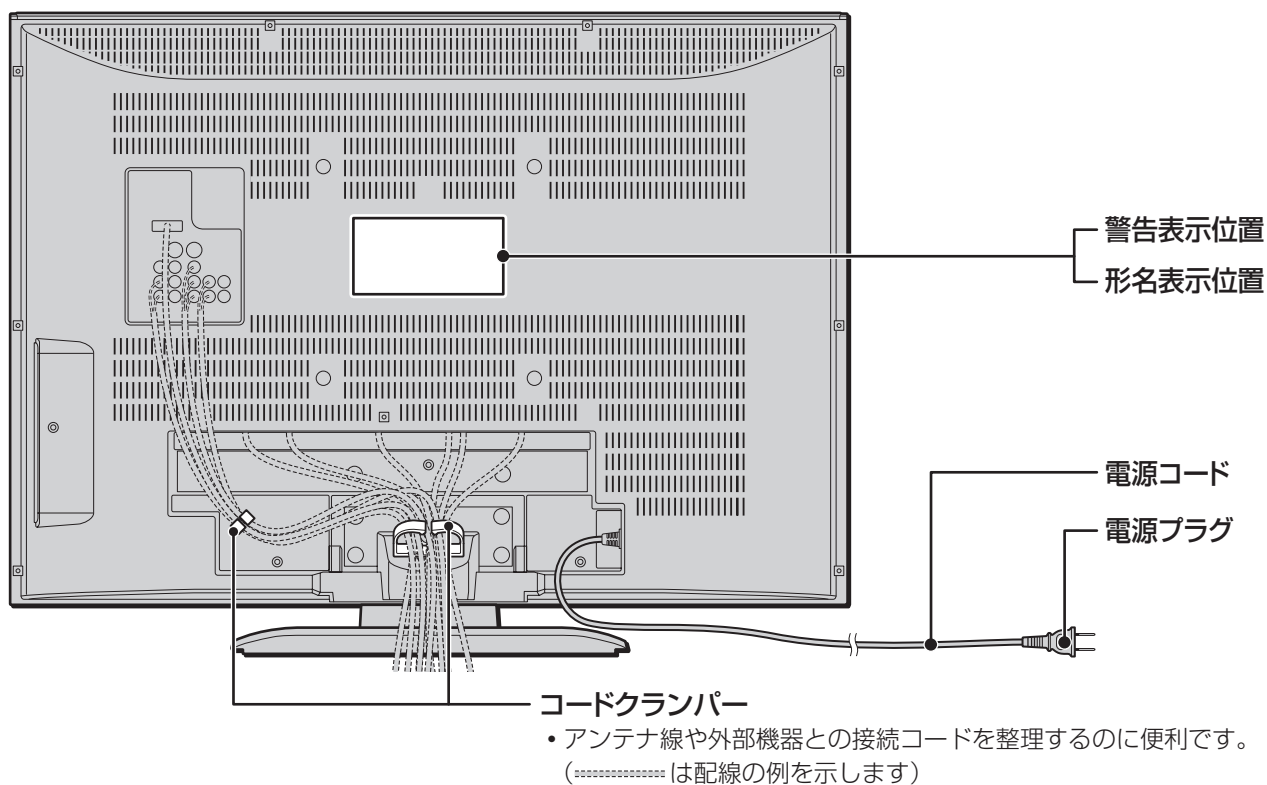
B-CAS
カード

S2映像入力端子優先
S2映像
映像
左
音声
右
ビデオ入力3／ゲーム

ビデオ入力3／ゲーム端子 [43]
※S2映像入力端子は32C1000と37C1000にあります。（26C1000にはありません）
- ポータブル機器やゲーム機器をつなぐのに便利です。

ヘッドホーン端子

背面

コードクランパー
- アンテナ線や外部機器との接続コードを整理するのに便利です。
（┈┈┈┈ は配線の例を示します）

背面の入出力端子

D4映像入力端子 36
（ビデオ入力1）

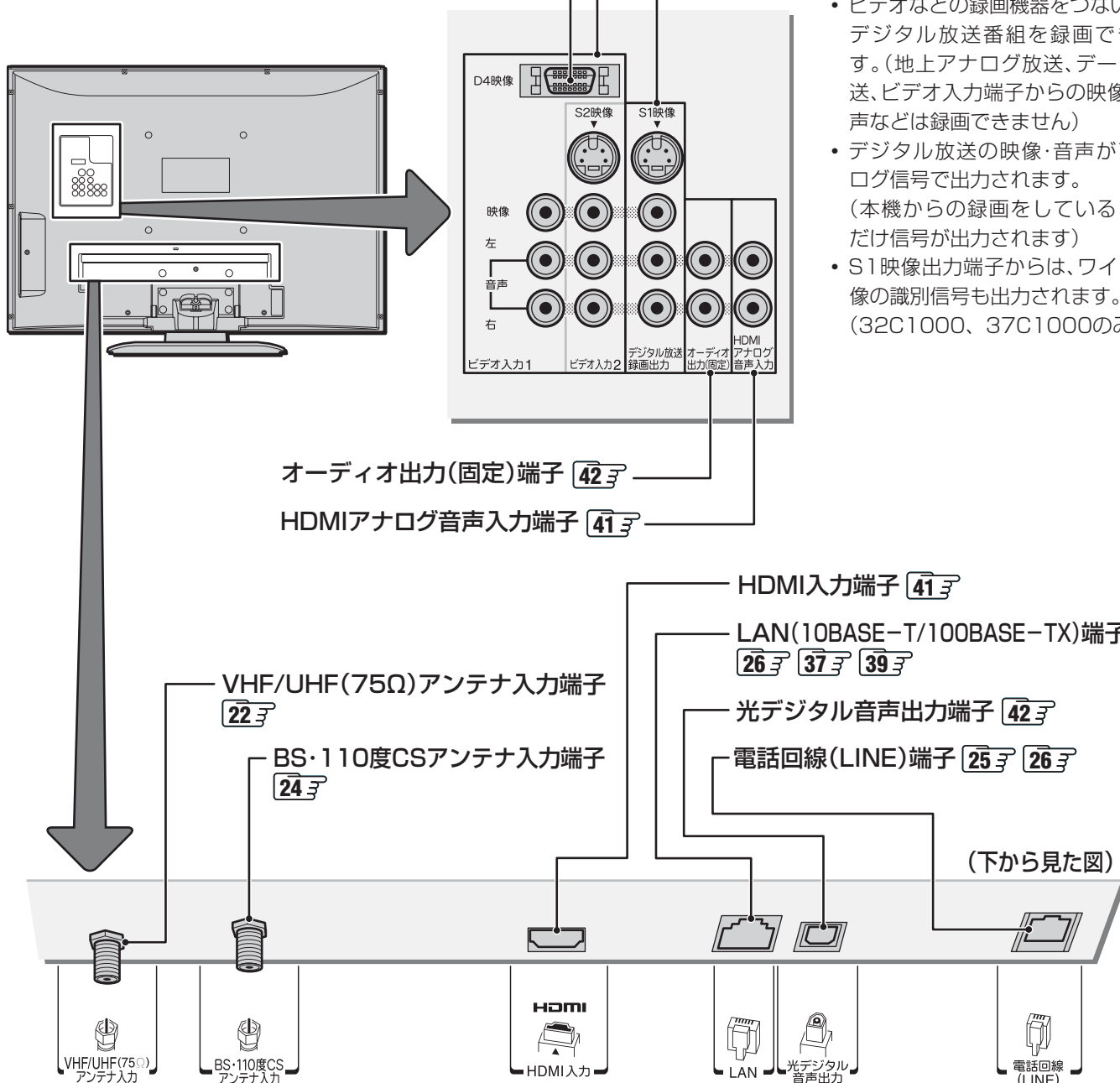
- 以下はD4映像入力端子に入力できる映像信号です。

映像信号	映像の走査線数	方式
525i(480i)	525本(有効480本)	インターレース
525p(480p)	525本(有効480本)	プログレッシブ
750p(720p)	750本(有効720本)	プログレッシブ
1125i(1080i)	1125本(有効1080本)	インターレース

ビデオ入力1, 2端子
36 37 39

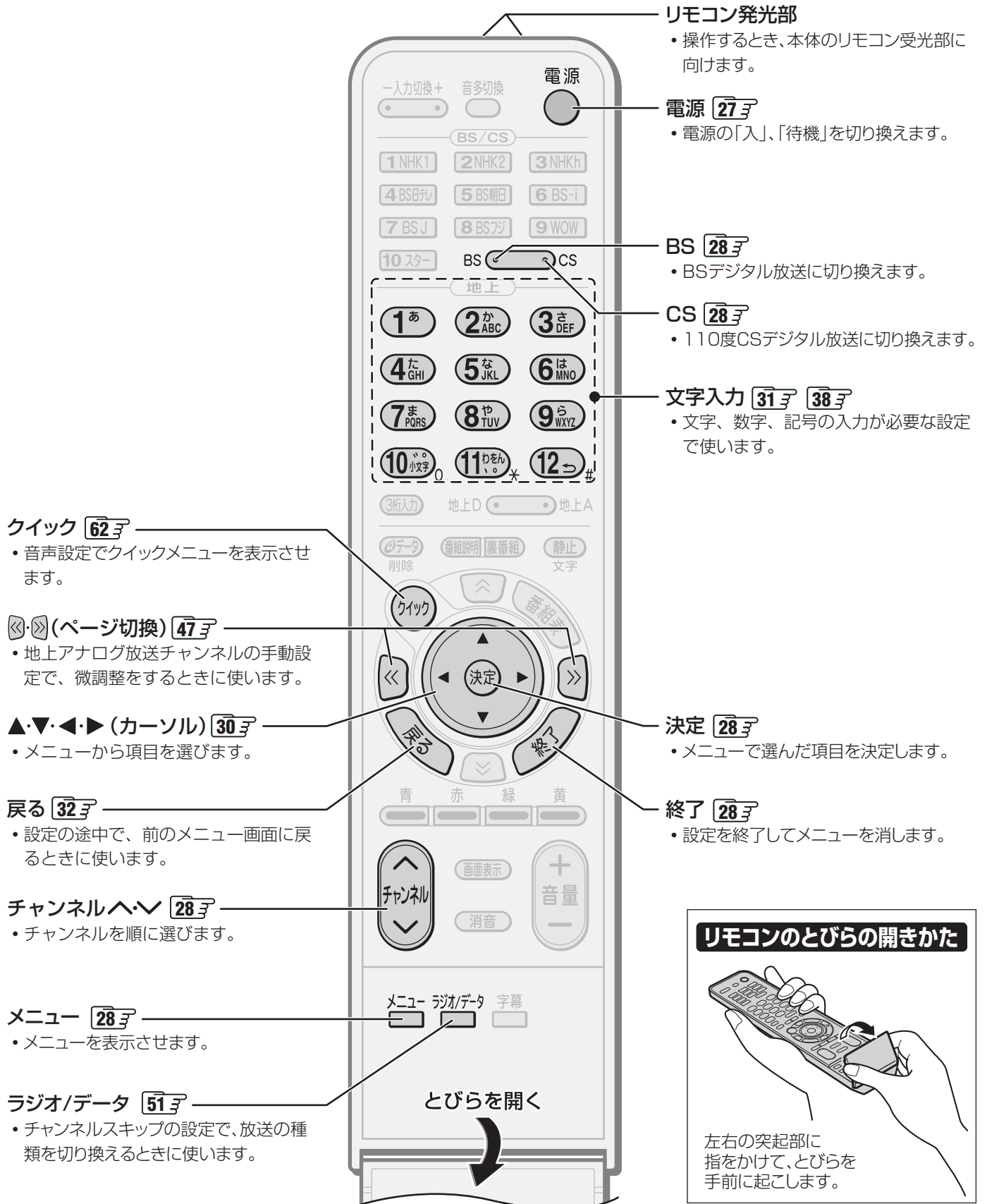
デジタル放送録画出力端子
36 37 39

※S1映像出力端子は32C1000と37C1000にあります。（26C1000にはありません）

- ビデオなどの録画機器をつないで、デジタル放送番組を録画できます。（地上アナログ放送、データ放送、ビデオ入力端子からの映像・音声などは録画できません）
- デジタル放送の映像・音声がアナログ信号で出力されます。（本機からの録画をしているときだけ信号が出力されます）
- S1映像出力端子からは、ワイド映像の識別信号も出力されます。（32C1000、37C1000のみ）

※ 本体の文字・絵表示と端子部は離れていますが、イラストは接近させて表記しています。

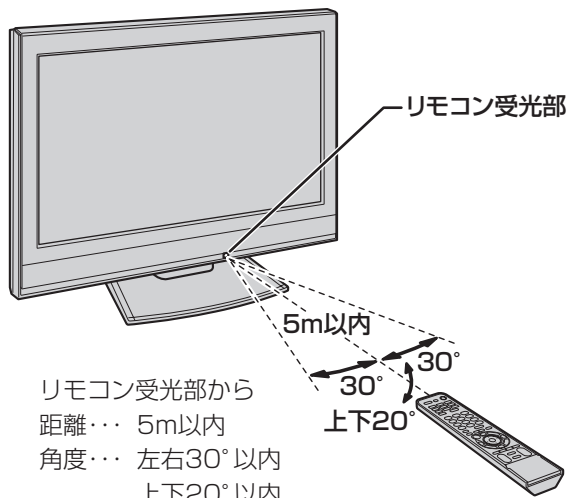
各部のなまえ つづき

リモコン

- 準備編で使用するリモコンのボタンと、そのおもな機能は以下のとおりです。（ボタンによっては、通常操作時と機能の異なるものがあります）
- イラストは、見やすくするために誇張、省略しており、実際とは多少異なります。
- 詳しくは ☞ 内のページをご覧ください。（代表的なページを示しています）

リモコンの準備

リモコンの使用範囲

- リモコンは、本体のリモコン受光部に向けて使用してください。
- リモコン受光部に強い光を当てないでください。(強い光が当たっていると、リモコンが動作しないことがあります)

リモコン受光部から
距離･･･ 5m以内
角度･･･ 左右30°以内
上下20°以内

※ リモコン発光部は二ヵ所あり、リモコンを立てた状態でも操作できます。

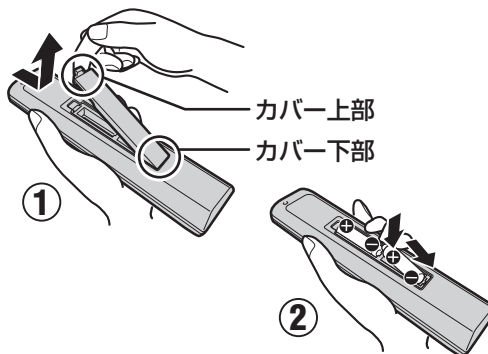
■リモコンについて
- 落としたり、振りまわしたり、衝撃などを与えたりしないでください。
- 水をかけたり、ぬれたものの上に置いたりしないでください。
- 分解しないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所に置かないでください。

乾電池の入れかた

⚠注意	■ リモコンに使用している乾電池は、 ● 指定以外の乾電池は使用しない ● 極性表示⊕と⊖を間違えて挿入しない ● 充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れたりしない ● 表示されている「使用推奨期限」の過ぎた乾電池や、使い切った乾電池はリモコンに入れておかない ● 種類の違う乾電池、新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しない これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。 もれた液が目にはいったり、皮膚についたりすると、目や皮膚に障害を与えるおそれがあります。目や口にはいったり、皮膚についたりしたときは、きれいな水でよく洗い流し、直ちに医師に相談してください。衣服についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。器具についたときは、液に直接触れないでふき取ってください。

- 単四形乾電池R03またはLR03を2個ご使用ください。

■カバーをはずし、乾電池を入れる

① カバーをはずすときは、カバー上部の［▽］部分を矢印方向に押しながら、すくい上げます。
② 極性表示⊕と⊖を間違えないように入れます。
- カバーを閉めるときは、カバー下部の突起をリモコン本体のみぞに差し込んで、パチンと音がするまで押し込みます。

■ 乾電池について
- 乾電池の寿命はご使用状態によって変わります。リモコンが動作しにくくなったり、操作できる距離が短くなったりしたら2個とも新しい乾電池と交換してください。

テレビを設置する

● 設置の前に「安全上のご注意」4 ～ 10を必ずお読みください。

警告	■ 本機はコンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する 万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。
注意	■ 転倒防止の処置をする 転倒防止の処置をしないとテレビが転倒し、けがの原因となることがあります。

正しい置きかた

■ 丈夫で水平な安定した所に設置してください

■ テレビ台を使用する場合

● テレビ台の取扱説明書をご覧ください。

■ 周囲からはなして置いてください

● 通風孔をふさがないように本機から10cm以上あけてください。

転倒防止のしかた

■ 別売のスタンドを使用するとき

● 液晶テレビ用東芝フロアスタンド（RL-F120、RL-F80）を使用する場合は、スタンドに付属の取扱説明書をご覧ください。

■ 壁または柱などに固定するとき

● アンテナや他の機器などとの接続が済んでから固定してください。

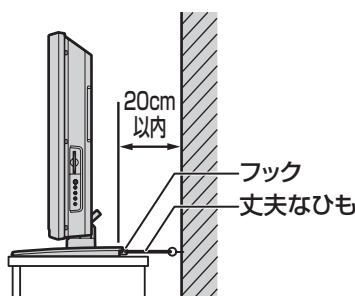
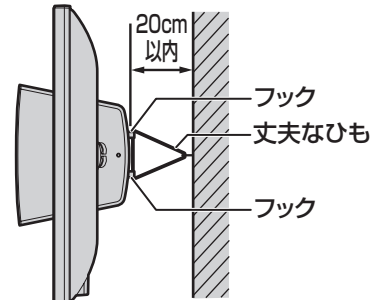
● スタンド背面のフックを使用し、確実に支持できる壁または柱などを選び、丈夫なひもで固定してください。
移動するときは、ひもをはずしてください。

※ 設置後、液晶テレビを撤去したときに、壁や柱に取付ネジの穴が残ります。

横から見た図

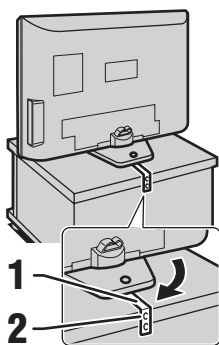
20cm以内
フック
丈夫なひも

上から見た図

20cm以内
フック
丈夫なひも
フック

■ 転倒防止バンドを使用して固定するとき

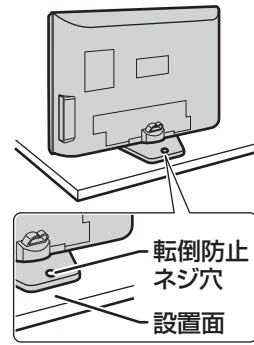
1 卓上スタンドの底面に取り付けられている転倒防止バンドを図のように回転させる

2 設置する台の、確実に支持できる背面に転倒防止バンドを木ネジ（市販品）で固定する

※ 後方には倒れます。固定後は台を壁などに近づけて設置し、小さなお子様がはいれないようにしてください。

■ 転倒防止バンドを使用して固定するとき

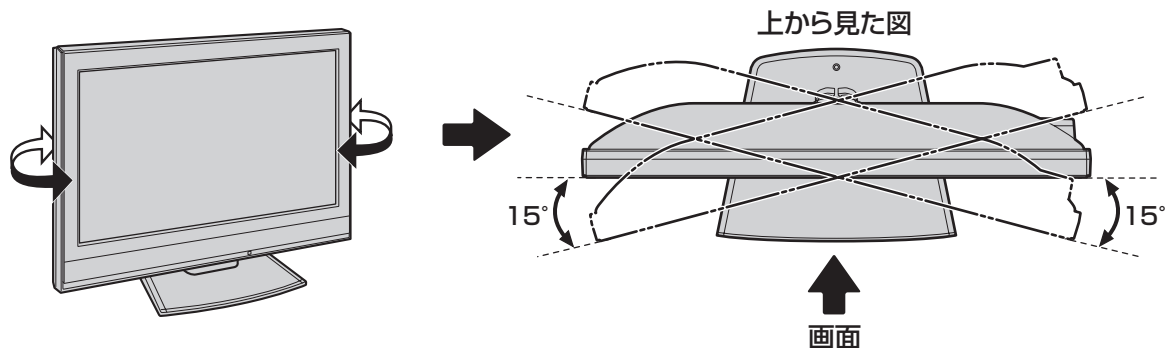
転倒防止ネジ穴を使って木ネジ（市販品）でスタンドを設置面にしっかりと固定します。
材質のしっかりした、十分に厚い場所に固定してください。

※ 設置後、液晶テレビを撤去したときに、設置した面に取付ネジの穴が残ります。

※ 固定後は、本機を押したり、持ち上げたりしないでください。破損の原因になります。

■ 機器相互間のかんしょうについて

● 他のデジタル機器や電子レンジなどから出る電磁波によって、映像が乱れたり、雑音が出たりする場合があります。相互にかんしょうしない位置に設置してください。

本機を見やすい角度に調整するとき

● 本体が左右方向に15°ずつ回転します。(前後方向には傾けられません)
● 見やすい角度に調整してお使いください。
(本機がずれたり、倒れたりしないよう、スタンド部分をしっかり押さえて調整してください)

設置用別売品

品　名	形　名
液晶テレビ用　東芝壁取付チルト金具	26C1000 用：FPT-TA8A 32C1000 用：FPT-TA9A 37C1000 用：FPT-TA9A
液晶テレビ用　東芝フロアスタンド	RL-F80、RL-F120　(共用)

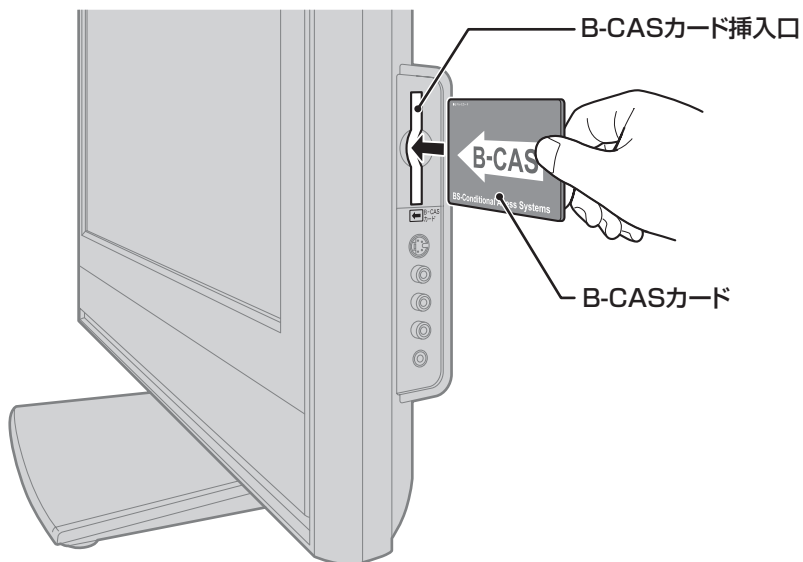
● 設置のしかたは、それぞれの商品に付属の取扱説明書をお読みください。
● 壁掛け工事には専門知識と技術が必要です。お買い上げの販売店に必ずご相談ください。

設置と基本の接続・設定

B-CAS(ビーキャス)カードを入れる

● **同梱のB-CAS(ビーキャス)カードは、デジタル放送の受信や「放送局からのお知らせ」の受信などに必要です。常に本体に入れておいてください。**
● 同梱のB-CAS(ビーキャス)カードの説明書についている「加入申込書用バーコードシール」は、受信契約をする際に加入申込書に必ず貼ってください。
● 「同梱のB-CAS(ビーキャス)カードについて」12 も必ずお読みください。
● 説明書は、よくお読みのうえ、のちのお問い合わせ先確認などにそなえて、たいせつに保管してください。

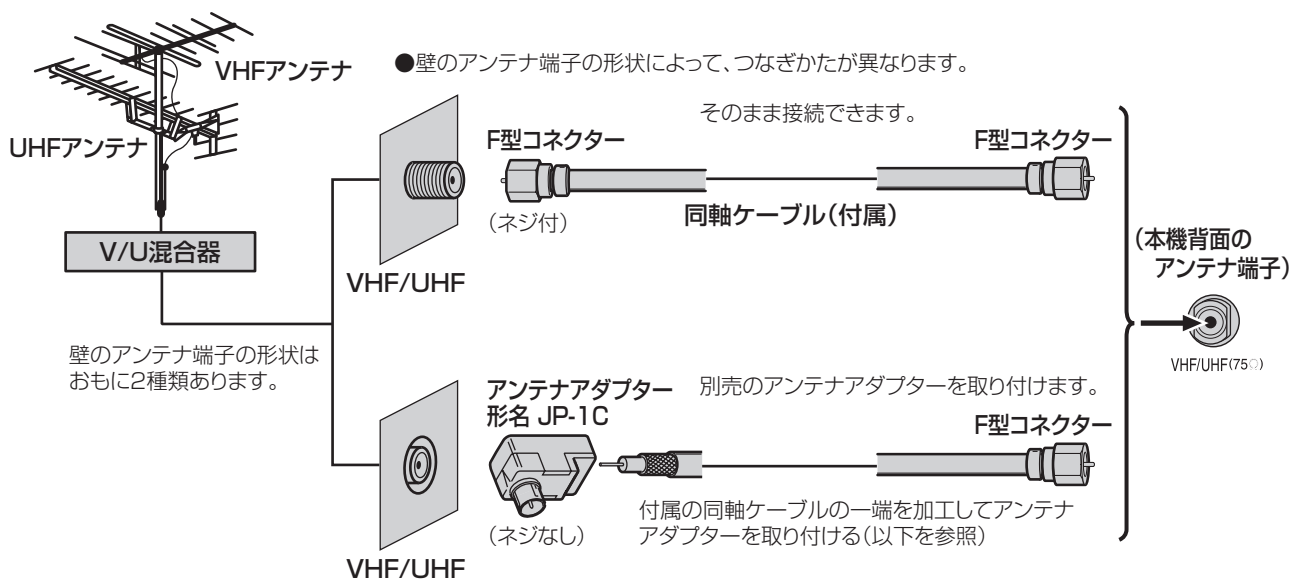
● B-CASカードの絵柄面を本体の前面側に向けて、奥まで差し込みます。

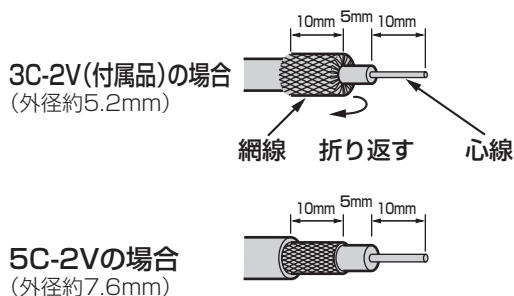
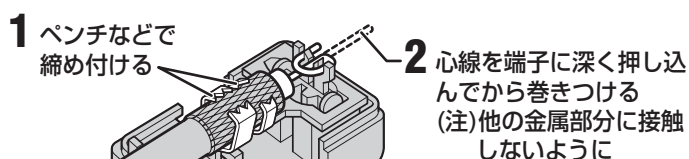
※ 取り出すときは、B-CASカードをつかんで抜きます。

アンテナの接続

※ アンテナ工事には技術と経験が必要です。アンテナの設置・調整については、お買い上げの販売店にご相談ください。また、アンテナの取扱説明書もよくお読みください。

VHF/UHFアンテナ線のつなぎかた

- 接続するときは必ず本機および接続機器の電源を切り、電源プラグを抜いてください。
- F型コネクターやアンテナアダプターのピンが曲がっていないか、確認してください。曲がったままでつなぐと、ショートすることがあります。
- 地上デジタル放送はUHFアンテナで受信します。UHFアンテナが設置されている場合はそのままで受信できることもありますが、状況によってはアンテナの交換やアンテナ方向の変更などが必要になる場合があります。

アンテナ線がVHF/UHF混合の場合（またはVHFだけ、またはUHFだけの場合）

アンテナアダプターの取り付けかた

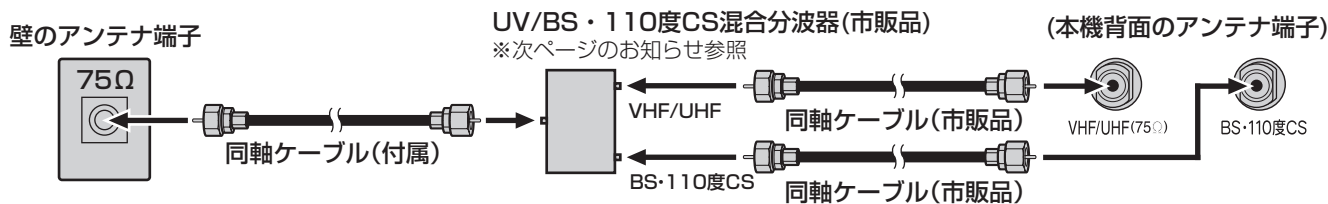
■同軸ケーブルの加工

■アンテナアダプター（別売）の取付けかた

（アンテナアダプターのカバーをはずした図）

- アンテナアダプターは、いくつかのタイプがあります。（イラストは一例です）

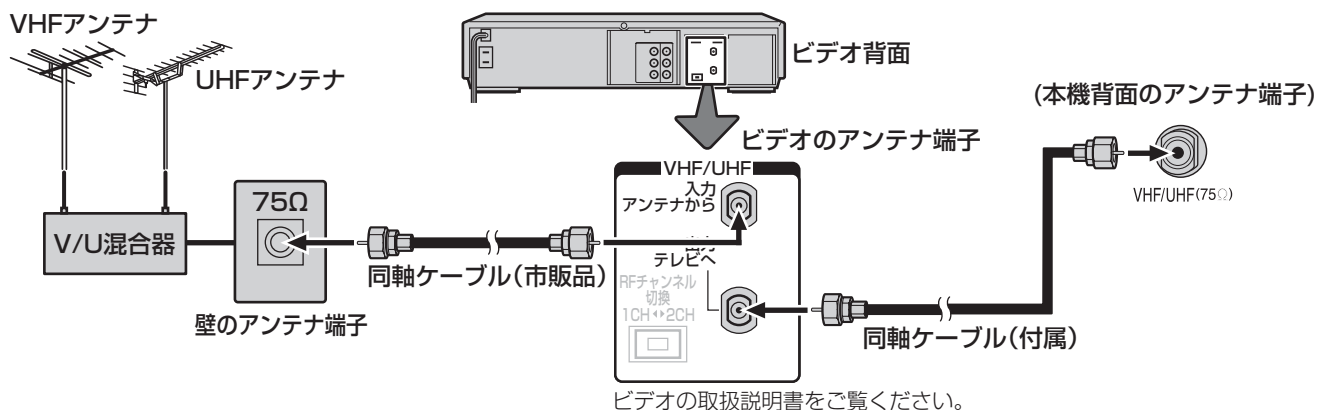
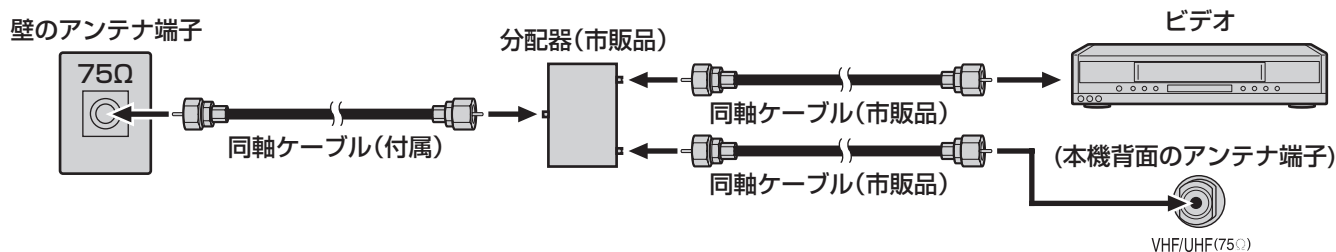
お知らせ

■ 地上デジタル放送を受信する場合

- 接続に使用する同軸ケーブルには、減衰量が少なく経年変化の少ないS-4C-FB以上の特性のものを、F型コネクターには、C15型をおすすめします。F型コネクターの加工法については、F型コネクター付属の説明書をご覧ください。
- 混合器、分波器、分岐器、ブースターなどを使用する場合は、地上デジタル放送の伝送チャンネルに対応したものを選び、妨害波の影響などを防ぐために空き端子には終端抵抗器（75Ω）を接続してください。
- 一般的に地上デジタル放送はUHFアンテナで受信しますが、CATV（ケーブルテレビ）で伝送される場合や共聴システム（VHF帯、またはUHF帯）で伝送される場合もあります。詳しくは、共聴システム管理者（マンション管理者や管理組合など）や、お住まいの地域のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

マンションなどの共聴システムのとき(VHF/UHF/BS・110度CS混合のとき)

● 「BS・110度CSアンテナ電源供給」を「供給しない」に設定してください。
詳しくは 28 をご覧ください。

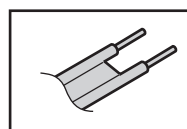
ビデオを経由したつなぎかた(壁面端子が75Ωでビデオの入力がV・U混合のとき)

ビデオの取扱説明書をご覧ください。

分配器を使用したつなぎかた

VHFとUHFのアンテナ線がそれぞれ別になっているとき

● V/U混合器、形名HMX-77(別売品)などが必要です。
● 詳しくは販売店にご相談ください。

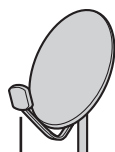
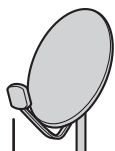
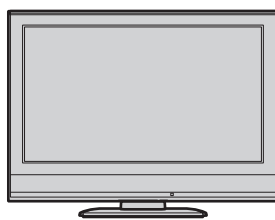
お知らせ

● VHF/UHFアンテナ線は同軸ケーブルをおすすめします。
平行フィーダー線を使用すると受信状態が不安定になることがあり、妨害電波を受けやすくなります。
● やむをえず、平行フィーダー線を使用するときは、平行フィーダー線をBS・110度CSデジタル用アンテナケーブルから妨害を受けない距離まで離してください。(同軸ケーブルを使用する場合でも、妨害を受けるようであれば、BS・110度CSデジタル用アンテナケーブルから離してみてください)
● アンテナ線を他のデジタル機器に近づけないでください。受信障害の原因となることがあります。
● CATV放送については、お住まいの地域のCATV会社にお問い合わせください。
● VHF、UHFアンテナは定期的な点検・交換をお勧めします。アンテナの設置場所は、屋外のため傷みやすく性能が低下します。特にばい煙の多い地域、温泉、海岸の近くでは傷みやすくなります。映りが悪くなったときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

平行フィーダー線

アンテナの接続 つづき

BS・110度CSデジタル用アンテナ線のつなぎかた

- 接続するときは必ず本機および接続機器の電源を切り、電源プラグを抜いてください。
- F型コネクターのピンが曲がっていないか、確認してください。曲がったままでつなぐと、ショートすることがあります。
- BSデジタル放送だけご覧になる場合はBSデジタル用アンテナを、110度CSデジタル放送も合わせてご覧になる場合は、BS・110度CSデジタル用アンテナをご使用ください。(以下、これらのアンテナをBS・110度CSデジタル用アンテナと記載します)
- アンテナをつないだあとにアンテナの方向調整が必要です。28
- 本機とBS・110度CSデジタル用アンテナの接続には、BS・CSデジタル対応のケーブル(S-4C-FB相当)をご使用ください。
- BS・110度CSデジタル放送用アンテナの取扱説明書もご覧ください。

BS・110度CSデジタル用アンテナをつなぐとき

BS・110度CSデジタル用アンテナ1台で、本機などBSや110度CS機器を2台以上つなぐ場合

BS・CS分配器をご使用の場合は全方向電流通過形分配器で、周波数2150MHzに対応したものをご使用ください。

- 2分配 CSG-D2A(別売品)など
- 3分配 CSG-D3A(別売品)など
- 4分配 CSG-D4A(別売品)など

※ BSや110度CS機器をつなぐときは、BSや110度CS機器付属の取扱説明書をご覧ください。

※ 将来、110度CSデジタル放送でチャンネルがふえた場合、ご使用のアンテナによっては分配器は使用できないことがあります。

アンテナ電源について

- BS・110度CSデジタル用アンテナは電源を必要とします。本機にはアンテナ電源を供給する機能がありますが、マンションなどの共聴システムや他の機器などから供給されている場合は、本機から供給する必要はありません。
  お使いの条件に合わせて「BS・110度CSデジタル用アンテナ電源供給」28の設定をしてください。

従来のBSアンテナについて

- 従来のBSアンテナでは110度CSデジタル放送は受信できません。また、多くのものはBSデジタル放送を受信できますが、一部には安定して受信できないものもあります。その際には、BSデジタル用、またはBS・110度CSデジタル用アンテナをご使用ください。

マンションなどの共同受信の場合

- お住まいのマンションの共同受信設備でBSデジタル放送や110度CSデジタル放送が受信できるかについては、マンションの管理会社や管理組合にご確認ください。
  既存の設備で受信できない場合には、BS・110度CSデジタル用アンテナの設置・接続が必要です。

■BS・110度CSデジタル用アンテナの設置について

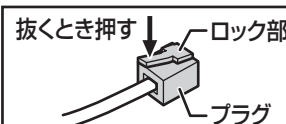
- マンションなど共同住宅の場合は、出入口や避難設備にはアンテナを設置できません。また、避難通路や消防上必要な通路のじゃまにならない所に設置する必要があります。消防法、地方自治体の条例などに触れないように、ご注意ください。また、建物の管理者にもご相談ください。

- 110度CSデジタル放送を受信する場合でブースターやBS・CS分配器をご使用になる場合は、110度CSデジタル放送(周波数2150MHz以上)に対応したものをお使いください。対応していないものを使用した場合には、110度CSデジタル放送を受信できません。
- スカイパーフェクTV!用のアンテナでは、110度CSデジタル放送を受信することはできません。

電話回線の接続

● 電話回線は、デジタル放送の双方向サービス（クイズ番組への参加、通販番組での商品購入など）を利用する場合や、有料番組（ペイ･パー･ビュー番組）を購入する場合に使用します（地上デジタル放送では、番組によっては双方向サービスに電話回線によるダイヤルアップ通信を使用することがあります）。これらのサービスを利用しない場合は、電話回線につなぐ必要はありません。

● **電話回線につないだ場合は、「はじめての設定」の中で「電話回線設定」** **31** ～ **32** **をしてください。**

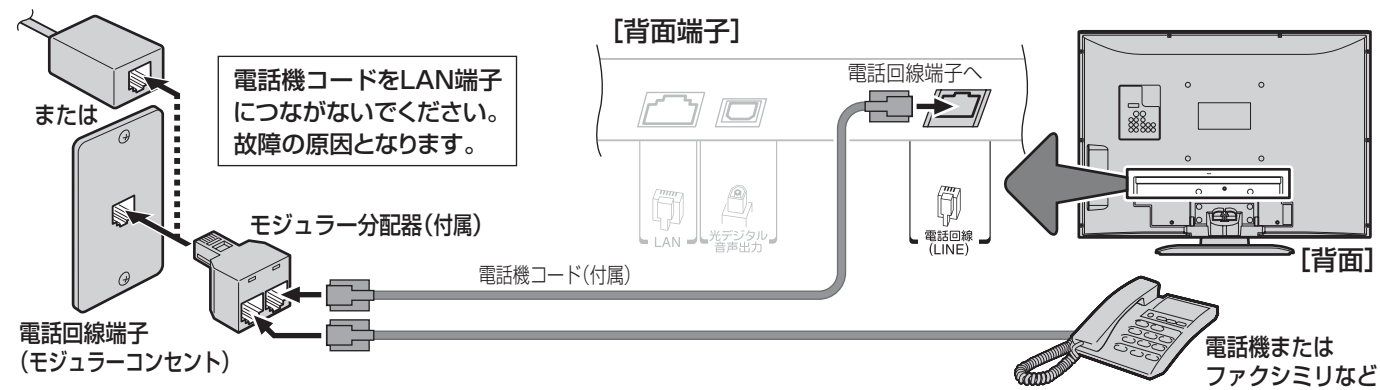
※ ADSLモデムを電話回線につないでいる場合は次ページをご覧ください。

⚠注意

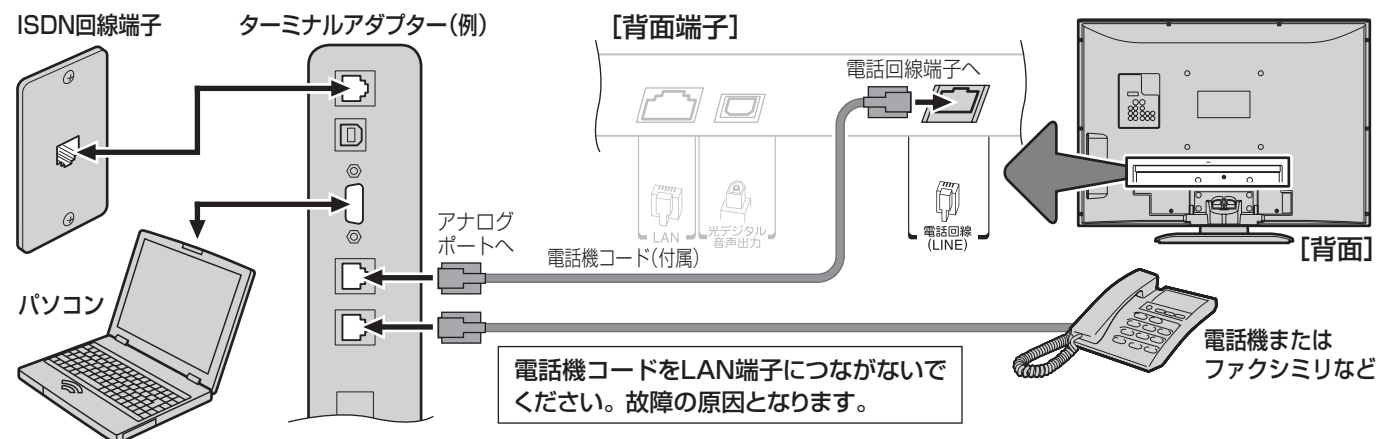
■ **モジュラー分配器や電話機コードの端子に触れたり、分解や改造をしたりしない**
電話回線には直流電圧がかかっています。ダイヤル時などに強い衝撃電流が流れるため、感電の原因となることがあります。

■ **正しく接続する**
正しく接続しないと、本機や他の機器の故障および火災の原因となることがあります。

● 電話機コードを抜き差しするときは、本機および接続機器などの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
● 電話機コードを抜き差しするときは、プラグを持ってください。抜くときは、コードを引っ張らず、ロック部を押しながら抜いてください。（右図を参照）

モジュラーコンセントの場合

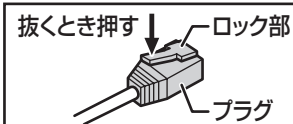
● **電話回線がモジュラーコンセントでない場合や、電話機の主装置、ターミナルボックス、ドアフォンなどが壁に埋め込まれている場合は専門業者による工事が必要です。ご加入のNTT営業所または局番なしの116番にお問い合わせください。**

ISDN回線の場合

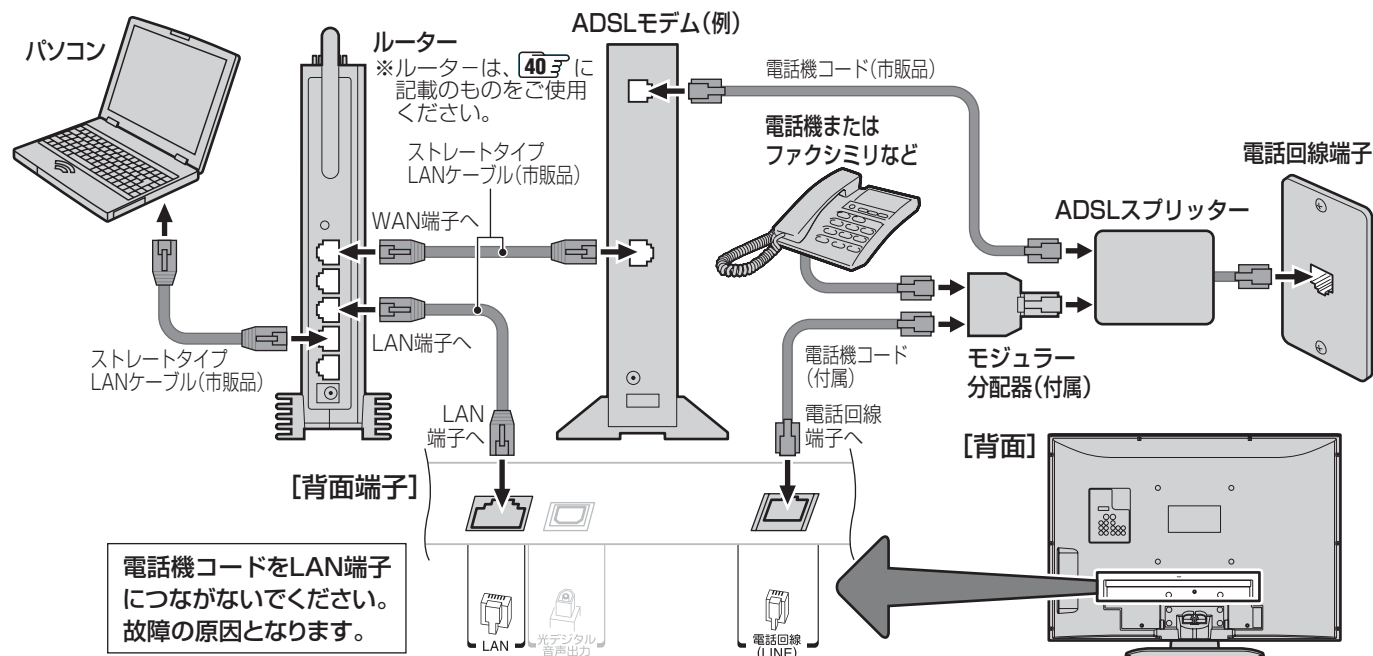
● ターミナルアダプターのアナログポートに本機を接続してください。（ターミナルアダプターの取扱説明書をご覧ください）
● ご注意：ISDN回線端子に付属のモジュラー分配器を差し込まないでください。
● 「電話回線設定」の「ダイヤル方式」は、「トーン」に設定してください。32

お知らせ

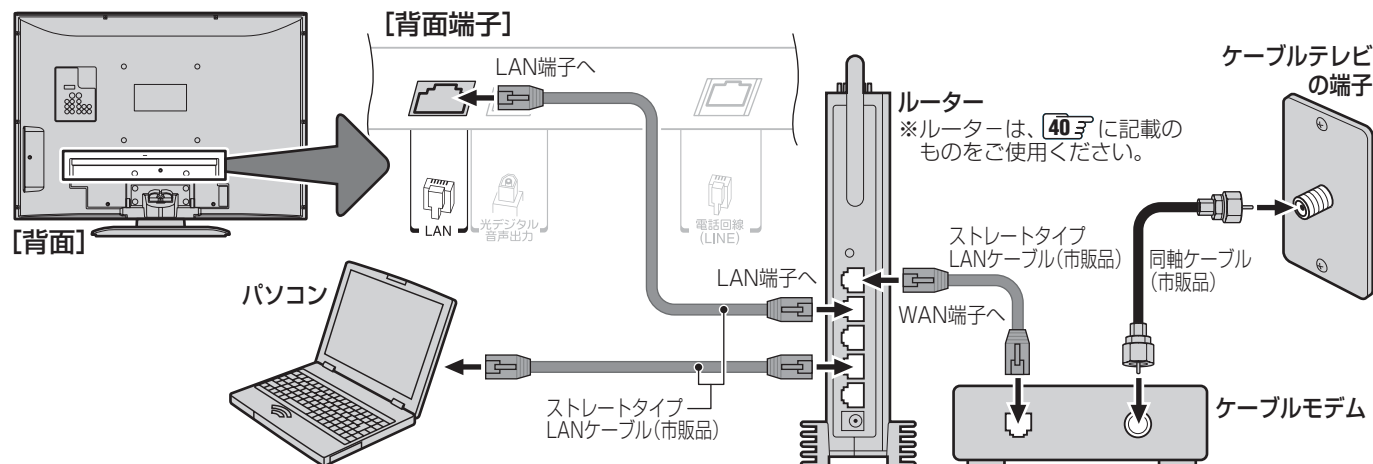
● 本機は公衆電話、共同電話、携帯電話、ビジネスホン、PHSなどのほか、「0発信」か「9発信」以外で外線に電話をかける回線には接続できません。ホームテレホンの場合は、ホームテレホンのメーカーにご相談ください。
● 本機の通信中は電話機やファクシミリは使用できません。逆に、電話機やファクシミリを使用中は、本機の通信はできません。キャッチホン契約の場合、本機の通信中に電話がかかってくると、本機の通信は終了します（キャッチホンⅡ契約の場合は終了しません）。
● 一部のダイヤル式電話機では、本機が通信をしているときに電話機の呼出音が鳴ることがあります。呼出音が鳴らないようにしたい場合は、付属のモジュラー分配器ではなく市販の電話回線切換器をご使用ください。
● 電話回線に接続の際に工事が必要な場合は有料となります。電話工事には資格が必要です。無資格の方は工事できません。
● ノイズがはいると誤動作することがあります。冷蔵庫などのモーターを使った機器の近くに電話機コードを近づけないでください。

LAN端子の接続

- デジタル放送の双方向サービスを利用する場合や、地上アナログ放送の番組表機能などを利用する際に、LAN端子からルーターとモデムを通して電話回線などを使ったインターネット回線に接続します。これらのサービスや機能を利用しない場合は、接続する必要はありません。
- **LAN端子の接続についてのお問い合わせは、「テレビのネットワーク接続(LAN端子を使った接続)についてのご相談は」67をご覧ください。**
- **「LAN端子についてのお知らせとご注意」40もお読みください。**
- **LAN端子の接続をした場合は、必要に応じて「LAN端子設定」55～56をしてください。**

- LANケーブルや電話機コードを抜き差しするときは、本機および接続機器などの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- LANケーブルや電話機コードを抜き差しするときは、プラグを持ってください。抜くときは、コードを引っ張らず、ロック部を押しながら抜いてください。(右図を参照)

電話回線のADSLでインターネットを利用している場合

- 本機の電話回線端子への接続は、デジタル放送の双方向サービスを利用したり、ペイ・パー・ビュー番組を購入したりするためのものです。(前ページの「電話回線の接続」もお読みください。また、この接続をした場合は、「電話回線設定」53もしてください)
- ADSLモデムとルーターが一体化されている場合もあります。それぞれの取扱説明書もよくお読みください。

ケーブルテレビインターネットを利用している場合

お知らせ

- 本機では、ルーターやルーター内蔵モデムの設定はできません。これらの機器によっては、パソコンでの設定が必要な場合があります。
- ご利用のインターネットの契約によっては、本機やパソコンなどの複数の端末機器を接続できない場合があります。ご利用の回線事業者にご確認ください。

アンテナの設定と調整

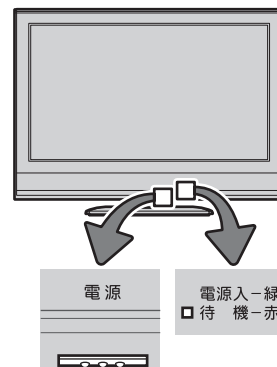
～はじめに～　電源を入れる

● アンテナなどの接続が終わったら、本機の電源を入れます。

1 電源プラグをコンセントに差し込む

● 電源プラグは交流100Vコンセントに根元まで確実に差し込んでください。

2 本体前面下の電源ボタンを押す

● 電源がはいり、本体前面の「電源入(緑)/待機(赤)」表示が緑色に点灯します。
● 操作できるようになるまでの間、画面に「しばらくお待ちください」が表示されます。
● もう一度本体の電源ボタンを押すと、電源が切れます。
● 電源「入」の状態でリモコンの電源を押すと、「待機(赤)」が点灯し、待機状態になります。
この状態でもう一度電源を押すと、電源がはいります。
※ はじめて電源を入れると、「自動ダウンロードについて」の説明画面が表示されます。
説明を読んだあと、決定を押してください。自動ダウンロードについては、操作編 38 をご覧ください。

地上デジタル用アンテナの方向調整

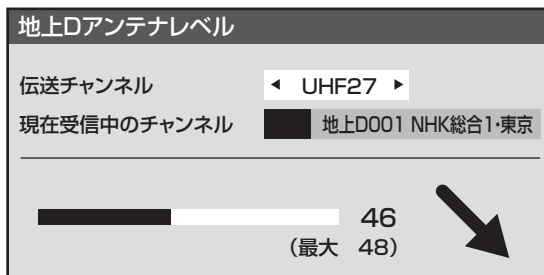
● **アンテナの方向調整は、お買い上げの販売店にご相談ください。**
● ここではアンテナレベル表示を使って、地上デジタル放送受信用アンテナの方向を調整することができます。
アンテナレベルの数値が最大になるように、アンテナの方向を調整してください。
※ 表示される数値は、受信C/Nを換算したものです。
● アンテナの取扱いについては、アンテナの取扱説明書をご覧ください。

1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「アンテナ設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上Dアンテナレベル」を選び、決定を押す

3 ◀·▶で「伝送チャンネル」を選ぶ

● お住まいの地域の地上デジタル放送に使用されている伝送チャンネルを選んでください。
● ◀·▶を押すたびに以下のように切り換わります。
UHF13 ～ UHF62の範囲で選びます。

4 アンテナをゆっくり動かして、「アンテナレベル」の数値が最大となるように調整する

● アンテナレベルが大きくなると ↗ が表示され、小さくなると ↘ が表示されます。
● 画面のアンテナレベルの最大値を参考に、アンテナを固定したあとにレベル値が下がっていないことを確認してください。
※ 受信できるアンテナレベルの目安は、43以上です。

5 アンテナを固定して、決定を押す

6 終了を押して、メニューを消す

アンテナの設定と調整 つづき

BS・110度CSデジタル用アンテナの設定と調整

BS・110度CSデジタル用アンテナ電源供給設定

● アンテナに供給する電源をアンテナ電源といいます。
● お買い上げ時は、「供給する」に設定されています。
マンションなどで、アンテナに他の機器から電源が供給されているときは、「供給しない」に設定します。

1 以下の操作で「アンテナ設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲・▼で「アンテナ設定」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「BS・110度CSアンテナ電源供給」を選び、決定を押す

3 ▲・▼で「供給する」または「供給しない」を選び、決定を押す

● 項目を選ぶとその状態に設定されます。

4 終了を押して、メニューを消す

BS・110度CSデジタル用アンテナの方向調整

● アンテナレベル表示を使って、BS・110度CSデジタル放送受信用アンテナの方向調整をすることができます。
アンテナレベルの数値が最大になるように、アンテナの方向を調整してください。
※ 表示される数値は、受信C/Nを換算したものです。
● アンテナの調整方法や取扱いについては、アンテナの取扱説明書をご覧ください。(テレビが映るアンテナ方向は、VHF/UHFアンテナの場合よりも微妙です)

1 左の手順**1**の操作で「アンテナ設定」画面にする

2 ▲・▼で「BS・110度CSアンテナレベル」を選び、決定を押す

3 BS ⊂⊃ CSを押して、放送の種類(BSまたは110度CS)を選ぶ

4 契約しているチャンネル、または無料チャンネルを チャンネル で選ぶ

5 アンテナをゆっくり動かして、「アンテナレベル」の数値が最大となるように調整する

● アンテナレベルが大きくなると ↗ が表示され、小さくなると ↘ が表示されます。
● 画面のアンテナレベルの最大値を参考に、アンテナを固定したあとにレベル値が下がっていないことを確認してください。
※ 受信できるアンテナレベルの目安は、BSデジタルが36以上、110度CSデジタルが20以上です。

6 アンテナを固定して、決定を押す

7 終了を押して、メニューを消す

■ アンテナ電源供給設定について
● 本体の電源ボタンで電源を「切」にしている場合は、アンテナ電源は供給されません。
●「供給する」に設定した場合でも、本機の電源が「待機」のときは、番組情報の取得中や予約した番組の録画中、およびダウンロード中などの場合以外は、アンテナ電源が供給されません。
● 本機の電源を入れないで、BS内蔵ビデオ単独で録画するときなどは、本機以外からアンテナ電源を供給する必要があります。

■ アンテナ方向調整について
● アンテナ線がショートしていると、手順**5**の画面に「アンテナ線がショートしています。」のメッセージが表示されます。その場合は、本体の電源ボタンで電源を切り、ショートの原因を取り除いてから、もう一度電源を入れて手順**1**からやり直してください。

はじめての設定をする

● 本機を使えるようにするための基本的な設定をまとめて行います。
● 設定項目は下表のとおりです。
「はじめての設定」は何度でもできますが、やり直した場合は、下表の各設定項目ごとにそれまでに設定していた内容（特に、地上アナログ放送や地上デジタル放送のチャンネルを手動で設定した内容）は消去されますのでご注意ください。双方向サービスの情報（お客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数など）は消去されません。

設定項目	内 容
地上A/D放送チャンネル設定	地上アナログ放送と地上デジタル放送のチャンネル設定を同時に行います。また、地域の設定もします。
郵便番号の設定	お住まいの地域に応じたデータ放送（たとえば、天気予報や選挙速報など）や緊急警報放送を視聴したり、電話回線での通信をもよりのアクセスポイントで利用するための設定です。
電話回線設定	デジタル放送では電話回線を利用した双方向サービスが行われています。 それらのサービスを楽しむための設定です。 ※ 地上デジタル放送の場合には、LAN端子を使ったイーサネット通信でも双方向サービスを利用することができます（番組によっては、電話回線を使ったダイヤルアップ通信が行われることがあります）。
簡易確認テスト	地上D受信テスト、BS・110度CS受信テスト、B-CASカードテスト、電話回線テストをまとめて行います。

■「地上A/D放送チャンネル設定」について
● 地上アナログ放送の場合
入力された地方、地域に応じて、チャンネルがリモコンの地上ダイレクト選局ボタン 1 ～ 12 に自動的に設定されます。
自動設定される内容については「地上アナログ放送の自動設定一覧表」（資料編 6 ～ 13 ）をご覧ください。
● 地上デジタル放送の場合
「初期スキャン」 30 （または 45 ）をすることで、本機が地上デジタル放送の受信できるチャンネルを探し、リモコンの地上ダイレクト選局ボタン 1 ～ 12 に自動設定します。
自動設定は、入力された地方、地域と実際に受信できたチャンネルの情報をもとに、放送システム上の規定などに従って行われます。
初期スキャンは（VHF1 ～ 12）→（UHF13 ～ 62）→（CATV13 ～ 63）の順で行われます。
※ 自動設定された内容の確認や変更をしたい場合は「手動設定」 47 で行ってください。
※ 初期スキャンによってチャンネルが設定されても、電波が弱い場合には正常に受信できないことがあります。

■ 地方と地域の設定について
● チャンネルの自動設定は、 30 の手順**4** ～ **6**で設定された地方、地域に基づいて行われます。
31 の郵便番号でも地域を設定しますが、それは地域に密接したデータ放送（たとえば、天気予報や選挙速報など）を視聴したり、電話回線での通信をもよりのアクセスポイントで利用したりするための設定であり、 30 の手順**4** ～ **6**の設定とは別のものです。

■ 新たに開局したチャンネルを追加登録したいとき
● 地上デジタル放送の放送局が新たに開局した場合や、中継局が新設されるなどしてチャンネルがふえたなどの場合は、「自動設定」の「再スキャン」 45 をしてください。新たに受信できたチャンネルが追加設定されます。

はじめての設定をする つづき

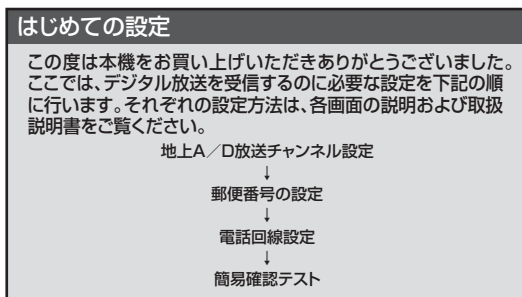
地上A/D放送チャンネル設定

- 地上アナログ放送と地上デジタル放送のチャンネルを同時に設定します。また、データ放送の地域も同時に設定します。
- 詳しい動作については前ページの「お知らせ」をご覧ください。

1 以下の操作で「はじめての設定」の説明画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す

❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「はじめての設定」を選び、決定を押す

2 画面の説明を読んで、決定を押す

- 「地上A/D放送チャンネル設定」の説明画面が表示されます。

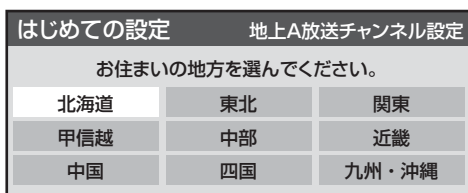
3 画面の説明を読んで、決定を押す

- 地方を選ぶ画面が表示されます。

4 お住まいの地方を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す

はじめての設定　地上A放送チャンネル設定

お住まいの地方を選んでください。

北海道	東北	関東
甲信越	中部	近畿
中国	四国	九州・沖縄

5 お住まいの都道府県を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す

- 地域を選ぶ画面が表示されます。

6 お住まいの地域を▲・▼・◀・▶で選び、決定を押す

- お住まいの地域名が表示されないときは、近くの地域名を選びます。

7 表示された地上Aチャンネル一覧の内容を確認後、決定を押す

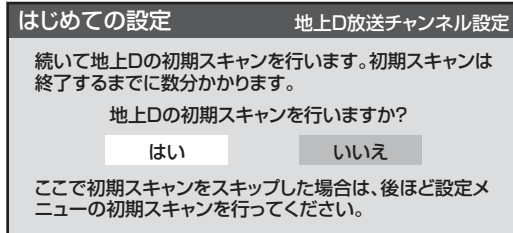
8 画面の説明を読んで、以下をする

はじめての設定　地上D放送チャンネル設定

続いて地上Dの初期スキャンを行います。初期スキャンは終了するまでに数分かかります。

地上Dの初期スキャンを行いますか?

はい　いいえ

ここで初期スキャンをスキップした場合は、後ほど設定メニューの初期スキャンを行ってください。

■ 地上デジタル放送の初期スキャンをする場合

❶ ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

- 初期スキャンが自動的に始まります。
  終了するまでしばらくお待ちください。
- 初期スキャンが終わったら、次は手順**9**に進みます。
- 下の画面が表示された場合
  - 「データ放送用メモリーの割当て」34をしてください。
  - 「データ放送用メモリーの割当て」が終了すると、次は手順**9**に進みます。

はじめての設定　地上D放送チャンネル設定

放送局の数がデータ放送用のメモリーの数を超えています。
メモリーを割り当てたい放送局を9つ選んでください。

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
▲☑ 6	–––	×	あり
☑ 7	テレビ東京	○	あり
☑ 8	–––	×	あり
☑ 9	–––	×	あり
▼☑10	–––	×	あり

選択した放送局の数:12

■ 地上デジタル放送の初期スキャンをあとでする場合

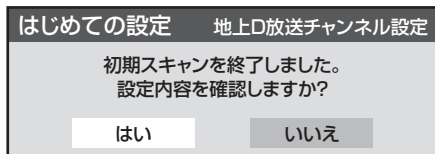
❶ ◀・▶で「いいえ」を選び、決定を押して「郵便番号の設定」（手順**10**）に進む

- あとで「自動設定」の「初期スキャン」45をしてください。

9 下図の画面が表示されたら、以下をする

はじめての設定　地上D放送チャンネル設定

初期スキャンを終了しました。
設定内容を確認しますか?

はい　いいえ

❶ ◀·▶で「はい」を選び、(決定)を押す
- 設定内容の確認画面(下図例)が表示されます。

はじめての設定　地上D放送チャンネル設定

リモコン	チャンネル	放送局
▲ 1	テレビ	NHK総合･東京
2	テレビ	NHK教育･東京
3	―――	
4	テレビ	日本テレビ
5	テレビ	テレビ朝日
▼ 6	テレビ	TBS

❷ 設定内容を確認し、(決定)を押して「郵便番号の設定」(手順**10**)に進む
- これで、地上デジタル放送チャンネルの自動設定が終了しました。
- チャンネルの欄が「―――」となった場合は、放送がないか、または受信できなかったことを示します。
- 設定された内容を変更したい場合は、「はじめての設定」がすべて終了したあとで、「手動設定」48☞で行ってください。

郵便番号の設定

- お住まいの地域に応じたデータ放送(天気予報･選挙速報など)の視聴や、電話回線を通しての双方向サービスを、もよりのアクセスポイント(接続中継点)で利用するための設定です。
- 郵便番号を設定することで、地域が指定されます。

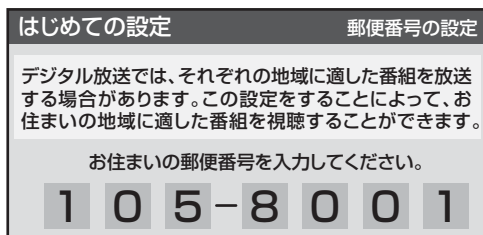
10 お住まいの地域の郵便番号を(1あ)～(10)0(0)で入力し、(決定)を押す

- 間違えて入力したときは、◀でカーソルを戻してからもう一度入力します。

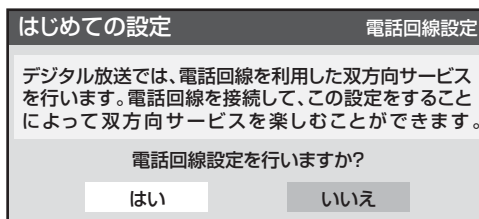
はじめての設定　郵便番号の設定

デジタル放送では、それぞれの地域に適した番組を放送する場合があります。この設定をすることによって、お住まいの地域に適した番組を視聴することができます。

お住まいの郵便番号を入力してください。

1 0 5－8 0 0 1

電話回線設定

- 「電話回線の接続」25☞をした場合は、以下の手順で電話回線の設定をします。

11 画面の説明を読んで、◀·▶で「はい」を選び、(決定)を押す

■ 電話回線の設定をしない場合

❶ ◀·▶で「いいえ」を選び、(決定)を押して手順**16**に進む

12 外線発信番号の有無によって以下をする

- ご家庭内に電話交換機がある場合、外部に電話をかける際に、電話番号の前に0や#などを押すことがあります。これを外線発信番号といいます。

■ 外線発信番号が必要な場合

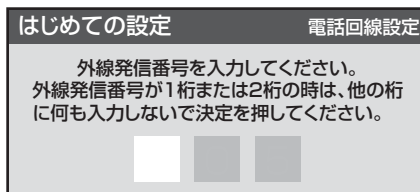
❶ ◀·▶で「はい」を選び、(決定)を押して手順**13**に進む

■ 外線発信番号が不要な場合

❶ ◀·▶で「いいえ」を選び、(決定)を押して手順**14**に進む

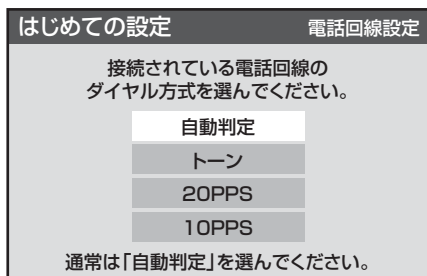
13 外線発信番号を入力して、(決定)を押す

- (1)～(10)0(0)、(12)#(#)、(11)*(＊)で入力します。(左詰めで入力してください)
- 最大3ケタまでの設定ができます。
- 間違って入力した場合は、◀で前のケタに戻り、入力し直します。
- 1ケタ、または2ケタの設定をする場合は、左詰めで入力し、他のケタには何も入力しないで(決定)を押します。

※「110」や「118」、「119」を入力した場合は、自動的に取り消されます。

- データ放送の視聴中に郵便番号の設定を変更した場合、設定を有効にするには設定終了後にデータ放送を選局し直してください。
- 郵便番号入力で、上3ケタを入力して(決定)を押すと残りの4ケタは自動的に「0」が入力されます。

はじめての設定をする つづき

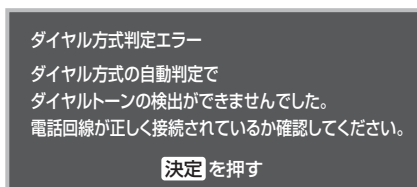
14 ▲・▼で電話回線のダイヤル方式を選び、決定を押す

● 通常は「自動判定」を選びます。自動判定以外を選んだ場合は、手順**16**に進みます。

■「自動判定」を選んだ場合

● 「判定中」の画面が表示されます。
● 最初に「ダイヤルトーン検出」(電話回線が正しく接続されていることのチェック)が行われ、続いて「ダイヤル方式」の自動判定が行われます。
● 自動判定が終了すると判定結果が表示されます。次は手順**15**に進みます。

■ 自動判定中に「ダイヤル方式判定エラー」が表示された場合

● 下図のメッセージの場合は、電話回線の接続 25 を確認してから、もう一度手順**14**を行ってください。

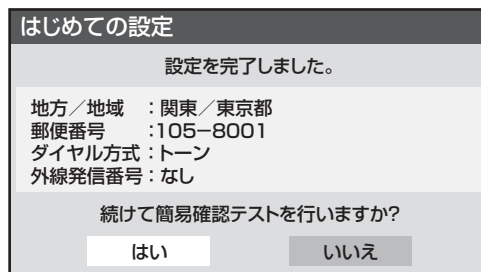
ダイヤル方式判定エラー
ダイヤル方式の自動判定で
ダイヤルトーンの検出ができませんでした。
電話回線が正しく接続されているか確認してください。
決定 を押す

● 電話回線の種類などによっては、自動判定ができない場合があります。自動判定ができない場合は、決定を押して手順**14**の画面にもどり、使用している電話回線のダイヤル方式(トーン、20PPS、10PPS)を選んで決定を押し、手順**16**に進みます。
● ダイヤル方式が不明の場合は、ご加入のNTT営業所または局番なしの116番にお問い合わせください。

■ 自動判定が終了しない場合

● 3分以上たっても終了しない場合は、戻るを押して自動判定を中止し、電話回線と正しく接続されているか確認してください。25

15 判定結果を確認して、決定を押す

16 設定内容を確認する

● 設定内容を変更する場合は、戻るを押してください。戻るを押すたびに、「はじめての設定」の各項目の最初の画面に戻ります。

設定内容によって表示は異なります。

■ 簡易確認テストをする場合

● 手順**17**に進みます。

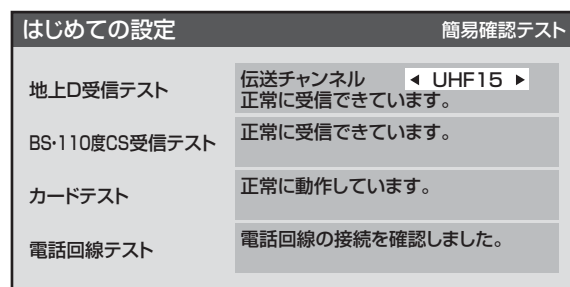
■ 簡易確認テストをしない場合

❶ ◀・▶で「いいえ」を選び、決定を押す
❷ 終了を押して、メニューを消す

● これで「はじめての設定」は終了です。

簡易確認テスト

17 ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

● 簡易確認テストが始まります。
● 受信テストは、BS→110度CS→地上Dの順に行われます。

■「地上D受信テスト」の伝送チャンネルを切り換えるには

❶ ◀・▶で伝送チャンネルを選ぶ
● 受信テストが始まり、結果が表示されます。

❷ 他の伝送チャンネルをテストする場合は、手順❶と同じ操作をする

※ お住まいの地域の地上デジタル放送で使用されている伝送チャンネルがわからない場合は、「地上D受信テスト」を省略して、実際の放送が視聴できるか確認してください。

● 戻るを押すと、テストを中止して前の画面に戻ることができます。
● **テスト結果については、次ページをご覧ください。**

18 簡易確認テストが終了したら、(決定)を押す

- これで「はじめての設定」は終了です。
- (終了)を押して、メニューを消します。

簡易確認テスト結果について

テスト項目	テスト結果の表示	内容または対処のしかた
地上D受信テスト ［地上デジタル放送が受信できることをテストします。］	「正常に受信できています。」	―――
	「正しく受信できません。」	● アンテナの接続 22 と方向調整 27 を確認してください。
BS・110度CS受信テスト ［BSデジタル放送と110度CSデジタル放送が受信できることをテストします。］	「正常に受信できています。」	―――
	「正しく受信できません。」 または「BS（110度CS）は受信できますが110度CS（BS）が受信できません。」	● アンテナの接続 24 と設定・調整 28 を確認してください。
カードテスト ［本機で使えるB-CASカードかどうかテストします。］	「正常に動作しています。」	―――
	「B-CASカードを正しく挿入してください。」	● B-CASカードを正しい向きで挿入後、もう一度簡易確認テストをしてください。
	「このICカードはご使用になれません。正しいB-CASカードを挿入してください。」	
	「このB-CASカードはご使用になれません。」	● B-CASカードを確かめてください。 ● B-CASカードを交換してください。 ● カードに記載のB-CASカスタマーセンターにお問い合わせください。
	「B-CASカードが故障しています。」	
電話回線テスト ［電話回線が正しくつながることをテストします。］	「電話回線の接続を確認しました。」	―――
	「ダイヤルトーンの検出ができませんでした。」	● 電話回線が正しく接続されているか確認し、「電話回線設定」53、54 で設定状態を再確認してください。
	「電話回線の接続を確認できませんでした。」	● ダイヤル方式の設定が正しくないことが考えられます。なお、ターミナルアダプターを使用している場合は、電話回線テストはできません。
	「外線発信番号の設定により電話回線テストができませんでした。」	● 外線発信後の待ち時間 53 を数値で設定している場合は、電話回線テストはできません。この場合に電話回線の確認をするには、「電話回線テスト」の「センター接続テスト」54 をしてください。

「はじめての設定」や「地上A自動設定」 44 をしても地上アナログ放送を正しく受信できない場合

- アンテナの種類（チャンネル1～12はVHF、13～62はUHF）や向きが、設定した地域・都市名の条件に合っていることを確認してください。
- 複数の地域・都市名が隣接する地域にお住まいの場合は、地域・都市名を変えて設定すれば受信状態が改善されることがあります。

  例：お使いになる地域が「横浜みなと」の場合は「横浜・川崎」または「平塚・茅ケ崎」など。

  このような場合は、次のようにして設定します。

❶ **近隣の別の地域・都市にアンテナの種類や向きを合わせる**
- お買い上げの販売店にご相談ください。

❷ **「地上A自動設定」 44 の右側手順1～4を行う**

❸ **手順5（ 45 左側）で、アンテナを向けた地域・都市名を選び、(決定)を押す**

左記をしても地上アナログ放送の一部のチャンネルが正しく受信できない場合

❶ **「手動設定」 47 の手順1～3を行う**

❷ **手順4で、該当する「リモコンボタン」を選び、ほかに受信できる「チャンネル」を選んで、(決定)を押す**

例：地域・都市名を「横浜・川崎」に設定した場合で、リモコンボタン7に割り当てられている「テレビ神奈川」「42CH」だけが正しく受信できないときは、隣接地域の「48CH」（横浜みなと）や「46CH」（小田原）などに変えてみて、正しく受信できるところを探します。

手動設定	地上A
リモコンボタン	7
チャンネル	◀ 48 ▶
表示	42
放送局	TVKテレビ
受信地域	―――

はじめての設定をする つづき

データ放送用メモリーの割当て

● 30 の手順8や、「初期スキャン」45 の手順4などで、データ放送用メモリーの割当て画面が表示されたときには、以下の手順で設定します。

■ 個人の情報とデータ放送用メモリーの割当てについて

● 地上デジタル放送では、放送局ごとに視聴者個人の情報（たとえば、視聴ポイント数など）を利用したサービスが行われる場合があり、本機はその情報を放送局ごとに本機内のデータ放送用メモリーに記憶しています。
通常、メモリーは足りていますが、たとえば、引越しをした場合で、以前受信していた放送局の設定が残っていたときなどには、放送局の数が本機のメモリーの数を超えてしまうことがあります。
その場合には、初期スキャン時などに、データ放送用メモリーの割当て画面（下の手順1の画面）が表示されますので、以下の操作でメモリーを割り当てる放送局を設定してください。
メモリーを割り当てなかった放送局については、個人の情報がすべて消去されますのでご注意ください。

1 メモリーを割り当てる放送局を▲・▼で選び、決定を押す

● 選んだ放送局にチェックマーク「✓」がつきます。
もう一度決定を押すと、指定が取り消されます。
● リモコンの 1 ～ 12 に設定されている放送局（放送局名表示の左側に1 ～ 12の数字が表示されています）については、メモリーが割り当てられるように自動的に設定されています。設定を取り消すことはできません。
● **このあと、手順2 ～ 4の操作をすると、メモリー割当ての指定をしなかった放送局の個人の情報はすべて消去されます。**
消去された情報は元に戻すことはできませんのでご注意ください。

設定の場面によって名称が変わります。

初期スキャン
放送局の数がデータ放送用のメモリーの数を超えています。
メモリーを割り当てたい放送局を9つ選んでください。

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
☑11	テレビ埼玉	○	あり
☑12	テレビ東京	○	あり
☐ --	―――	○	あり
☐ --	―――	○	あり
☐ --	―――	○	あり

選択した放送局の数:12

2 手順1を繰り返し、九つの指定をする

● 1 ～ 12 については自動的に設定されます。それらを除いた九つを指定します。

3 ▶を押す

● 手順4の画面になります。（確認メッセージが表示されます）
● 九つよりも多い場合や少ない場合には、その旨のメッセージが表示されます。
決定を押したあと、手順1 ～ 2の操作で九つの指定をしてください。

4 ◀・▶で「はい」を選び、決定を押す

● 指定した放送局についてデータ放送用メモリーが割り当てられ、このページの設定をする前の場面に自動的に戻ります。
指定以外の放送局の個人の情報はすべて消去されます。

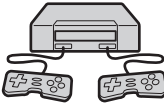
初期スキャン

リモコン	放送局	受信状態	メモリー割当
5	MXテレビ	○	あり
6	TBS	○	あり
7	TVKテレビ	○	あり

メモリーを割り当てる放送局は上記でよろしいですか?
はい　いいえ
メモリーを割り当てなかった放送局に関するデータはすべて消去されます。消去されたデータは元に戻すことができませんのでご注意ください。

5 このページの設定をする前の操作を続ける

● 「はじめての設定」の中の「初期スキャン」の場合
31 の手順9へ
● 「初期スキャン」の場合
45 の右側手順5へ
● 「再スキャン」の場合
45 の右側手順2または 46 の左側手順3へ

お知らせ
● 個人の情報を消去するには、「すべての初期化」をしてください。63

本機に接続できる外部機器一覧

● 本機に接続できるおもな外部機器は以下のとおりです。接続や設定のしかたはそれぞれの参照ページをご覧ください。

● 接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。
● 他の機器を接続するときは、必ず本機および接続する機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
● 録画または録音したものは個人的に楽しむほかは、著作権法によって権利者に無断で使用することはできません。

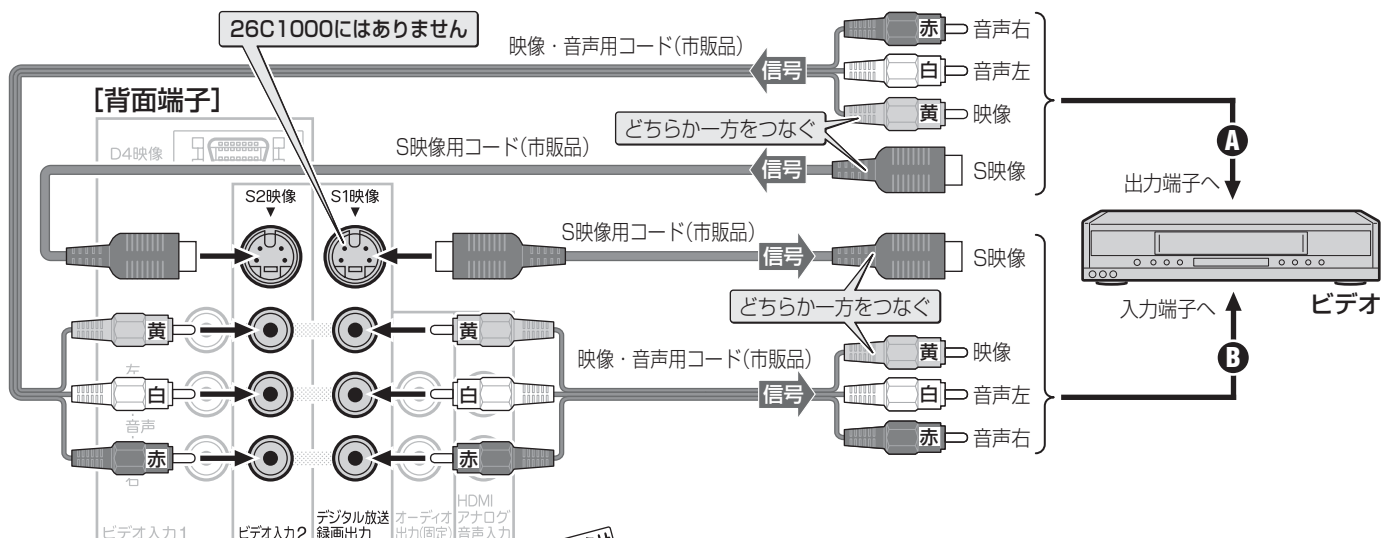
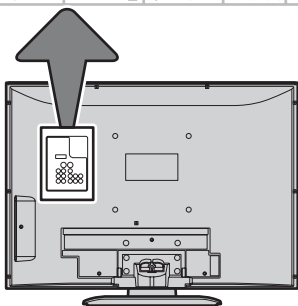
テレビ（本機）

接続できる外部機器	参照ページ
ビデオ	接続 36
DVDプレーヤー	接続 36
ビデオレコーダー（東芝RDシリーズ）	接続 37、39 設定 38、40
HDMI端子付機器	接続 41 設定 61
ステレオ	接続 42 設定 62
テレビゲーム機	接続 43

● 外部機器を接続するためのコードやケーブルは本機に付属していません。接続する機器や設置条件に合わせて、市販の適切なものを別途お買い求めください。
● 本機のビデオ入力1のD4映像入力端子と映像入力端子に同時に接続したときは、D4映像入力端子を優先します。
● 本機のビデオ入力2、ビデオ入力3のS2映像入力端子と映像入力端子に同時に接続したときは、S2映像入力端子を優先します。（26C1000にはビデオ入力3のS2映像入力端子はありません）
● 接続機器の音声出力がモノラルのときは、市販のステレオ／モノラル変換コードをご使用ください。
● DVDプレーヤーやデジタルチューナーなど、コピー制御のかかった映像を出力する機器は、本機に直接つないでください。（ビデオやAVアンプなどを経由すると映像が乱れる場合があります）

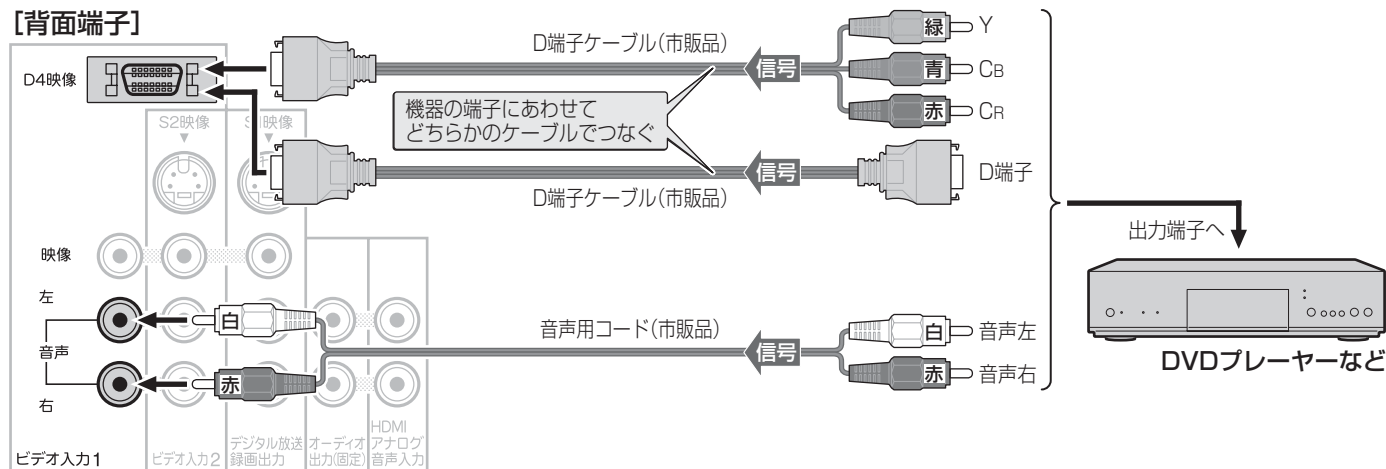
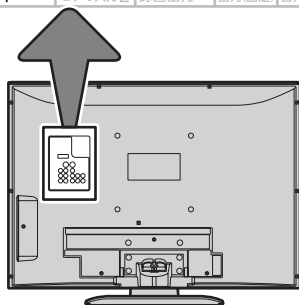
ビデオやDVDプレーヤーをつなぐ

ビデオをつなぐ

● ビデオの再生映像を本機で見るには、Ⓐの接続をします。
● 本機で受信したデジタル放送をビデオで録画するには、Ⓑの接続もします。

お知らせ

● 上図の例では、S映像用コードと音声用コードで本機の「ビデオ入力2」につないでいますが、D端子付きの機種では、D端子ケーブルと音声用コードで「ビデオ入力1」につなぐこともできます。
● デジタル放送録画出力端子からは、本機からの録画をしているときにだけ、映像·音声の信号が出力されます。
● 自動録画機能(映像信号の入力を検出して自動録画をする機能)のあるビデオの場合には、本機の操作で録画することができます。
● 自動録画機能のないビデオの場合には、本機の操作のほかにビデオ側でも録画の操作や録画予約の設定をしてください。
● 録画や録画予約については、「録画·予約をする」(操作編 24)をご覧ください。

DVD プレーヤーをつなぐ

● DVDプレーヤーやビデオなどで、D端子やコンポーネント映像(Y、CB、CR)出力端子のある機器は、下図のようにD端子ケーブルと音声用コードで本機の「ビデオ入力1」につなぎます。
● D端子やコンポーネント映像出力端子がない場合は、映像・音声用コードでつなぎます。S映像出力端子がある場合は、S映像用コードと音声用コードで「ビデオ入力2」につなぐこともできます。

お知らせ

● ビデオ入力1のD4映像入力端子は、コンポーネント映像信号の525i(480i)、525p(480p)、750p(720p)、1125i(1080i)に対応しています。DVDプレーヤーやビデオなどのほかに、これらのフォーマットの映像信号を出力する機器をつなぐことができます。

東芝製HDD&DVDビデオレコーダーをつなぐ

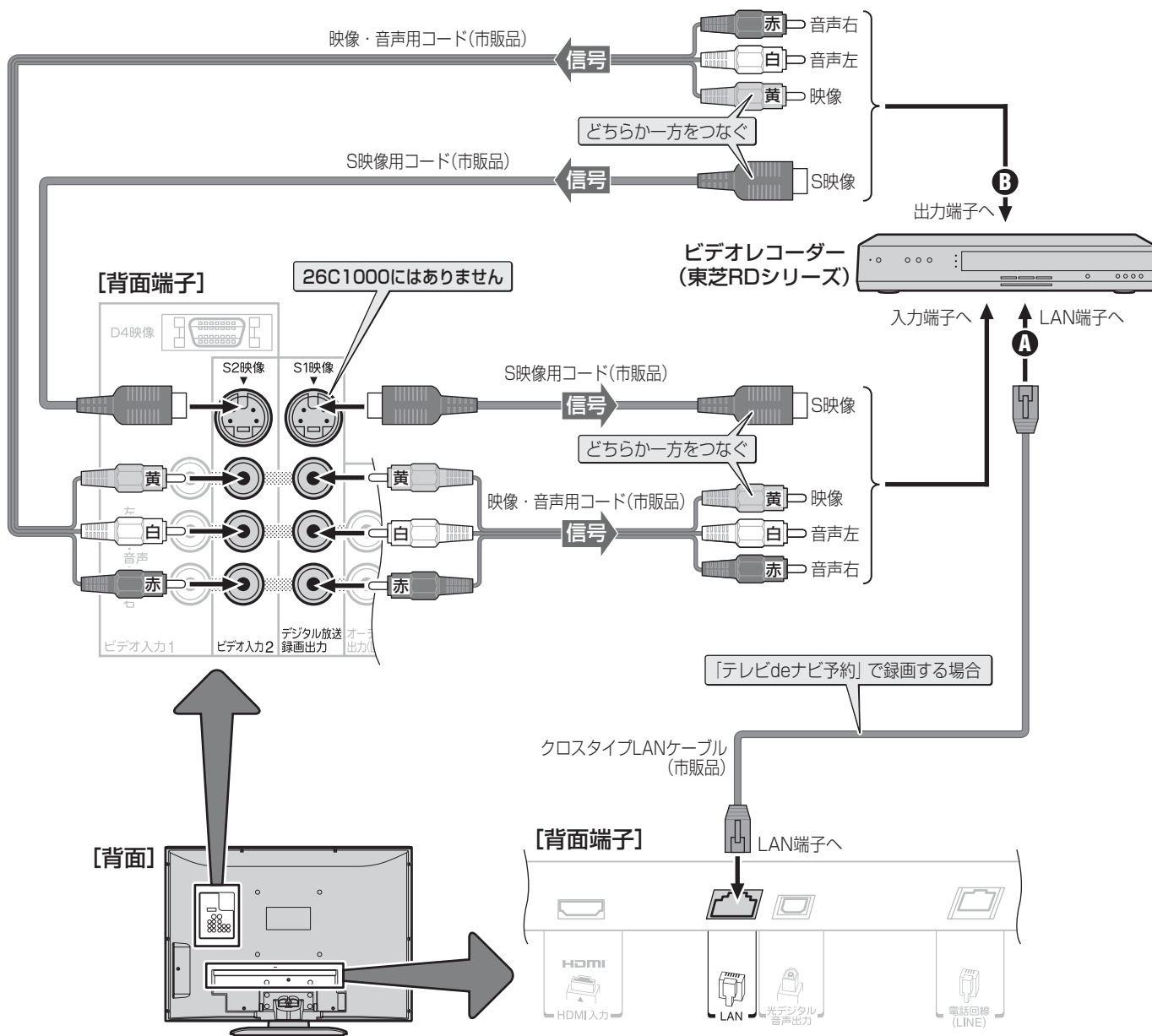
● 本機と東芝製HDD&DVDビデオレコーダーを使って「テレビdeナビ予約」（連動予約）をする場合のつなぎかたです。

直接つなぐ

※「LAN端子の接続」26をしていない場合（本機とビデオレコーダーのLAN端子を直接つなぐ場合）

● LANケーブルⒶの接続をすることで、本機の「録画・予約をする」（操作編24）での予約内容がビデオレコーダーに設定されます。（本書や別冊「操作編」では、この機能を「テレビdeナビ予約」と記載しています）
● 下図の例（Ⓑ）では、S映像用コードや映像・音声用コードで本機の「ビデオ入力2」につないでいますが、D端子付きの機種では、D端子ケーブルと音声用コードで「ビデオ入力1」につなぐこともできます。
● 接続後は次ページの設定をしてください。

● LANケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルの2種類があります。本機とビデオレコーダーを直接つなぐ場合には、クロスケーブルをご使用ください。
● 「LAN端子の接続」26の「ご注意」もお読みください。

映像・音声用コード（市販品）
信号
赤 音声右
白 音声左
黄 映像
どちらか一方をつなぐ
S映像用コード（市販品）
信号
S映像
Ⓑ
出力端子へ
ビデオレコーダー（東芝RDシリーズ）
入力端子へ
LAN端子へ
Ⓐ
［背面端子］
26C1000にはありません
D4映像
S2映像
S1映像
S映像用コード（市販品）
信号
S映像
どちらか一方をつなぐ
映像・音声用コード（市販品）
信号
黄 映像
白 音声左
赤 音声右
ビデオ入力1
ビデオ入力2
デジタル放送録画出力
「テレビdeナビ予約」で録画する場合
クロスタイプLANケーブル（市販品）
［背面］
［背面端子］
LAN端子へ
HDMI入力
LAN
光デジタル音声出力
電話回線（LINE）

● 本機の「テレビdeナビ予約」で録画予約ができるビデオレコーダー（東芝RDシリーズ）－2006年2月現在－
形名：RD-XS24、RD-X3、RD-XS31、RD-XS34、RD-XS36、RD-XS37、RD-XS38、RD-X4、RD-X4EX、RD-XS40、RD-XS41、RD-XS43、RD-XS46、RD-X5、RD-XS53、RD-XS57、RD-X6、RD-XD71、RD-XD91、RD-XV34、RD-XV44、RD-H1、RD-H2、RD-T1
● デジタル放送録画出力端子からは、本機からの録画をしているときにだけ、映像・音声の信号が出力されます。

東芝製HDD&DVDビデオレコーダーをつなぐ つづき

直接つなぐ場合の設定をする

● 前ページの接続をした場合の設定です。本機とビデオレコーダーを直接クロスタイプLANケーブルで接続して、「テレビdeナビ予約」の機能を使うための設定をします。ビデオレコーダーと本機の電源を入れて、以下の設定をしてください。

ビデオレコーダーの「ネットワーク設定」をする

● この手順は、ビデオレコーダー側の設定です。ビデオレコーダーの取扱説明書を参照して、以下の設定をしてください。

1 「ネットワーク設定」の画面にする

2 以下を設定して保存する

● メモした内容は、右の「テレビdeナビ設定」で使います。

項　目	設定内容
本体名	※ 設定内容を確認し、メモする
本体ユーザー名	
本体パスワード	
本体ポート番号	
DHCP	使わない
IPアドレス	192. 168. 1. 15
サブネットマスク	255. 255. 255. 0
デフォルトゲートウェイ	192. 168. 1. 1
DNSサーバー	192. 168. 1. 1

本機の「LAN端子設定」をする

1 「LAN端子設定」 55 ～ 56 を以下のように設定する

● 「IPアドレス設定」

項　目	設定内容
IPアドレス自動取得	しない
IPアドレス	192. 168. 1. 20
サブネットマスク	255. 255. 255. 0
デフォルトゲートウェイ	192. 168. 1. 1

● 「DNS設定」

項　目	設定内容
DNSアドレス自動取得	しない
DNSアドレス(プライマリ)	192. 168. 1. 1

※ DNSアドレス(セカンダリ)の入力は不要です。

● 「プロキシ設定」：「使用しない」に設定

2 終了 を押して、メニューを消す

3 本体の電源ボタンで電源を切ってから、電源を入れ直す

● 設定した内容が有効になります。

本機の「テレビdeナビ設定」をする

1 以下の操作で「テレビdeナビ設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲･▼で「テレビdeナビ設定」を選び、決定を押す

テレビdeナビ設定	
RD本体名	
ユーザー名	
パスワード	未設定
ポート設定	80
連動ライン入力番号	ライン入力3

2 ▲･▼で「RD本体名」を選び、決定を押す

● 文字入力画面になります。操作編 22 の文字入力のしかたを参照して、左上の手順2でメモした本体名を入力してください。

3 同様にして以下を設定する

❶ ▲･▼で「ユーザー名」を選び、ビデオレコーダーの本体ユーザー名を入力する

❷ ▲･▼で「パスワード」を選び、ビデオレコーダーの本体パスワードを入力する

❸ ▲･▼で「ポート設定」を選び、ビデオレコーダーの本体ポート番号を入力する

4 ▲･▼で「連動ライン入力番号」を選び、本機を接続したビデオレコーダーのライン入力を◀･▶で選ぶ

5 終了 を押して、メニューを消す

6 本体の電源ボタンで電源を切ってから、電源を入れ直す

● 設定した内容が有効になります。

● ルーターを通してつなぐ場合は、上記と異なる設定をします。 40

ルーターを通してつなぐ

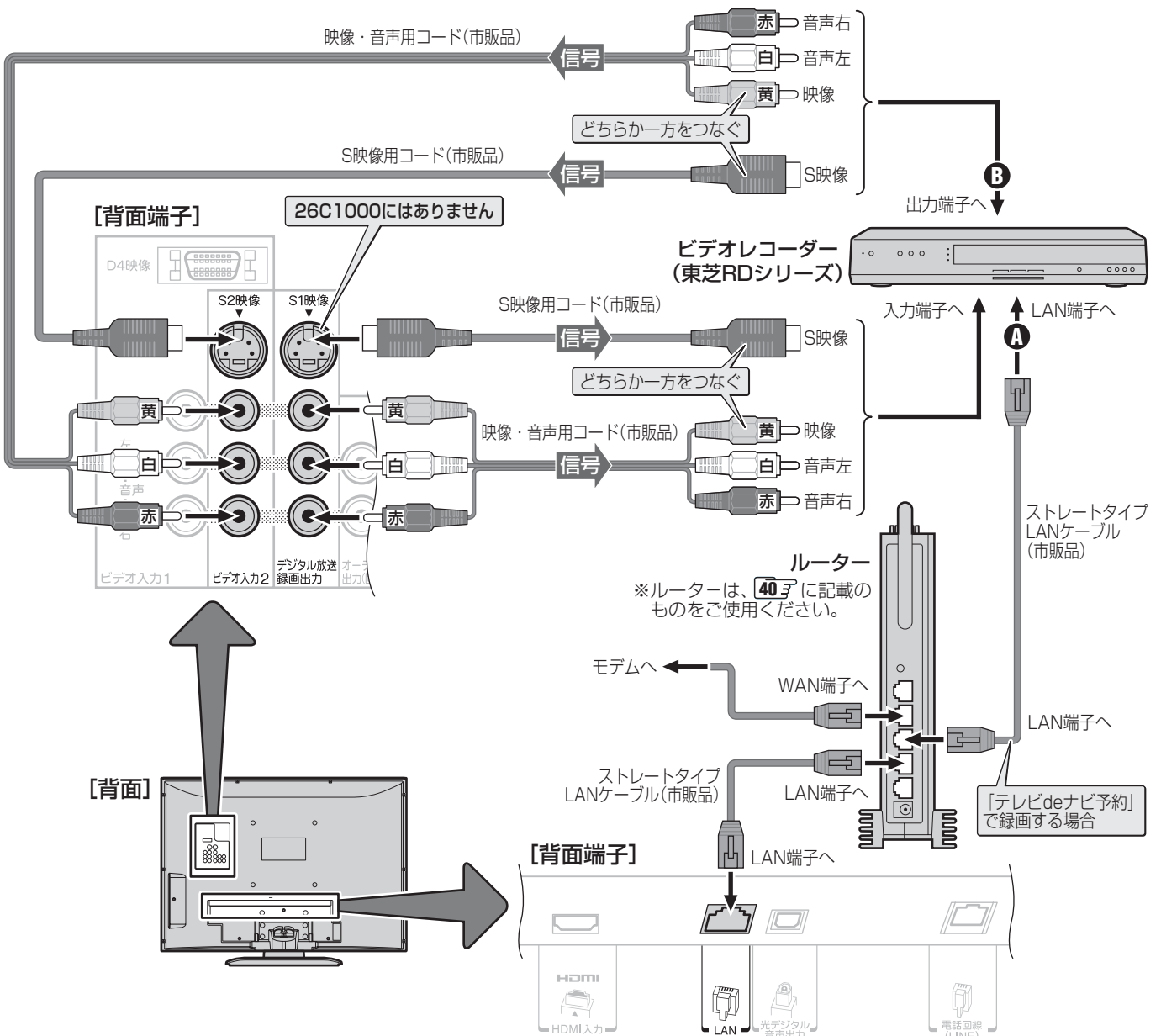
※「LAN端子の接続」26ページをしている場合のつなぎかたです。

- LANケーブルⒶの接続をすることで、本機の「録画・予約をする」(操作編 24ページ)での予約内容がビデオレコーダーに設定されます。(本書や別冊「操作編」では、この機能を「テレビdeナビ予約」と記載しています)
- 下図の例(Ⓑ)では、S映像用コードや映像・音声用コードで本機の「ビデオ入力2」につないでいますが、D端子付きの機種では、D端子ケーブルと音声用コードで「ビデオ入力1」につなぐこともできます。
- 接続後は次ページの設定をしてください。

- LANケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルの2種類があります。ルーターを通して本機とビデオレコーダーをつなぐ場合には、ストレートケーブルをご使用ください。
- 「LAN端子の接続」26ページの「ご注意」と、次ページの「LAN端子についてのお知らせとご注意」もお読みください。

映像・音声用コード(市販品)
信号
赤 音声右
白 音声左
黄 映像
どちらか一方をつなぐ
S映像用コード(市販品)
S映像
Ⓑ
出力端子へ
[背面端子]
26C1000にはありません
D4映像
S2映像
S1映像
ビデオレコーダー
(東芝RDシリーズ)
入力端子へ
LAN端子へ
Ⓐ
ビデオ入力1
ビデオ入力2
デジタル放送録画出力
ストレートタイプ
LANケーブル
(市販品)
ルーター
※ルーターは、40ページに記載のものをご使用ください。
モデムへ
WAN端子へ
LAN端子へ
「テレビdeナビ予約」で録画する場合
ストレートタイプ
LANケーブル(市販品)
[背面]
[背面端子]
HDMI入力
LAN
光デジタル音声出力
電話回線(LINE)

お知らせ
- 37ページの「お知らせ」をご覧ください。

東芝製HDD&DVDビデオレコーダーをつなぐ つづき

ルーターを通してつなぐ場合の設定をする

- 前ページの接続をした場合の設定です。本機とビデオレコーダーをインターネット常時接続環境に接続して、「テレビdeナビ予約」の機能を使うための設定をします。
- 最初にルーターの電源を入れ、続いて他の機器の電源を入れて、以下の設定をしてください。

ルーターのDHCP機能を確認する

- DHCP機能が「有効」になっていることを確認してください。出荷時点で「有効」の状態に設定されているのが一般的ですが、詳しくはルーターの取扱説明書をご覧ください。

ビデオレコーダーの「ネットワーク設定」をする

- この手順は、ビデオレコーダー側の設定です。ビデオレコーダーの取扱説明書を参照して、以下の設定をしてください。

1 「ネットワーク設定」の画面にする

2 以下を設定して保存する

- メモした内容は、「テレビdeナビ設定」で使います。

項　目	設定内容
本体名	※ 設定内容を確認し、メモする
本体ユーザー名	
本体パスワード	
本体ポート番号	
DHCP	使う

本機の「LAN端子設定」をする

1 「LAN端子設定」55～56を以下のように設定する

- 「IPアドレス設定」

項　目	設定内容
IPアドレス自動取得	する（お買い上げ時の状態です）

- 「DNS設定」

項　目	設定内容
DNSアドレス自動取得	する（お買い上げ時の状態です）

2 終了を押して、メニューを消す

3 本体の電源ボタンで電源を切ってから、電源を入れ直す

- 設定した内容が有効になります。

本機の「テレビdeナビ設定」をする

- 手順の内容は38と同じです。

LAN端子についてのお知らせとご注意

- 「LAN端子の接続」26、「東芝製HDD&DVDビデオレコーダーをつなぐ」の「ルーターを通してつなぐ」39をする場合には、以下をお読みください。

■ 本機が接続できるルーターについて

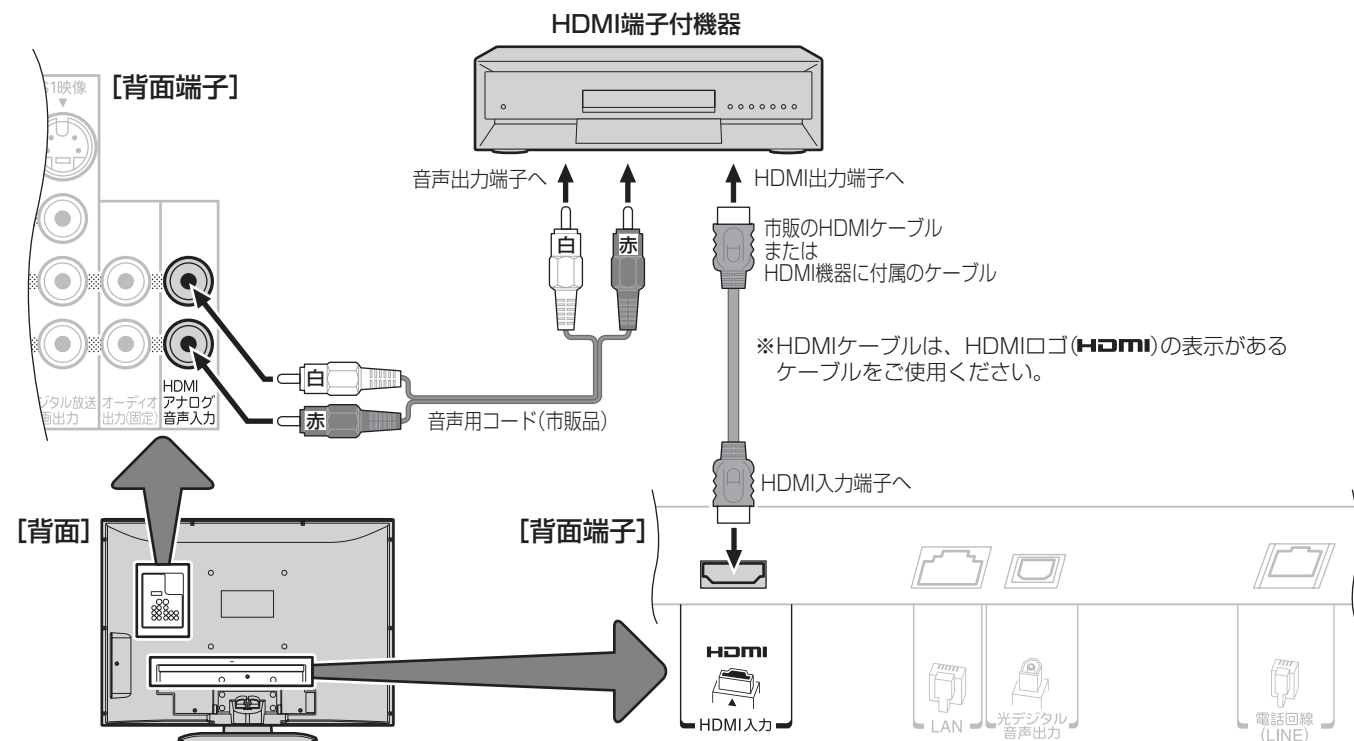
- 以下の製品での有線接続で正常動作を確認済です。無線接続の場合や、他の製品では本機が正常に動作しない場合があります。

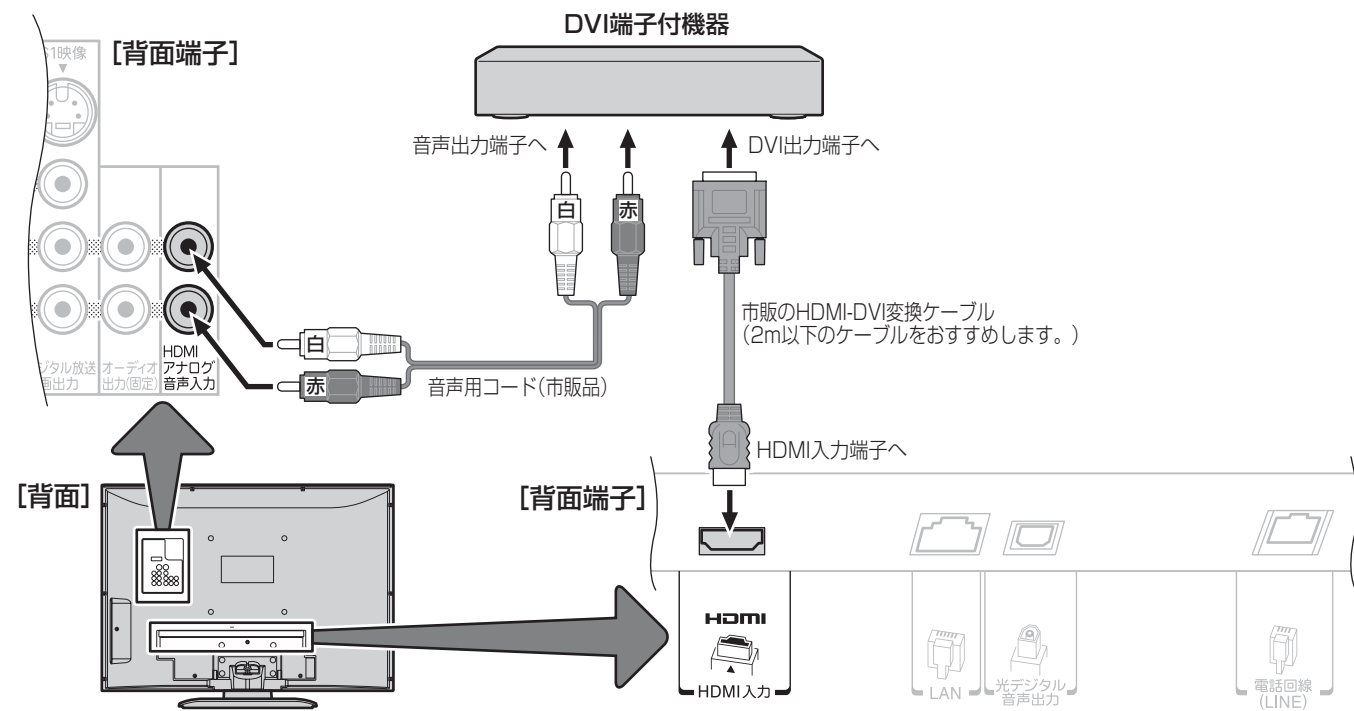
メーカー名：プラネックスコミュニケーションズ（株）
形　　　名：BLW-04FMG

■ ご注意

- イーサネット通信機能は、本機が動作状態のときにだけ使用できます。
- プロバイダー（インターネット接続事業者、以下同じ）側の設定や制限によっては、LAN機能の一部が使用できない場合があります。
- 電話通信事業者およびプロバイダーとの契約費用および利用料金などは、お客様ご自身でお支払いください。
- ADSLを利用するには、ADSLモデムが必要です。通信事業者やプロバイダーが採用している接続の方式や契約の約款などによって、本機を使用できない場合や、同時接続する台数に制限や条件がある場合があります。（契約が一台に制限される場合、すでに接続されているパソコンがあると、本機を二台目として接続することが認められていないことがあります）
- 基本的には、カテゴリ5（CAT5）と表示された10BASE-T/100BASE-TXのLANケーブルをご使用ください。ただし、接続機器がすべて10BASE-Tの場合は、カテゴリ3のケーブルも使用できます。
- 以下の場合やご不明な点は、ご契約のADSL回線事業者やケーブルテレビ会社、プロバイダーにお問い合わせください。
  - ご契約によっては、本機やパソコンなどの機器を複数接続できないことがあります。
  - 一部のインターネット接続サービスでは、本機を利用できないことがあります。
  - プロバイダーによっては、ルーターの使用を禁止あるいは制限している場合があります。
  - ADSL回線の状況によっては、うまく通信できないことがあります。
  - ADSLモデムやケーブルモデムについてご不明な点など。
- ご使用のモデムなどによっては、正常に通信できない場合があります。
- 26、39で図示した以外の機器が接続されているときは、正常に通信できない場合があります。

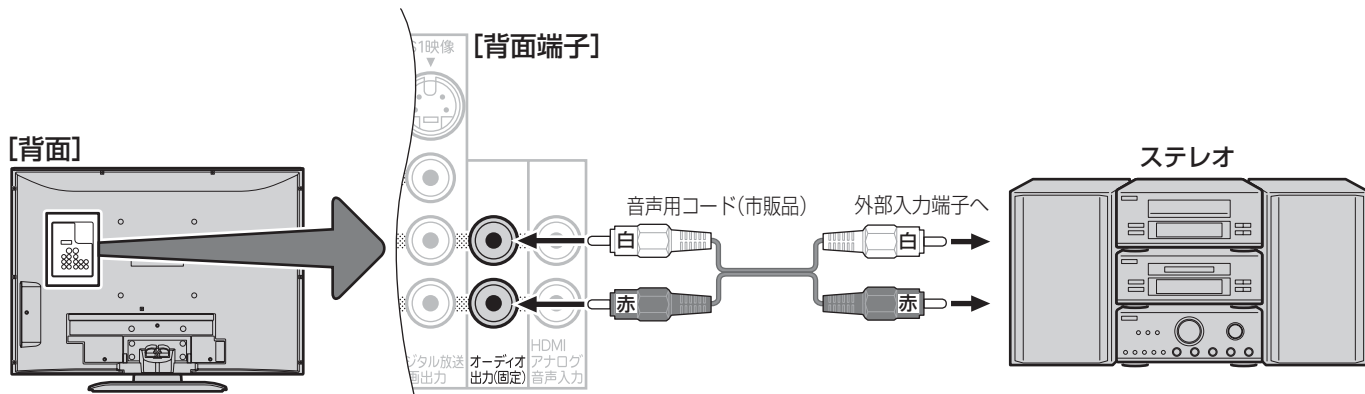
HDMI端子付の機器をつなぐ

● HDMI端子とは、テレビと接続機器をデジタル信号でつなぐことができるインターフェイス（接続システム）です。
● 下図の音声用コードも接続しておくことをお勧めします。本機が対応していないHDMI音声信号が入力された場合に、自動的にアナログ音声に切り換わります。
※ **下図の接続で音声が出ない場合は、「HDMI音声入力設定」61 を「アナログ」に設定してください。**

DVI端子付の機器とつなぐ場合

● DVI-HDMI変換ケーブルを使えば、DVI端子付の機器もつなげます。ただし、パソコンのDVI端子との接続には対応していません。また、DVI端子からは音声が出力されないので、下図のように音声用コードでつなぐ必要があります。

お知らせ

● 本機にはHDMIおよびDVI機器を接続できますが、接続する機器によっては映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
● 本機のHDMI端子が対応している映像信号
525i（480i）、525p（480p）、750p（720p）、1125i（1080i）
● 本機のHDMI端子が対応している音声信号
種類：リニアPCM、　サンプリング周波数：48kHz／44.1kHz／32kHz

ステレオにつなぐ

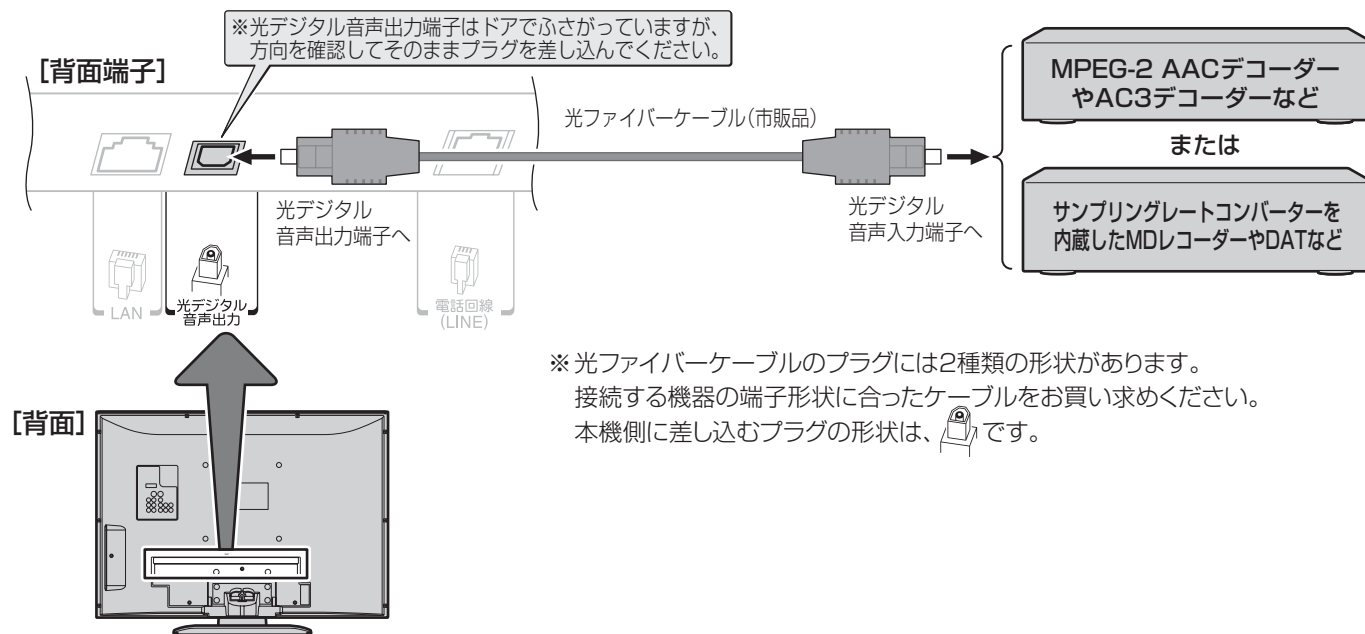
オーディオ出力(固定)端子を使って接続する場合

光デジタル音声出力端子を使って接続する場合

■ MDレコーダーやDATにつなぐ場合

- MDレコーダーやDATの光デジタル音声入力端子につなげば、高音質で録音して楽しむことができます。
- 「光デジタル音声出力設定」62 を「PCM」に設定します。

■ MPEG-2 AACデコーダーやAC3デコーダーなどにつなぐ場合

- デジタル放送のMPEG-2 AACまたはAC3方式の信号を、MPEG-2 AACデコーダーまたはAC3デコーダーで楽しむことができます。
- 「光デジタル音声出力設定」62 を「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定します。

※ 光ファイバーケーブルのプラグには2種類の形状があります。
接続する機器の端子形状に合ったケーブルをお買い求めください。
本機側に差し込むプラグの形状は、　です。

使いかた

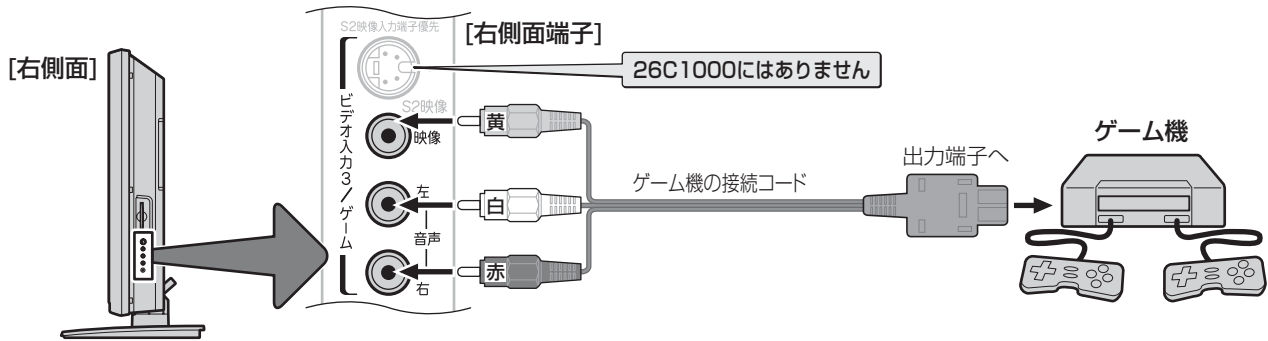
- 本機の音量をゼロにして、ステレオ機器側で音量を調整します。

お知らせ

■ 光デジタル音声出力端子について

- 本機が出力する光デジタル音声出力のサンプリング周波数は、「PCM」(リニアPCM)の場合、48kHzまたは32kHzです。
- サンプリングレートコンバーターを内蔵していないMDレコーダーには、デジタル信号での録音はできません。
- 光デジタル音声出力設定が「デジタルスルー」や「サラウンド優先」に設定されている場合で、MPEG-2 AAC、またはAC3音声の場合には、データ放送の一部の音声(効果音など)が光デジタル音声出力端子から出力されないことがあります。
- MPEG-2 AAC、またはAC3音声の場合には、主音声・副音声の切換は本機では行われません。MPEG-2 AACデコーダーやAC3デコーダー側で切り換えてください。
- HDMI入力の選択時に光デジタル音声出力端子から出力される信号を、他の機器に録音することはできません。

ゲーム機をつなぐ

● ゲーム機は、本機右側面のビデオ入力3/ゲーム端子につなぎます。
● 入力切換（操作編 11）で「ビデオ入力3/ゲーム」を選択すれば、ゲームに適した画質と画面サイズになります。
● 一時的にDVビデオカメラなどをつないで使うときは、入力切換で「ビデオ入力3/ゲーム」を選んでから 終了 を押します。
● 常にゲーム機以外の機器をつなぐ場合は、「ビデオ入力表示設定」 61 で「ゲーム」以外に設定してください。
※ テレビ画面に向けて光線銃などを使うゲームは本機では使用できません。（原理上、正しく動作しません）
※ ビデオ入力1～3のどれにでも接続して楽しめます。ビデオ入力3以外につないだ場合は、「ビデオ入力表示設定」 61 で、ゲーム機をつないだ入力を「ゲーム」に設定してください。

アンテナ設定

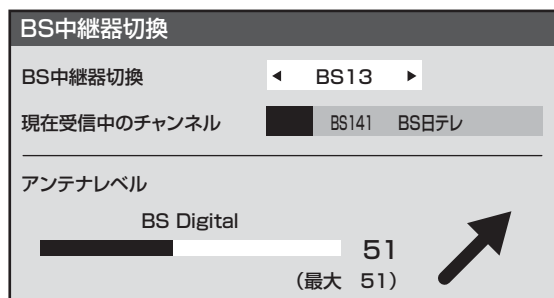
● アンテナ電源供給とアンテナレベルについては 27 ～ 28 をご覧ください。

BS中継器切換／ 110度CS中継器切換

● 衛星の中継器が故障してすべての放送が受信できなくなってしまったときに、他の中継器に切り換えると、故障した中継器以外の放送が受信できます。通常は切換えの必要はありません。
● そのほかにも、外部機器からの電波の妨害などで一部の中継器が受信できない場合も同様です。

1 以下の操作で「BS中継器切換」または「110度CS中継器切換」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「アンテナ設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「BS中継器切換」または「110度CS中継器切換」を選び、決定を押す

2 ◀·▶で中継器を切り換え、放送が受信できたら、決定を押す

(例)BS 中継器切換の場合

● 選択できる中継器は
• BSデジタル放送の場合：
BS01、BS03、BS05、BS07、BS09、BS11、BS13、BS15
• 110度CSデジタル放送の場合：
ND02、ND04、ND06、ND08、ND10、ND12、ND14、ND16、ND18、ND20、ND22、ND24

※ 中継器は2006年2月現在の状態です。

3 を押して、メニューを消す

チャンネル設定

● 「はじめての設定」 29 が済んでいて、特に変更の必要がない場合は「チャンネル設定」をする必要はありません。
● チャンネル設定には、「自動設定」と「手動設定」 47 があります。

自動設定

● 「自動設定」では、地上アナログ放送と地上デジタル放送が設定できます。
● BSデジタルチャンネルと、110度CSデジタルチャンネルについては、お買い上げ時に設定されています。(操作編 9 のお知らせをご覧ください)

地上アナログ放送の場合

● テレビをご覧になる地域で放送されているチャンネル(VHF/UHF)を自動で設定することができます。
● お買い上げ時は、リモコンのダイレクト選局ボタン 1 ～ 12 にはVHFの1 ～ 12チャンネルが番号と同じに設定されています。
● 地上A自動設定は、「地上アナログ放送の自動設定一覧表」(資料編 6 ～ 13)の内容で設定されますが、チャンネルが変更になり受信できなくなることがあります。受信できないチャンネルがあるときは、「手動設定」 47 で設定してください。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ メニュー (リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上A自動設定」を選び、決定を押す

3 お住まいの地方を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

4 お住まいの都道府県を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

お知らせ

■ 地上アナログ放送のチャンネル設定について
● お使いの地域・都市名で地上A自動設定をしても正しく受信できない場合は、 33 をご覧ください。
● ダウンロード(操作編 38)によって、本機内に設定している「地上アナログ放送の自動設定一覧表」(資料編 6 ～ 13)の内容が変わる場合があります。その結果、選択の手順**3** ～ **5**の項目が変わる場合もあります。
● 設定したチャンネルを一覧表示して確認する場合や、受信できないチャンネルがあるときは、「手動設定」の「地上アナログ放送の場合」 47 で設定してください。
● 地上アナログ放送の番組表を使用する場合で、上の手順**3**、**4**で設定した地域以外のチャンネルを受信する場合は、必要に応じて「手動設定」の「地上アナログ放送の場合」で、該当するチャンネルの「受信地域」を変更してください。

5 お住まいの地域・都市を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

- お住まいの地域や都市名が記載されていない場合は、アンテナが向いている近くの地域名を選びます。
- 自動で設定されるチャンネルについては一覧表(資料編 6～13)をご覧ください。
- 設定された内容を変更したい場合は「手動設定」47 をしてください。

6 終了を押して、メニューを消す

地上デジタル放送の場合

- 地上デジタル放送の自動設定には、引越しなどで受信地域が変わったときにする「初期スキャン」と、放送チャンネルに変更があったときにする「再スキャン」があります。また、電源待機時に自動的に行う「自動スキャン」もあります。

初期スキャン

- 受信可能なチャンネルを自動的に探して、リモコンの1～12に放送の運用規定に基づいて設定します。
- 「初期スキャン」をするとこれまでに選局設定した内容は、すべて消去されて、設定し直されますのでご注意ください。ただし、各放送局ごとにお客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数などは消去されません。
- 「はじめての設定」終了後、新たに開局した地上デジタル放送チャンネルを登録する場合や中継局が新設、変更された場合は、右の「再スキャン」をしてください。
- 自動設定される内容は「地上デジタル放送の放送(予定)一覧表」(資料編 14～15)が目安となります。

1 以下の操作で「地上D自動設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「地上D自動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「初期スキャン」を選び、決定を押す

3 お住まいの地方を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

4 お住まいの都道府県または地域を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

- データ放送用のメモリー割当て画面が表示された場合は 34 をご覧ください。

5 初期スキャン終了のメッセージ画面が表示されたら、以下をする

設定された内容を確認する場合

❶ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す
❷ 設定内容を確認したら決定を押す

- 設定された内容を変更したい場合は、「初期スキャン」終了後に「手動設定」48 をしてください。

設定された内容を確認しない場合

❶ ◀·▶で「いいえ」を選び、決定を押す

6 終了を押して、メニューを消す

再スキャン

- 新たに放送局が開局したりしてチャンネルがふえた場合など、放送に変更があった場合は、「再スキャン」をすることによって、チャンネルを追加設定することができます。
- 「初期スキャン」をしていないと「再スキャン」はできません。

1 以下の操作で「地上D自動設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「地上D自動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「再スキャン」を選び、決定を押す

- データ放送用のメモリー割当て画面が表示された場合は 34 をご覧ください。
- 再スキャンの結果、放送に変更があった場合は、1～12への設定方法を選ぶ画面が表示されます。▲·▼でどちらかを選び、決定を押します。
  - **すべて設定し直す**……地上デジタル放送のすべての設定をし直します。
  - **現在の設定に追加する**…1～12の未設定のボタンだけを新たに設定します。

- 「はじめての設定」29 と「初期スキャン」では、地方·都道府県·地域の設定のしかたが異なっています。これは「はじめての設定」では、地上アナログと地上デジタルの設定を同時にまとめて行っているためです。

チャンネル設定 つづき

自動設定 つづき

地上デジタル放送の場合 つづき

3 再スキャン終了のメッセージ画面が表示されたら、以下をする

■ 設定された内容を確認する場合

❶ ◀·▶で「はい」を選び、(決定)を押す

❷ 設定内容を確認したら(決定)を押す

● 設定された内容を変更したい場合は「再スキャン」終了後「手動設定」 48 をしてください。

■ 設定された内容を確認しない場合

❶ ◀·▶で「いいえ」を選び、(決定)を押す

4 を押して、メニューを消す

■ 自動スキャン

● 「自動スキャン」は電源待機時に行われます。

● **「初期スキャン」 30、45 が行われていないと、自動スキャンは実行されません。**

● 自動スキャンで放送局の変更が見つかった場合は、本機のチャンネル設定の内容を自動で変更し、「本機に関するお知らせ」（操作編 22）でお知らせします。

● 変更後の受信できるチャンネルについては「放送局名」のリスト（操作編 16）でご確認ください。（枝番（操作編 9）だけが変更されている場合もあります）

● 図1の「お知らせ」が届いた場合は、データ放送用メモリーの割り当てを変更してください（「データ放送用のメモリーの割り当て」は再スキャンの最後に設定しますので、「再スキャン」をしてください）。この場合は選局時などに再スキャンアイコンを表示してお知らせします。

> 放送局の変更がありました。
>
> 放送局の変更（追加·削除など）がありました。放送局の変更によりデータ放送用のメモリーが割り当てられていない放送局がありますので、設定メニューの「再スキャン」を行ってください。

図1

● お買い上げ時は「自動スキャンする」に設定されています。チャンネル設定した内容を自動で変更させたくない場合は、「自動スキャンしない」に設定してください。

● 自動スキャンは電源待機時に不定期に行われます。このため、「自動スキャンする」に設定していても、本機のチャンネル設定が最新になっていない場合があります。特に録画予約の際にはご注意ください。

※ 放送局の変更があった場合（もよりの放送局などから、そのような情報を得た場合）は、再スキャンをすることをお勧めします。

1 以下の操作で「地上D自動設定」画面にする

❶ (メニュー)（リモコンとびら内）を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、(決定)を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、(決定)を押す

❹ ▲·▼で「地上D自動設定」を選び、(決定)を押す

2 ▲·▼で「自動スキャン」を選び、(決定)を押す

3 ▲·▼で「自動スキャンする」または「自動スキャンしない」を選び、(決定)を押す

● 「自動スキャンしない」を選ぶと、「再スキャン」をしないかぎり、新しいチャンネルや変更になったチャンネルが受信できません。

4 を押して、メニューを消す

■ 再スキャンの動作について

● 前ページの「初期スキャン」の場合は、すでに地上ダイレクト選局ボタン (1)～(12) に設定されている放送局をすべて消去して、新たに放送局を設定し直します。
再スキャンでは次のようになります。

・ すでに放送局が登録されている地上ダイレクト選局ボタンについて、再スキャンによって放送システム上の規定で設定すべき放送局が新たに見つかった場合、すでに登録されている放送局をそのまま残すのか、新たな放送局に設定し直すのかの選択ができます（手順**2**の操作）。（すべてのボタンについてまとめて選択します。個別の選択はできません。個別に設定を変えたい場合は、再スキャン終了後に「手動設定」 48 で行ってください）

・ 新たな放送局が見つからなかった地上ダイレクト選局ボタンについては、そのまま設定が残ります。

● 再スキャン後の各チャンネルの構成については、「放送局名」のリストで確認できます。（操作編 16）

● 再スキャンをしても、枝番（操作編 9）については、通常は変更されません。

● 電波が弱い場合には、再スキャンした結果、チャンネルの設定がされても、正常には受信できないことがあります。

手動設定

● リモコンのボタンに設定されている内容を変更したいときに行います。

地上アナログ放送(VHF／UHF／CATV C13〜C38)の場合

● 以下の場合にも手動設定をしてください。
- 自動設定で正しく受信できないとき
- 設定されたチャンネル表示を変えたいとき
- 地上アナログ放送用の番組表の地域設定を変更するとき
- CATVのチャンネルを1あ〜12っに設定したいとき

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲･▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲･▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲･▼で「地上A」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1あ〜12っ)の番号を▲･▼で選び、決定を押す

手動設定　地上A

リモコン	チャンネル	表示	放送局
1	1	1	NHK総合
2	2	2	
3	3	3	NHK教育
4	4	4	日本テレビ
5	16	16	放送大学
6	6	6	TBS

リモコンボタンの番号
※▼を押し続ければ、7〜12が表示されます。

4 次の❶〜❹の手順で、それぞれの項目を設定する

手動設定　地上A

リモコンボタン	5
❶ チャンネル	◀ 14 ▶
❷ 表示	5
❸ 放送局	MXテレビ
❹ 受信地域	23区

❶ ▲･▼で「チャンネル」を選び、◀･▶で地上アナログ放送のチャンネルを選ぶ

● ◀･▶を押すと次のように切り換わります。
（◀･▶を押し続けると、チャンネルを早く切り換えることができます）

地上アナログ放送(1〜62) ⟷ CATV(C13〜C38)

● 色が消えたり、映像が不安定になったりしたときに、≪･≫で微調整するとよくなる場合があります。
※ 調整前の状態に戻すには◀･▶でチャンネルを選び直してください。

❷ ▲･▼で「表示」を選び、画面に表示させるチャンネル番号を◀･▶で選ぶ

● ◀･▶を押すと次のように切り換わります。

地上アナログ放送(1〜62) ⟷ CATV(C13〜C38) ⟷ BSアナログ放送(BS1、BS3、…BS15)(CATVで放送されている場合)

❸ ▲･▼で「放送局」を選び、◀･▶で放送局名を選ぶ

●「表示しない」を選ぶこともできます。

❹ ▲･▼で「受信地域」を選び、◀･▶でアンテナの向いている放送局の地域を選ぶ

※ これは地上アナログ放送の番組表を使うための設定です。

5 決定を押す

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順**3**〜**5**を繰り返します。

6 終了を押して、メニューを消す

●「チャンネル設定」をした地上アナログチャンネルは、チャンネルスキップ設定が自動的に「受信」に設定されます。
● 手動設定をしたあとで、「地上A自動設定」44や「はじめての設定」29をすると、手動設定をした内容が消えますので再度設定をしてください。

■ CATV(ケーブルテレビ)について
● CATVの受信は、サービスの行われている地域でだけ可能で、使用する機器ごとにCATV会社との受信契約が必要です。さらに、スクランブルのかかった有料放送の視聴、録画には、ホームターミナル(アダプター)が必要になります。詳しくは、CATV会社にご相談ください。

チャンネル設定 つづき

手動設定 つづき

地上デジタル放送の場合

● はじめて地上デジタル放送のチャンネル設定をする場合は、「初期スキャン」45をしてください。「初期スキャン」が行われていない状態では、「手動設定」はできません。

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上D」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1あ～12っ)の番号を▲·▼で選び、決定を押す

4 ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶で地上デジタルのチャンネルを選ぶ

● ◀·▶を押すと次のように切り換わります。
(◀·▶を押し続けると、チャンネルを早く切り換えることができます)

テレビ ⟷ データ ⟷ 地上デジタルのチャンネルを順に選局

● 「チャンネル」の欄に「−−−」が表示されているときは、その番号のボタンにチャンネルが設定されていません。

■「テレビ」または「データ」を選んだ場合

● 手順3で選んだ番号のボタンに、同じ放送局の複数のテレビ放送チャンネルまたは複数のデータ放送チャンネルがまとめて設定されます。

❶ ▲·▼で「放送局」を選ぶ
❷ 設定したい放送局名を◀·▶で選ぶ

(例) 手順3で「6」を選び、ここで「テレビ」を選ぶと、視聴時の操作で6はMNOを押すたびに、「TBS」の「テレビ」チャンネルが順次選局できます。

■地上デジタルのチャンネルを選んだ場合

● 手順3で選んだ番号のボタンに、ここで選んだ地上デジタルのチャンネルだけが設定されます。
※「放送局」の欄には選んだチャンネルの放送局名が表示されます(これを変えることはできません)。

(例) 手順3で「6」を選び、ここで「地上D071」を選ぶと、視聴時の操作で6はMNOを押したときに071チャンネルだけが選局できます。

5 決定を押す

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順3～5を繰り返します。

6 終了を押して、メニューを消す

お知らせ
● 手動設定をしたあとで、「初期スキャン」45や「はじめての設定」29をすると、手動設定をした内容が消えますので再度設定をしてください。

BSデジタル放送の場合

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「BS」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1 NHK1 〜 10 スター)の番号を▲·▼で選び、決定を押す

4 ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶でBSデジタルのチャンネルを選ぶ

- ◀·▶を押すと次のように切り換わります。（◀·▶を押し続けると、チャンネルを早く切り換えることができます）

テレビ ⟷ ラジオ ⟷ データ ⟷ BSデジタルのチャンネルを順に選局 ⟷ テレビ

- 「チャンネル」の欄に「−−−」が表示されているときは、その番号のボタンにチャンネルが設定されていません。

■「テレビ」、「データ」、または「ラジオ」を選んだ場合

- 一つのボタンに、同じ放送局の複数のテレビ放送チャンネル、または複数データ放送のチャンネル、または複数のラジオ放送チャンネルがまとめて設定されます。

❶ ▲·▼で「放送局」を選ぶ

❷ ◀·▶で設定したい放送局名を選ぶ

(例) 手順**3**で「4」を選び、ここで「テレビ」を選ぶと、視聴時の操作で 4 BS日テレ を押すたびに、「BS日テレ」のテレビ放送チャンネルが順次選局できます。

■BSデジタルのチャンネルを選んだ場合

- 手順**3**で選んだ番号のボタンに、ここで選んだBSデジタル放送のチャンネルだけが設定されます。

※「放送局」の欄には選んだチャンネルの放送局名が表示されます（これを変えることはできません）。

(例) 手順**3**で「4」を選び、ここで「BS141」を選ぶと、視聴時の操作で 4 BS日テレ を押したときに141チャンネルだけが選局できます。

5 決定を押す

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順3 〜 5を繰り返します。

6 終了を押して、メニューを消す

チャンネル設定 つづき

手動設定 つづき

110度CSデジタル放送の場合

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「110度CS」を選び、決定を押す

3 設定を変更したいリモコンボタン(1 NHK1 ～ 10 スター)の番号を▲·▼で選び、決定を押す

4 ▲·▼で「チャンネル」を選び、◀·▶で110度CSデジタルのチャンネルを選んで、決定を押す

- ◀·▶を押すとすべてのチャンネルが番号順に切り換わります。
  (◀·▶を押し続けると、チャンネルを早く切り換えることができます)
- 放送メディアを指定することはできません。
- リモコンの 1 NHK1 ～ 10 スター を押したときに、ここで選んだチャンネルが選局されます。
- 「チャンネル」の欄に「−−−」が表示されているときは、その番号のボタンにチャンネルが設定されていません。
- 「放送局」の欄には、選んだチャンネルの放送局名が表示されます。(放送局名を変えることはできません)

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順3、4を繰り返します。

5 終了を押して、メニューを消す

チャンネル設定の内容を削除する

- デジタル放送のチャンネル設定の内容を削除できます。

1 以下の操作で「手動設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「チャンネル設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「手動設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「地上D」、「BS」、「110度CS」のどれかを選び、決定を押す

3 設定内容を削除したい「リモコン」の番号を▲·▼で選び、決定を押す

4 ▲·▼で「設定を削除する」を選び、決定を押す

※ 他のボタンの設定も変更する場合は、手順3、4を繰り返します。

5 を押して、メニューを消す

チャンネルスキップ設定

● [チャンネル] で選局するときに、不要なチャンネルを飛び越すことができます。

● CATVチャンネルは、お買い上げ時は「スキップ」になっています。受信するには、以下の手順で「受信」に設定してください。

1 以下の操作で「チャンネルスキップ設定」画面にする

❶ [メニュー] (リモコンとびら内)を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、[決定] を押す

❸ ▲･▼で「チャンネル設定」を選び、[決定] を押す

❹ ▲･▼で「チャンネルスキップ設定」を選び、[決定] を押す

2 設定したい放送の種類を ▲･▼で選び、[決定] を押す

3 スキップ設定を変更したいチャンネルを ▲･▼で選び、[決定] を押す

地上Aチャンネルスキップ設定

リモコン	チャンネル	放送局	スキップ
1	1	NHK総合	受信
2	2		スキップ
3	3	NHK教育	受信
4	4	日本テレビ	受信
5	16	放送大学	受信
6	6	TBS	受信

(例) 手順**2**で「地上A」を選んだ場合

● [決定] を押すたびに「受信」⇔「スキップ」と交互に切り換わります。

● デジタル放送の放送メディアを変えるときは [ラジオ/データ] (リモコンとびら内)を押します。

● [1] ～ [12] に割り当てたCATVチャンネル(C13 ～ C38)は、「リモコン」欄が1 ～ 12よりも下のリストで「設定済み」として表示されます。

※ **他のチャンネルの設定をする場合は、手順3を繰り返します。**
(違う放送のチャンネルを設定する場合は、 を押し、手順**2**の操作から行ってください)

4 を押して、メニューを消す

■ 受信・スキップの設定ができるチャンネル

● **地上アナログ放送**
[1] ～ [12] に割り当てられた地上アナログ放送とCATVチャンネル、その他のCATVチャンネル

● **デジタル放送**
受信可能なチャンネル

■ 自動設定をしたあとのチャンネルスキップ設定

● **地上アナログ放送**
[1] ～ [12] にチャンネルが割り当てられているボタンは「受信」、チャンネルが割り当てられていないボタンは「スキップ」に設定されています。

● **地上デジタル放送**
スキップ設定はありません。

● **CATV/BS・110度CSデジタル放送**
自動設定前と同じです。

チャンネル設定を最初の状態に戻す

● チャンネル設定をお買い上げ時の状態に戻します。

1 以下の操作で「チャンネル設定」画面にする

❶ [メニュー] (リモコンとびら内)を押す

❷ ▲･▼で「初期設定」を選び、[決定] を押す

❸ ▲･▼で「チャンネル設定」を選び、[決定] を押す

2 ▲･▼で「初期設定に戻す」を選び、[決定] を押す

3 ◀･▶で「はい」を選び、[決定] を押す

4 [終了] を押して、メニューを消す

■ **チャンネルスキップ設定について**

● 「手動設定」をしたチャンネルは、自動的に「受信」に設定されます。

● 一つの放送局が同じ番組を複数のチャンネルで放送しているときは、その中の一つのチャンネルをスキップに設定すると、その放送局をスキップします。

■ **チャンネル設定を最初の状態に戻す場合について**

● チャンネル設定をお買い上げ時の状態に戻すと、地上デジタル放送は受信できません。「初期スキャン」45 をしてください。
(「データ放送用メモリーの割当て」34 や、お客様が本機に記憶させた住所・氏名などの個人情報、お客様のポイント数などはそのままです)

データ放送設定

郵便番号と地域の設定

- 「はじめての設定」が済んでいる場合は、この設定は不要です。
- お住まいの地域に応じたデータ放送、緊急警報放送などの視聴や、ダイヤルアップ通信をする際に、もよりのアクセスポイントを利用するための設定で、地域は「初期スキャン」45とは別に設定できます。

1 以下の操作で「郵便番号と地域の設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲·▼で「データ放送設定」を選び、決定を押す

❹ ▲·▼で「郵便番号と地域の設定」を選び、決定を押す

2 お住まいの地域の郵便番号を 1 〜 10 0で入力し、決定を押す

- 上3ケタを入力して決定を押すと、残り4ケタは自動的に「0」が入力されます。

郵便番号と地域の設定
お住まいの郵便番号を入力してください。
1 0 5 - 8 0 0 1

3 該当する地方を ▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

- 「設定しない」を選んだ場合は、手順**5**に進みます。

4 該当する地域を ▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

- 伊豆、小笠原諸島地域の方は「東京都島部」を選んでください。
- 南西諸島の鹿児島県地域の方は「鹿児島県島部」を選んでください。

5 終了を押して、メニューを消す

文字スーパー表示の設定

- デジタル放送には文字スーパー表示機能があり、災害時の速報などに使用されます。複数言語の文字スーパーに対応した番組の場合には、本機で表示する言語を選択することができます。お買い上げ時は日本語優先になっています。

1 以下の操作で「文字スーパー表示設定」画面にする

❶ 左の手順1の❶〜❸をする

❷ ▲·▼で「文字スーパー表示設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「表示する」または「表示しない」を選び、決定を押す

- 「表示しない」を選んだ場合は、手順**4**に進みます。

3 ▲·▼·◀·▶で言語を選び、決定を押す

- 日本語／英語／ドイツ語／フランス語／イタリア語／ロシア語／中国語／韓国語／スペイン語から選ぶことができます。

4 終了を押して、メニューを消す

ルート証明書番号を確認する

- ルート証明書は、地上デジタル放送の双方向サービスで、本機と接続するサーバーの認証をする際に使用されます。これによって、双方向通信の安全性を高めることができます。
- ルート証明書は地上デジタル放送によって、放送局から送られます。本機内に記録された証明書番号を以下の手順で確認することができます。

1 以下の操作で「ルート証明書番号」画面にする

❶ 左の手順1の❶〜❸をする

❷ ▲·▼で「ルート証明書番号」を選び、決定を押す

2 ルート証明書番号を確認し、決定を押す

3 終了を押して、メニューを消す

■ 郵便番号と地域の設定について
- 「はじめての設定」29とここでの設定では、地方、都道府県、地域の設定のしかたが異なっています。これは「はじめての設定」では「地上A/D放送チャンネル設定」と同時にまとめて設定しているためです。
- データ放送を受信している状態で設定をした場合、放送によっては、設定終了後そのままの状態では設定内容は反映されません。設定終了後に再度データ放送を受信し直してください。

■ 文字スーパー表示の設定について
- 「表示する」に設定した場合、設定した言語の文字スーパーがあるときは、その言語で表示します。設定した言語が視聴している放送にない場合は、その放送に従って表示されます。

■ ルート証明書番号の確認について
- ルート証明書の詳しい情報は、東芝家電ご相談センター(裏表紙参照)にルート証明書番号を伝えてお問い合わせください。

通信設定

電話回線設定

● 電話回線設定は、デジタル放送で双方向サービスを利用する場合や、番組購入情報の送信をする場合などに必要です。

1 以下の操作で「電話回線設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「通信設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「電話回線設定」を選び、決定を押す

電話回線設定	
ダイヤル方式	トーン
外線発信番号	設定なし
電話会社の設定	設定なし
電話番号通知設定	設定しない
電話回線テスト	
待ち時間の設定	

2 設定したい項目を▲·▼で選んで決定を押し、下表(次ページまで)の手順に従って設定する

3 を押して、メニューを消す

設定項目	説明および操作手順
ダイヤル方式	● 「はじめての設定」の「電話回線設定」 32 の手順14、15をご覧ください。 (「はじめての設定」の「電話回線設定」が終わっている場合は、ここでの設定は不要です)
外線発信番号	● 電話をかけるときに、電話番号の前に「0」や「#」などの外線発信番号を付ける必要があるときに設定してください。 ❶ ▲·▼で「外線発信番号あり」を選び、決定を押す ❷ 「はじめての設定」の「電話回線設定」 31 の手順13の操作で外線発信番号を入力する ❸ 外線発信後の待ち時間を設定する(通常は「自動設定する」に設定してください) ▲·▼で「自動設定する」を選び、決定を押す ※「自動設定する」の設定で、次ページの「電話回線テスト」が失敗となる場合は、▲·▼で「時間を指定する」を選び、◀·▶で時間を選択して、決定を押します。 • 設定範囲は2秒～9秒(秒単位)です。
電話会社の設定	● 本機からの発信時に、マイラインやマイラインプラスを使いたい場合や、通常使用する電話会社以外の電話会社を使いたいときに設定します。 ❶ ▲·▼で「電話会社を設定する」を選び、決定を押す ❷ ▲·▼でマイラインプラス(優先接続サービス)に「加入していない」または「加入している」を選び、決定を押す ❸ 1～10/0で電話会社を入力し、決定を押す • 最大8ケタまで設定できます。 • 間違って入力した場合は、◀で前のケタに戻り、もう一度入力してください。
電話番号通知設定	● 本機から電話の発信をしたときに、電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。 ❶ ▲·▼でお好みの設定を選び、決定を押す • **通知しない**…本機は電話番号の最初に「184」をつけてダイヤルします。 • **通知する**………本機は電話番号の最初に「186」をつけてダイヤルします。 • **設定しない**…本機は何もつけずにダイヤルします。この場合は、NTTとの「ナンバーディスプレイ」の契約のとおりとなります。

次のページにつづく

■ 外線発信番号の設定について
● 手順❸で「時間を指定する」に設定した場合には、ダイヤルトーン検出をしません。
ダイヤルトーンのレベルが低い場合は、「時間を指定する」に設定してください。その場合、以下の自動判定やテストでは回線の接続と設定の確認はできません。次ページの「電話回線テスト」の「センター接続テスト」で確認してください。
• 「ダイヤル方式の設定」の自動判定(32)
• 「電話回線テスト」(次ページ)
• 「簡易確認テスト」(32 、 57)での電話回線テスト

■ 電話会社の設定について(マイラインプラスに加入している場合)
● 手順❷で「加入している」に設定してください。手順❸で設定した電話会社での回線発信ができます。
● 手順❷で「加入していない」に設定すると、手順❸で電話会社を設定しても回線発信ができなくなります。
● 手順❸で電話会社番号が未入力の場合は、手順❶の「電話会社を設定しない」に自動的に設定されます。

通信設定 つづき

電話回線設定 つづき

設定項目	説明および操作手順
電話回線テスト	● 電話回線の接続と設定が正しく行われているかを確認します。 ❶ ▲･▼で「電話回線テスト」または「センター接続テスト」を選ぶ • **電話回線テスト**………… 本機と電話回線の接続・設定が正しく行われているか確認します。テストの結果については 33 をご覧ください。 • **センター接続テスト**…… 本機とセンターの電話回線の接続が正しく行われているか確認します。テストの結果については下のお知らせをご覧ください。 **（このテストは電話料金がかかります）** ❷ 電話回線の接続状態を確認して、決定を押す ❸ テストが終了したら、決定を押す
待ち時間の設定	● 本機から電話の発信をしたいときに、「電話番号通知」、「マイラインプラス解除番号」、「電話会社指定番号」のあとにダイヤルまでの待ち時間が必要な場合に設定してください。 ❶ ▲･▼で「電話番号通知」、「マイラインプラス解除番号」または「電話会社指定番号」の設定したいどれかを選び、決定を押す ❷ ◀･▶でダイヤル待ち時間を選択し、決定を押す • 設定できる内容は、「設定しない」、「1秒」〜「9秒」です。

■ センター接続テストの結果

センター接続テスト結果のメッセージ表示	内容または対処のしかた
「センターと電話回線が正常に接続されたことを確認しました。」	● 正しく接続されています。
「センターと通信できませんでした。	● 「電話回線の接続」25 と、「電話回線設定」を確認してください。
「ただいまセンターがこみあっているため、センターと通信できません。」	● しばらくしてから、もう一度センター接続テストをしてください。
「ただいまセンターと通信できません。」	

■ 待ち時間の設定について

● 表示が「－－」になっている項目に対してダイヤルまでの待ち時間は設定できません。
各項目で「－－」表示になる場合は以下のとおりです。

- 電話番号通知設定で「設定しない」に設定した場合
- マイラインプラス（優先接続サービス）に「加入していない」に設定した場合
- 電話会社の設定で「電話会社を設定しない」に設定した場合

通信接続設定

- 「通信環境設定」は、「LAN端子の接続」 26 をした場合および、デジタル放送のダイヤルアップ通信による双方向サービスを利用する場合に設定します(ダイヤルアップ通信には、「電話回線の接続」 25 と「電話回線設定」 53 、 54 が必要です)。
- 「LAN端子設定」は、「LAN端子の接続」をした場合に設定します。ご契約のプロバイダーから設定内容の指定がある場合は、それをもとに設定します。(ダイヤルアップでのインターネット通信の設定はしないでください)

1 以下の操作で「通信接続設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「初期設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「通信設定」を選び、決定を押す
❹ ▲·▼で「通信接続設定」を選び、決定を押す

通信接続設定	
通信環境設定	イーサネット優先
LAN端子設定	

2 設定したい項目を▲·▼で選んで決定を押し、下表(次ページまで)の手順に従って設定する

3 設定を有効にするには、本体の電源ボタンで電源を切り、もう一度電源を入れる

設定項目		説明および操作手順
通信環境設定		● 番組(コンテンツ)によっては、通信方式をダイヤルアップ通信に指定してくる場合があり、その場合にダイヤルアップ通信を行うようにするか、しないかを設定します。 ❶ ▲·▼で「イーサネット」または「イーサネット優先」を選び、決定を押す • **イーサネット**…………ダイヤルアップ通信を使用しない場合に選びます。 • **イーサネット優先**……イーサネット通信を優先して接続しますが、データ放送でダイヤルアップ通信が指定された場合はダイヤルアップ通信に切り換わります。通常はこちらを選びます。
LAN端子設定	IPアドレス設定	● インターネットに接続するために、本機に割り当てられる固有の番号を設定します。 ※ 以下の手順で「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNS設定」の「DNSアドレス自動取得」は、自動的に「しない」に設定されます。その場合は、DNSアドレスを手動で設定してください。 ❶ ▲·▼で「IPアドレス設定」を選び、決定を押す ❷ IPアドレスを自動取得できる場合は、◀·▶で「する」を選ぶ **■ IP アドレスを自動取得できないネットワーク環境の場合** ① ◀·▶で「しない」を選ぶ ② ▲·▼で「IPアドレス」を選び、1～10/0で入力する ③ ▲·▼で「サブネットマスク」を選び、1～10/0で入力する ④ ▲·▼で「デフォルトゲートウェイ」を選び、1～10/0で入力する • 手順②～④では、最大3ケタの数字(「0」～「255」を入力します。ただし、左端の欄には「0」は入力できません)を一組として、4箇所の欄に入力します。次の組(欄)に移動するには、▶を押します。間違って入力した場合は、◀を押してもう一度入力します。 ❸ 決定を押す

個別に設定をするとき

■ 通信環境設定について
- 「イーサネット優先」に設定した場合、何らかの原因(たとえばADSLモデムの故障など)でイーサネット通信ができないときには、ダイヤルアップ通信もできなくなることがあります。
- 実際に接続・設定している環境と異なる項目を選ぶと正常に働きません。

■ IPアドレス設定について
- 本機に接続されたルーターのDHCP機能がONのときは、「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。(通常は、「する」に設定してください。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です)
- ルーターのDHCP機能がOFFのときは、「自動取得」を「しない」にして、手動で設定してください。
- 手動で設定する際は、他の接続機器とIPアドレスの右端の欄の数値が重複しないように設定してください。また、設定する固定IPアドレスはプライベートアドレスでなければなりません。
- 設定終了後、本機に設定されたIPアドレスとルーターのローカル側に設定されたIPアドレスの左端の欄～ 3番目の欄までの数値がそれぞれ同じであることを確認してください。(詳しくは、ルーターの取扱説明書をご覧ください)

通信設定 つづき

通信接続設定 つづき

	設定項目	説明および操作手順
LAN端子設定	DNS設定	● ドメイン名をIPアドレスに置き換える機能を持ち、IPアドレスで特定されているDNSサーバーを設定します。 ※「IPアドレス設定」で「IPアドレス自動取得」を「しない」に設定した場合は、「DNSアドレス自動取得」は自動的に「しない」に設定され、「する」にはできません。DNSアドレスを手動で設定してください。 ❶ ▲･▼で「DNS設定」を選び、決定を押す ❷ DNSアドレスを自動取得できる場合は、◀･▶で「する」を選ぶ ■ DNSアドレスを自動的に割り当てられないネットワーク環境の場合 ① ◀･▶で「しない」を選ぶ ② ▲･▼で「DNSアドレス（プライマリ）」を選び、1～10(0)で入力する ③ ▲･▼で「DNSアドレス（セカンダリ）」を選び、1～10(0)で入力する • 手順②と③では、最大3ケタの数字（「0」～「255」を入力します。ただし、左端の欄には「0」は入力できません）を一組として、4箇所に入力します。次の組（欄）に移動するには、▶を押します。 ❸ 決定を押す
	プロキシ設定	● インターネットとの接続時にプロキシ（代理）サーバーを経由する場合に設定します。 ● ご契約のプロバイダーから指定がある場合にだけ設定してください。 ● ここでのプロキシ設定はHTTPに関するものです。 ❶ ▲･▼で「プロキシ設定」を選び、決定を押す ❷ ▲･▼で「使用する」を選び、決定を押す ❸ ▲･▼で「サーバー名」を選び、決定を押す ❹ サーバー名を入力する • 文字入力のしかたは操作編 22 をご覧ください。 • 入力できる文字は半角英字／半角数字で、記号は半角の!"#% &()*+,-.:;<=>@[¥]^{¦}˜?_/です。 ❺ ▲･▼で「ポート番号」を選び、1～10(0)でポート番号を入力する ❻ ▲･▼で「設定完了」を選び、決定を押す
	MACアドレス	● ネットワーク上につながっている機器を識別するために本機に割り当てられている番号です。 ❶ ▲･▼で「MACアドレス」を選び、決定を押す ❷ MACアドレスを確認したら、終了を押す
	接続テスト	●「LAN端子設定」が正しく行われているかテストします。 ❶ ▲･▼で「接続テスト」を選び、決定を押す ❷ 接続テストをする場合は、決定を押す（テスト結果のメッセージについては下の「お知らせ」を参照） ❸ 終了を押して、メニューを消す

■ DNS設定について

● 本機に接続されたルーターのDHCP機能がONのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「する」「しない」のどちらでも設定できます。（通常は、「する」に設定してください。「しない」に設定した場合は手動での設定が必要です）

● 本機に接続されたルーターのDHCP機能がOFFのときは、DNSアドレスの「自動取得」を「しない」にして、プロバイダーから指定れたものを手動で設定してください。（プロバイダーによって設定方法が異なります。プロバイダーとの契約内容に沿った設定をしてください）

■ LAN端子設定の接続テストについて

接続テスト結果のメッセージ表示	内容または対処のしかた
「接続を確認しました。」	● 正しく設定されています。
「接続できませんでした。通信設定をご確認ください。」	●「LAN端子の接続」26 および前ページと上記の「LAN端子設定」で、接続・設定の状態を確認してください。 ● LAN端子の各設定を有効にするには、必ず設定後に本体の電源ボタンで電源を一度切って、もう一度入れ直してください。
「接続できませんでした。LAN 端子の接続をご確認ください。」	

● 接続テストの結果、正しく通信できなかった場合は、以下を確認してください。

(1)「LAN端子設定」を確認する

• 正しく設定されているかご確認ください。設定内容については、ルーターの設定内容に関係することがありますのでご注意ください。（ルーターの設定については、ルーターの取扱説明書をご覧ください）

(2) ネットワーク環境の接続確認

• 以下の手順で本機と同一ネットワーク上に接続されたパソコンからインターネットに接続できるか確認します。

❶ パソコンのインターネット・ブラウザ（Internet Explorerなど）を起動する

❷ URL欄に「http://www.toshiba.co.jp/」を入力し、ページが表示されることを確認する

• ページが正しく表示されない場合は、接続されているパソコン、ルーターの設定が正しいか確認してください（詳しくは、パソコン、ルーターの取扱説明書をご覧ください）。この場合、本機の問題ではない可能性があります。

簡易確認テスト

接続確認メッセージ設定

- データ放送でのダイヤルアップ通信の接続や切断をする際に、確認のメッセージを表示させることができます。
- お買い上げ時は､｢表示する｣に設定されています。

1 以下の操作で｢通信設定｣画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲･▼で｢初期設定｣を選び､決定を押す

❸ ▲･▼で｢通信設定｣を選び､決定を押す

2 ▲･▼で｢接続確認メッセージ設定｣を選び､決定を押す

3 ▲･▼で｢表示する｣または｢表示しない｣を選び､決定を押す

- アクセスポイントにダイヤルアップ接続する場合やダイヤルアップ接続が切断される場合に、確認の画面を表示するかどうかが設定されます。
- 設定が完了して前画面に戻ります。

4
終了を押して、メニューを消す

通信エラー履歴

- 通信エラー履歴は、回線接続エラーが生じた場合に、一番新しい接続エラーを1件だけ記録して表示します。

※ **この通信エラー履歴は、放送局へのお問い合わせの際に必要になる場合があります。**

1 以下の操作で｢通信設定｣画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲･▼で｢初期設定｣を選び､決定を押す

❸ ▲･▼で｢通信設定｣を選び､決定を押す

2 ▲･▼で｢通信エラー履歴｣を選び､決定を押す

- エラー履歴があれば表示されます。

3 内容を確認し､決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

- 地上D受信テスト、BS･110度CS受信テスト、B-CASカードテスト、電話回線テストをまとめて行います。
- 通信についてのテストは、前ページの｢接続テスト｣をしてください。

1 以下の操作で｢初期設定｣画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲･▼で｢初期設定｣を選び､決定を押す

2 ▲･▼で｢簡易確認テスト｣を選び､決定を押す

- 受信テストは、BSデジタル→110度CSデジタル→地上デジタルの順に行います。

- 簡易確認テスト結果については、33 の表をご覧ください。

■｢地上D受信テスト｣の伝送チャンネルを変えるには

❶ ◀･▶で伝送チャンネルを選ぶ

- 受信テストが始まり、結果が表示されます。

❷ 他の伝送チャンネルをテストする場合は、手順❶と同じ操作をする

※ お住まいの地域の地上デジタル放送で使用されている伝送チャンネルがわからない場合は､｢地上D受信テスト｣を省略して、実際の放送が視聴できるか確認してください。

3 簡易確認テストが終了したら､決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

■ 接続確認メッセージ設定について

- 以下の場合は｢表示する｣に設定してもメッセージは表示されません。
  - 番組購入情報の送信時(操作編12)

■ 通信エラー履歴について

- おもなエラーメッセージの対処のしかたは、操作編の47～48をご覧ください。

選局機能設定

キーワードを登録する

● 番組検索で指定するキーワードをあらかじめ登録することができます。

1 メニュー(リモコンとびら内)を押し、▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「選局機能設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「キーワード登録」を選び、決定を押す

4 ▲·▼·◀·▶で「新規登録」を選び、決定を押す

5 登録したいキーワードを入力して、決定を押す

● 文字の入力については「文字入力をする」(操作編 22)をご覧ください。
● キーワードは14個登録できます。
● 一つのキーワードは最大で全角15文字まで入力できます。

■キーワードを変更する場合

❶変更したいキーワードを選択して、決定を押す
❷▲·▼で「編集する」を選び、決定を押す
❸キーワードを修正して、決定を押す

■キーワードを削除する場合

❶削除したいキーワードを選択して、決定を押す
❷▲·▼で「削除する」を選び、決定を押す
❸◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

6 ▲·▼·◀·▶で「登録完了」を選び、決定を押す

7 終了を押して、メニューを消す

地上A番組表設定

● 地上アナログ放送の番組表を表示するかしないか設定します。お買い上げ時は「オン」に設定されています。

1 メニュー(リモコンとびら内)を押し、▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「選局機能設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で「地上A番組表設定」を選び、決定を押す

4 ▲·▼で「オン」または「オフ」を選び、決定を押す

• **オン**……地上アナログ放送の番組表を表示する。
• **オフ**……地上アナログ放送の番組表を表示しない。

※ 地上アナログ放送の番組表を使うにはインターネットの常時接続と設定が必要です。(「LAN端子の接続」26、「通信接続設定」55 をご覧ください)

5 終了を押して、メニューを消す

視聴制限設定

視聴年齢制限設定

● デジタル放送では番組ごとに視聴年齢が設定されている場合があります。視聴年齢制限のある番組を見るには設定が必要です。
● お買い上げ時には、視聴年齢制限は設定されていません。

1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す
❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す
❸ ▲·▼で「視聴制限設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「視聴年齢制限設定」を選び、決定を押す

● 暗証番号の入力画面になります。暗証番号を設定していない場合は、先に次ページの操作で暗証番号を設定してください。

3 1あ～10小文字0で暗証番号を入力する

4 ◀·▶で年齢を設定し、決定を押す

● 設定できる年齢は、4歳から20歳までです。
● 視聴年齢制限機能を使わない場合は、「20歳(制限しない)」に設定してください。

5 終了を押して、メニューを消す

● 視聴時の動作および操作は以下のとおりです。

■ 番組の設定年齢が、設定した年齢よりも上の場合

● メッセージが表示されます。
● 決定を押し、1あ～10小文字0で暗証番号を入力してください。

■ 本機に暗証番号や視聴年齢制限が設定されていない場合

● 視聴年齢制限のある番組を見ることはできません。
● 決定を押し、設定が必要な項目を設定してください。

番組購入限度額設定

● ペイ・パー・ビュー番組の1番組ごとの購入限度額を設定します。設定した限度額を超える番組を購入するには、暗証番号の入力が必要です。
● お買い上げ時には、「すべての購入を制限しない」に設定されています。

1 左の手順1の操作で「視聴制限設定」画面にする

2 ▲·▼で「番組購入限度額設定」を選び、決定を押す

● 暗証番号の入力画面になります。暗証番号を設定していない場合は、先に次ページの操作で暗証番号を設定してください。

3 1あ～10小文字0で暗証番号を入力する

4 ▲·▼で制限モードを選ぶ

・ **すべての購入を制限する**……ペイ・パー・ビュー番組を購入する場合に暗証番号の入力が必要です。
・ **限度額を設定**……設定した限度額を超える番組の場合、暗証番号の入力が必要です。
・ **すべての購入を制限しない**……購入制限はしません。

5 「限度額を設定」を選んだ場合、◀·▶で限度額を選ぶ

● 以下のように設定できます。
・ 100円～ 1,000円の範囲で100円単位
・ 1,000円～ 3,000円の範囲で500円単位
・ 3,000円～ 10,000円の範囲で1,000円単位

6 決定を押す

7 終了を押して、メニューを消す

■ 番組購入限度額設定について
● 番組によって視聴料金と録画料金が異なる場合は、高いほうの金額にあわせて制限します。

視聴制限設定 つづき

暗証番号の設定・削除

● 暗証番号は、ペイ・パー・ビュー番組を購入するときや、視聴年齢制限が設定されている番組を見るときなどに使われます。

● 暗証番号を忘れた場合の消去は有料になりますので、暗証番号を忘れないようにご注意ください。暗証番号を忘れた場合は、東芝家電修理ご相談センター(裏表紙参照)にご連絡ください。

暗証番号の設定

1 以下の操作で「視聴制限設定」画面にする

❶ メニュー(リモコンとびら内)を押す

❷ ▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

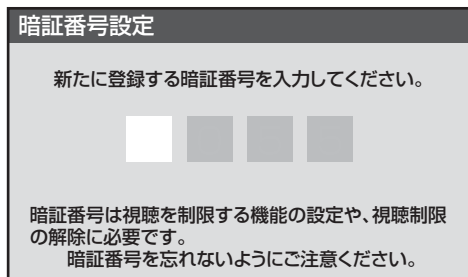
❸ ▲·▼で「視聴制限設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「暗証番号設定」を選び、決定を押す

■ はじめて暗証番号を登録する場合

● 登録したい暗証番号(4ケタの数字)を1～10₀で入力してください。

● 間違えて入力した場合は、◀を押し、もう一度入力してください。

※ 入力した数字は画面には「＊」で表示されます。

■ 暗証番号を変更する場合

● 変更する前の暗証番号を1～10₀で入力してください。

3 1～10₀でもう一度暗証番号を入力し、確認画面で決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

暗証番号の削除

1 左の手順2で「暗証番号削除」を選び、決定を押す

2 1～10₀で暗証番号を入力する

3 確認画面で、◀·▶で「はい」を選び、決定を押す

4 終了を押して、メニューを消す

機能設定

HDMI音声入力設定

● お買い上げ時は「オート」に設定されており、通常は設定を変える必要はありません。
「オート」で、41に図示したHDMIアナログ音声入力端子への音声用コードを接続しても音声が出ない場合は、以下の手順で「アナログ」に設定してください。

1 メニュー(リモコンとびら内)を押し、▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「HDMI音声入力設定」を選び、決定を押す

3 ▲·▼で以下の項目から選び、決定を押す

機能設定	
選局機能設定	オート
視聴制限設定	デジタル
省エネ設定	アナログ
HDMI音声入力設定	
ビデオ入力表示設定	
番組購入情報	
B−CASカード番号表示	
ソフトウェアのダウンロード	

- オート……… 自動切換をします。
- デジタル…… HDMI入力端子からの音声が出ます。
- アナログ…… HDMIアナログ音声入力端子からの音声が出ます。

4 を押して、メニューを消す

ビデオ入力表示設定

● ビデオ入力を切り換えたときに表示される機器の名称(ビデオ、DVDなど)を変更することができます。

1 メニュー(リモコンとびら内)を押し、▲·▼で「機能設定」を選び、決定を押す

2 ▲·▼で「ビデオ入力表示設定」を選び、決定を押す

3 設定するビデオ入力を▲·▼で選び、決定を押す

ビデオ入力表示設定	
ビデオ1設定	VTR
ビデオ2設定	VTR
ビデオ3設定	ゲーム
HDMI設定	DVD
初期設定に戻す	

4 設定する機器名を▲·▼·◀·▶で選び、決定を押す

ビデオ入力表示設定		ビデオ1設定
VTR	D−VHS	DVD
デジタル	CSデジタル	DVDレコーダー
ゲーム	レーザーディスク	ケーブルテレビ
表示しない		

5 終了を押して、メニューを消す

■ ビデオ入力表示をお買い上げ時の状態に戻すには

❶ 上記手順3で「初期設定に戻す」を選び、決定を押す
❷ ◀·▶で「はい」を選び、決定を押す
❸ 終了を押して、メニューを消す

● お買い上げ時の状態
- ビデオ1 …… VTR
- ビデオ2 …… VTR
- ビデオ3 …… ゲーム
- HDMI……… DVD

■ ビデオ入力表示設定について
●「ゲーム」に変更したビデオ入力を選ぶと、ゲームに適した画質と画面サイズに切り換わります。

音声設定

※ 音声設定は、操作編 36 にもあります。

光デジタル音声出力の設定

- 光デジタル音声出力は、「PCM」、「デジタルスルー」、「サラウンド優先」の三つのモードから選ぶことができます。
- お買い上げ時は、「PCM」に設定されています。
- MPEG-2 AACデコーダー、AACデコーダー内蔵アンプ、AC3デコーダーをつなぐときは、「デジタルスルー」または「サラウンド優先」に設定してください。

1 クイック を押す

2 ▲·▼で「音声設定」を選び、決定 を押す

3 ▲·▼で「光デジタル音声出力」を選び、決定 を押す

4 ▲·▼で信号を選び、決定 を押す

- PCM……………………リニアPCM信号が出力されます。
- デジタルスルー ……MPEG-2 AAC、またはAC3信号の場合、それらの信号が出力されます。
- サラウンド優先 ……MPEG-2 AAC、またはAC3信号で、マルチCHステレオ音声(5.1CHや4.1CHステレオ音声など)の場合にはそれらの信号が出力されます。それ以外の場合にはリニアPCM信号が出力されます。

5 終了 を押して、メニューを消す

- メニュー(リモコンとびら内)を押して、メニューから「音声設定」を選ぶこともできます。
- 背面の「光デジタル音声出力」からは、テレビのスピーカー音と同じ音が出力されます。ただし、音声調整(低音、高音、バランス)とWOWの効果は得られません。
- 光デジタル音声出力設定が「デジタルスルー」や「サラウンド優先」に設定されている場合で、MPEG-2 AAC、またはAC3音声のときには、データ放送の一部の音声(効果音など)が、光デジタル音声出力端子からは出力されないことがあります。

お買い上げ時の状態に戻すには（設定内容を初期化するには）

● お買い上げの状態に戻す設定内容は3種類あります。目的に合わせて行ってください。

※ 初期化をすると初期化前の状態に戻すことはできませんのでご注意ください。

設定項目	内　容
初期化1	以下の項目以外の設定項目をお買い上げ時の状態に戻します。 • チャンネル設定、機能設定の［暗証番号設定、視聴年齢制限設定、番組購入限度額設定］ お好みに設定した項目を設定し直すときに行うと便利です。
初期化2	「初期化1」の項目に加えてチャンネル設定が初期化されます。
すべての初期化	本機に設定されたすべての内容をお買い上げ時の状態に戻します。 ※ **この初期化は、データ放送の個人情報（住所、氏名、視聴ポイント数など）についてもすべて初期化されますので、本機を廃棄処分する場合や他の人に譲り渡す場合にのみ行ってください。**

1 以下の操作で「設定の初期化」画面にする

❶ メニュー（リモコンとびら内）を押す

❷ ▲・▼で「初期設定」を選び、決定を押す

❸ ▲・▼で「設定の初期化」を選び、決定を押す

2 ▲・▼で「初期化1」、「初期化2」、または「すべての初期化」を選び、決定を押す

● 初期化される項目の内容は、上の表をご覧ください。

設定の初期化

初期化1
初期化2
すべての初期化

設定項目を初期化します。
ただし、チャンネル設定、暗証番号入力が必要な設定は初期化されません。

■ すべての初期化をする場合

● 暗証番号入力画面が表示された場合は暗証番号を入力してください。

3 初期化する場合は ◀・▶ で「はい」を選び、決定を押す

※ 初期化したあとに初期化前の状態に戻すことはできません。

4 初期化終了の画面で決定を押す

5 終了を押して、メニューを消す

お買い上げ時の状態に戻すには つづき

■お買い上げ時の状態

項目		設定内容	
映像メニュー		あざやか	
ユニカラー		100	
明るさ		100	
黒レベル		00	
色の濃さ		00	
色あい		00	
画質		00	
カラーイメージコントロール		オン	
ベースカラー調整		色あい	色の濃さ
	レッド	00	00
	グリーン	00	+08
	ブルー	00	+08
	イエロー	00	00
	マゼンダ	00	00
	シアン	00	00
MPEG NR		弱	
ダイナミックNR		オート	
ヒストグラムバックライト制御		オン	
上下振幅調整		00	
上下画面位置		00	
左右振幅調整		00	
ファインシネマ		オート	
ステレオ/モノラル		ステレオ	
音声調整	バランス	00	
	高音	00	
	低音(D端子以外)	00	
WOW	SRS 3D	オフ	
	FOCUS	オン	
	TruBass	強	
光デジタル音声出力		PCM	
地上A番組表設定		オン	
視聴年齢制限設定		未設定	
番組購入限度額設定		制限しない	
省エネ設定	消費電力	標準	
	番組情報取得設定	取得する	
	無操作自動電源オフ	動作しない	
	オンエアー無信号オフ	待機にする	
	外部入力無信号オフ	待機にする	
HDMI音声入力設定		オート	
ビデオ入力表示設定	ビデオ1設定	VTR	
	ビデオ2設定	VTR	
	ビデオ3設定	ゲーム	
	HDMI設定	DVD	
自動スキャン		自動スキャンする	
チャンネルスキップ設定		CATV:スキップ、その他の放送:受信	
文字スーパー表示設定	表示設定	表示する	
	言語設定	日本語	
放送からの自動ダウンロード		ダウンロードする	
放送からの任意ダウンロード予約		予約なし	
ダウンロードの自動確認		確認しない	
BS·110度CSアンテナ電源供給		供給する	

項目		設定内容
ダイヤル方式		トーン
外線発信番号		設定なし
電話会社の設定		設定なし
電話番号通知設定		設定しない
待ち時間設定	電話番号通知	設定しない
	マイラインプラス解除番号	設定しない
	電話会社指定番号	設定しない
通信環境設定		イーサネット優先
LAN端子設定	IPアドレス設定	自動取得する
	DNS設定	自動取得する
	プロキシ設定	使用しない
接続確認メッセージ設定		表示する
テレビdeナビ設定	RD本体名	未設定
	ユーザー名	未設定
	パスワード	未設定
	ポート設定	80
	連動ライン入力番号	ライン入力3
番組表	文字サイズ変更	普通
	番組表色分け設定	青:映画、赤:スポーツ、緑:音楽
	スキップチャンネル表示設定	スキップチャンネル表示
画面サイズ	525i/525p(4:3)	スーパーライブ
	1125i/750p(16:9)	フル
	ゲームモード	ゲームフル
オフタイマー		オフ
音多切換		主音声
字幕		字幕オフ
降雨対応放送		通常の放送
音量		30

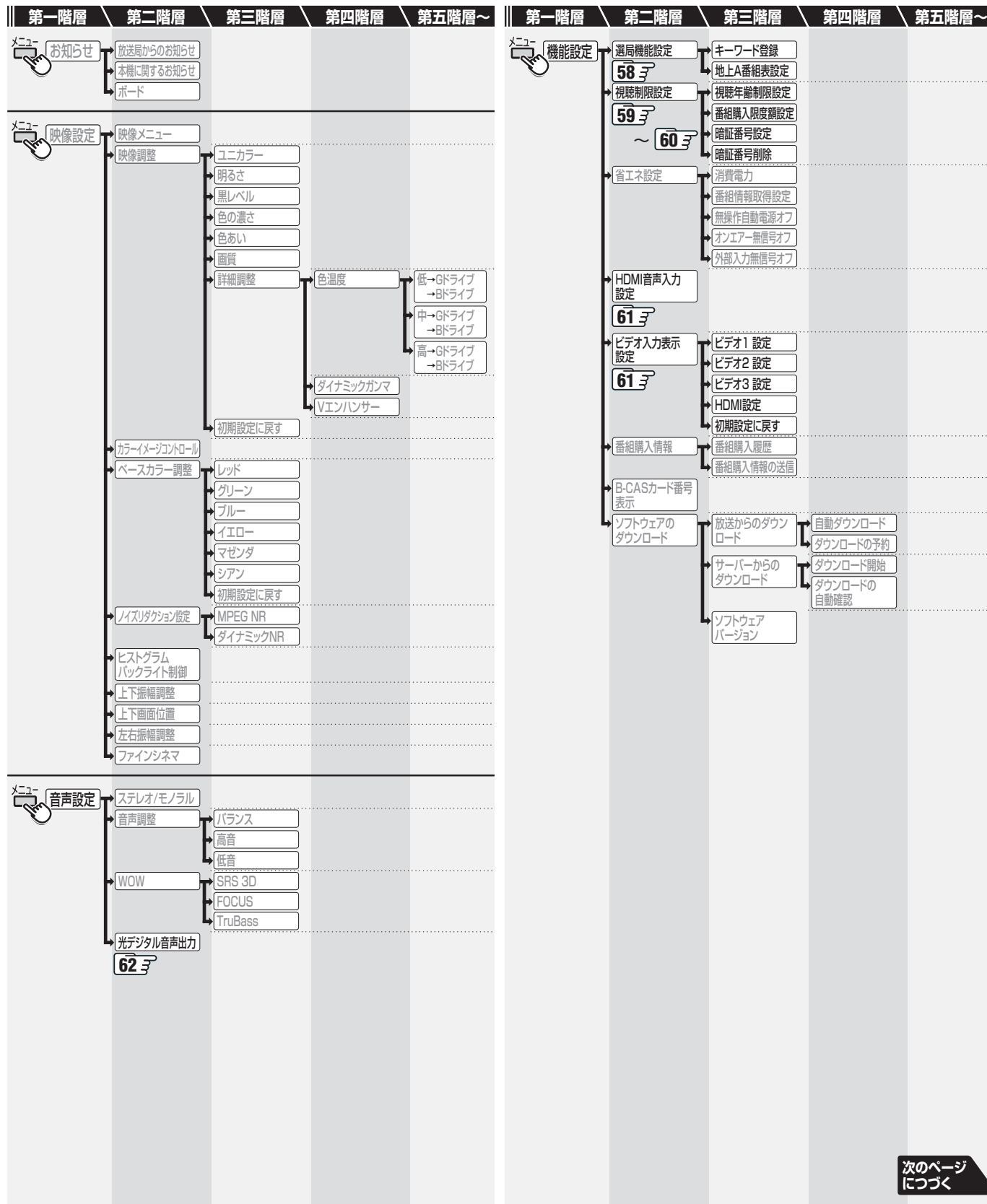
メニュー 一覧

● 設定・調整のメニュー 一覧を下図に示します。(薄く記載している部分は、別冊「操作編」で使用する部分です)
「操作編」のメニュー 一覧は、操作編 50 ～ 51 をご覧ください。

● メニューで選択できる項目は接続機器などによって変わり、選択できない項目はメニュー画面で薄く表示されます。

次のページにつづく

その他

メニュー一覧 つづき

第一階層
第二階層
第三階層
第四階層
第五階層〜
メニュー
初期設定
はじめての設定 29
アンテナ設定
地上Dアンテナレベル 27
BS・110度CS アンテナレベル 28
BS・110度CS アンテナ電源供給 28
BS中継器切換 44
110度CS中継器切換 44
チャンネル設定
地上A自動設定 44〜45
地上D自動設定 45〜46
初期スキャン
再スキャン
自動スキャン
手動設定 47〜50
地上A
地上D
BS
110度CS
チャンネル スキップ 設定 51
地上A
地上D
BS
110度CS
初期設定に戻す 51
データ放送設定 52
郵便番号と地域の設定
文字スーパー表示設定
ルート証明書番号
通信設定
電話回線設定 53〜54
ダイヤル方式
外線発信番号
電話会社の設定
電話番号通知設定
電話回線テスト
待ち時間の設定
通信接続設定 55〜56
通信環境設定
LAN端子設定
IPアドレス設定
DNS設定
プロキシ設定
MACアドレス
接続テスト
接続確認 メッセージ設定 57
通信エラー履歴 57
テレビdeナビ設定 38
簡易確認テスト 57
設定の初期化 63

保証とアフターサービス

必ずお読みください

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびに、お取り扱い・お手入れに関するご不明な点は **お買い上げの販売店にご相談ください。**

販売店に修理のご相談ができない場合

東芝家電修理ご相談センター

フリーダイヤル 0120-1048-41

携帯電話・PHSからのご利用は
東日本地区（北海道、東北、関東、甲信越、東海、沖縄県）044-543-0220
西日本地区（上記以外）06-6440-4411

電話で 365日 24時間 お応えします

お買い物、お取り扱いのご相談

東芝家電ご相談センター

フリーダイヤル 0120-1048-86

携帯電話・PHSからのご利用は 03-3426-1048
FAX 03-3425-2101（365日：8:00～20:00受付）

- 「東芝家電修理ご相談センター」「東芝家電ご相談センター」は東芝テクノネットワーク株式会社が運営しております。
- お客様からご提供いただいた個人情報は、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する東芝グループ会社や協力会社にお客様の個人情報を提供する場合があります。

※電話受付：365日・24時間受け付けます。 ※フリーダイヤルは、携帯電話・PHSなど一部の電話ではご利用になれません。

ホームページに最新の商品情報などを掲載しておりますので、ご参照ください。

http ://www.toshiba.co.jp/product/tv/

※上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。このような場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ（http://www.toshiba.co.jp/）をご参照ください。

保証書（別添）

●保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと、たいせつに保管してください。

保証期間……お買い上げの日から1年間です。
B-CASカードは、保証の対象から除きます。

補修用性能部品の保有期間

●液晶テレビの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後8年です。
●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

●修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は弊社で引き取らせていただきます。
●修理の際、弊社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理を依頼されるときは～出張修理

●「操作編」40ページにしたがって調べていただき、なお異常があるときは本体の電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

■保証期間中は

修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているとき

修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

■修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。	
技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

■ご連絡いただきたい内容

品名	地上・BS・110度CSデジタルハイビジョン液晶テレビ
形名	26C1000, 32C1000, 37C1000
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も合わせてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	
便利メモ お買い上げ店名	おぼえのため、ご購入年月日、ご購入店名を記入されると便利です。 TEL（ ） ー

廃棄時のお願い

●**一般の廃棄物といっしょにしないでください。**ごみ廃棄場で処分されるごみの中にテレビを捨てないでください。本機の蛍光管の中には水銀が含まれています。廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

愛情点検

長年ご使用の液晶テレビの点検をぜひ！ 熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合いによって部品が劣化し、故障したり、ときには安全性を損なって事故につながることもあります。

ご使用の際このような症状はありませんか?
●電源を入れても映像や音が出ない。
●映像が時々、消えることがある。
●変なにおいがしたり、煙が出たりする。
●電源を切っても、映像や音が消えない。
●内部に水や異物がはいった。

ご使用中止

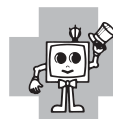
このような場合、故障や事故防止のため、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、必ずお買い上げの販売店に点検・修理をご相談ください。
ご自分での修理は危険ですので、絶対にしないでください。

●有機物質を含んだ廃液が少ない、水なし印刷方式で作成しました。

●この印刷物は環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。

R100 ●この印刷物は古紙配合率100％再生紙を使用しています。

株式会社 東芝
デジタルメディアネットワーク社

〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1
※所在地は変更になることがありますのでご了承ください。

ちょっとした心づかいでテレビの安全

TD/T2 VX1A00002000